

松阪農林事務所管内

白 紙

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	松阪市
-----	-----

当年度交付金額	66,601,000	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	------------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 里山の森林安全安心対策事業	2.暮らしに身近な森林づくり	39,051,300	39,051,300	0
2 森林環境学習事業	3.森を育む人づくり	2,891,160	2,891,160	0
3 都市公園整備事業	4.木の薫る空間づくり	9,160,000	9,160,000	0
4 保育園管理運営事業	3.森を育む人づくり	15,498,540	15,498,540	0
合計		66,601,000	66,601,000	0

白 紙

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	松阪市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	里山の森林安全安心対策事業
事 業 費	39,089,520 円(うち交付金 39,051,300 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	集落や公共施設周辺の森林で、森林の持つ公益的機能が発揮されない状態にある森林や特定水源地域に指定された環境林を対象に、森林所有者や地域の自主防災組織等と連携し、集落の安全と安心を確保するとともに水源涵養機能の向上を図ることを目的に森林整備を行う。
2. 事業実績概要	【事業内容】 該当地域において、関係者と連携して現地調査を行い、森林の境界の確認・測量及び間伐等の森林整備を行った。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 松阪市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 森林整備箇所:6箇所(私有林他)、支障木伐採箇所:12箇所 (別紙のとおり) 【事業量】 森林整備箇所:6箇所(44.52ha)、支障木伐採箇所:12箇所(822本) 【事業実施期間】 平成29年8月 ～ 平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 整備によって安全と安心が確保される戸数43戸、市道、国道 蓮ダム(水源涵養機能の向上)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 自主防災組織や自治会長等と共同して、緊急性、公共性の高い箇所から効率的に実施した。 【実施した効果】 集落周辺の森林が整備されたことにより、地域住民の生活環境の向上や道路の安全性が確保された。また、地域の自主防災組織や自治会長等と連携することにより、地域の里山を見直すきっかけとなり、継続的な取組ができた。特定水源地域に指定された森林が整備されたことにより水源涵養機能の向上が図れた。 【実施箇所の今後の管理体制】 所有者が管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 事業地に看板を設置し、「みえ森と緑の県民税」を活用したことを周知することで、暮らしに身近な森林づくりの重要性を啓発する。 【実施内容に対する住民等の反応】 人家裏等、直接被害を及ぼす範囲を伐採し、さらに山側の間伐を行ったことで、森林が整備され、安全性が確保されたことにより、地域住民からは、台風時等の心配が軽減され、喜んでいただいた。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	松阪市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	里山の森林安全安心対策事業
事 業 費	39,089,520 円(うち交付金 39,051,300 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託 【実施方法の選定理由】 委託することで実施における安全面と専門的な技術の確保が可能となるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 市と森林所有者及び認定林業事業体の3者において、将来にわたって「災害に強い森林づくり協定」を締結しているため。 【事業費の積算根拠】 測量調査 約2百万円、間伐 44.27ha 約26百万円、牽引間伐・皆伐 0.25ha 約2百万円、支障木伐採 約10百万円	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 地域住民戸数43戸、市道、国道とし、被害等の影響を及ぼす範囲を保全対象としている。 蓮ダム(水源涵養機能の向上)を図ることで、不特定多数を保全対象としている。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者との協定により、適切な維持管理と転用等を行わないように制限をかけている。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林所有者との協定により、転用等を行わないように制限をかけている。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 地域の住民や自治会長に、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。 【実施中の実績】 工事看板により、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。 【実施後の実績】 事業地に看板を設置して、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。 【今後の見込】 より一層の周知に努める。(地域の掲示板等による周知やアンケート調査)	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
平成26年度からの継続事業。平成26～29年度の4ヶ年で38箇所を実施している。	

作 業 内 容	備 考
測量調査等	5.32km
間伐(飯南町下仁柿字奥ノ谷)	4.78ha
間伐(嬉野宮野町字宮野廣)	0.49ha
間伐(小片野町字佛坂)	1.54ha
間伐(飯高町栗野字福山ノ上)	1.08ha
間伐(飯高町乙栗子字中定)	6.15ha
間伐(飯高町猿山字大栃)区域1	14.34ha
間伐(飯高町猿山字大栃)区域2	9.48ha
間伐(山室町字高峰)ちとせの森	6.41ha
牽引間伐・皆伐(飯南町下仁柿字奥ノ谷)	0.07ha
牽引間伐・皆伐(小片野町字佛坂)	0.07ha
牽引間伐・皆伐(飯高町栗野字福山ノ上)	0.04ha
牽引間伐・皆伐(嬉野宮野町字宮野廣)	0.07ha
支障木伐採(飯高町下滝野字ニシガヒロ)	杉・桧・雑木・竹182本
支障木伐採(飯高町宮前字西ノハシ)	杉・雑木5本
支障木伐採(飯高町下滝野字中ノ郷)	杉・桧・雑木・竹73本
支障木伐採(飯高町七日市字木戸口)	雑木5本
支障木伐採(藤之木町字岡崎山)	雑木3本
支障木伐採(嬉野権現前町字そわの島)	杉・桧・雑木・竹50本
支障木伐採(飯高町栗野字上山ノ上)	杉・桧120本
支障木伐採(飯高町宮前字野中)	雑木1本
支障木伐採(山室町字高峰)ちとせの森	杉・桧・雑木367本
支障木伐採(飯南町深野字岩井谷)	杉・雑木12本
支障木伐採(宝塚町)	雑木3本
支障木伐採(飯高町富永字灰野)	松1本

対策区分

2.暮らしに身近な森林づくり

市町名

松阪市

事業名

里山の森林安全安心対策事業

7. 写真



写真1

森林整備(支障木伐採 着手前)
人家に樹木が倒れる恐れがある



写真2

森林整備(支障木伐採 写真1の完成)
人家に樹木が倒れる恐れがある



写真3

森林整備(支障木伐採 着手前)
人家に樹木が覆いかぶさっている



写真4

森林整備(支障木伐採 写真3の完成)
人家に樹木が覆いかぶさっている



写真5

森林整備(特定水源地域の間伐)
PR標柱設置状況

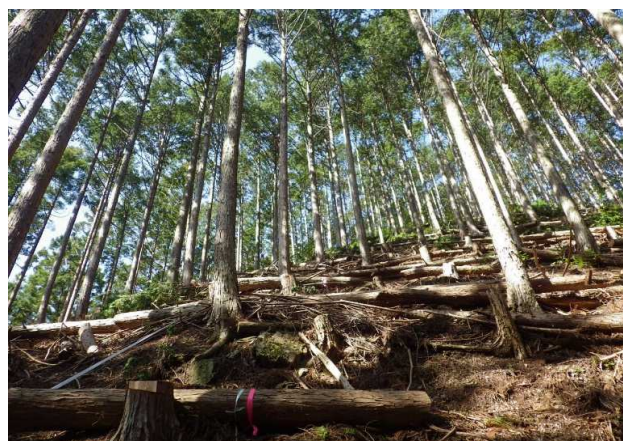


写真6

森林整備(特定水源地域の間伐)
水源涵養機能の向上

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	松阪市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	森林環境学習事業
事 業 費	2,891,160 円(うち交付金	2,891,160 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	市内の小学校の教室等を松阪地域の木材を使用して木質化し、児童を対象に森林の持つ機能や木材の特性についての「木育」を実施し、将来の森林の『担い手』を育成する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 松阪地域の木材を使用し、小学校の教室を木質化する。また、小学生を対象に森林環境保全や森林整備についての森林環境教育を実施した。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 松阪市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 2箇所（松阪市立鵜小学校、松阪市立漕代小学校） 【事業量】 鵜小学校：1階玄関ホールまわり壁面の木質化 1箇所(延べ面積50㎡)、漕代小学校：図書室壁面の木質化 1箇所(延べ面積50㎡)、森林環境教育 【事業実施期間】 平成29年5月 ～ 平成30年1月 【受益者、参加者、利用者数等】 松阪市立鵜小学校：3年生、5年生（児童数40名）、松阪市立漕代小学校：5年生、6年生（児童数34名）
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 小学校と連絡をとり森林環境学習についての目的などを説明し、積極的な学校から日程調整を行い進めている。 【実施した効果】 児童達が、市産材で木質化された教室で学ぶことにより、木材とのふれあいが進む。また、森林環境学習をすることにより、木材の活用や森林づくりへの理解が深まった。 【実施箇所の今後の管理体制】 木質化については、小学校で維持管理を行っていく。また、森林環境学習については、施設等整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 森林環境保全や森林整備についての森林環境教育を実施していく。 【実施内容に対する住民等の反応】 対象児童にアンケートを実施し、高評価(興味や理解の深まり)を得ており、継続して実施していく。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	松阪市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	森林環境学習事業
事 業 費	2,891,160 円(うち交付金 2,891,160 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託 【実施方法の選定理由】 委託することで、専門的な立場から森林環境学習の重要性を認識した上で、適切な教育を実施することができるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 森林・林業に携わる関係者による組織であり、森林・林業に精通し、また、普段から小学生を対象とした森林学習のイベントを開催するなど、適切な教育を実施することができるため。 【事業費の積算根拠】 小学校2校の木質化 約135万円、森林環境学習 約130万円、その他諸経費	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 鵜小学校の全児童(106名)、漕代小学校の全児童(81名)とその保護者及び学校関係者としている。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林環境学習であり、また公共施設の木質化であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 報道機関への資料提供により、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。 【実施中の実績】 のぼり旗により、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。 【実施後の実績】 閉会式等の際に、税を活用して実施したことを周知した。 【今後の見込】 税を活用したこれまでの事業実績を他の小学校に紹介し理解を深めることで、積極的な取組を継続していく。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
平成26年度より市内の36校で継続的に実施予定。平成26～29年度の4ヶ年で 7校実施している。	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	松阪市
事業名	森林環境学習事業		

7. 写真



写真1

森林環境学習(原木市場見学) 漕代小学校



写真2

森林環境学習(製材工場見学) 鵜小学校



写真3

森林環境学習(丸太切り体験) 漕代小学校



写真4

森林環境学習の授業の様子 鵜小学校



写真5

森林環境学習(木工工作) 漕代小学校



写真6

図書室の壁面の木質化 漕代小学校

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	松阪市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基本・特別	都市公園整備事業
事 業 費	10,247,040 円(うち交付金 9,160,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	公共空間である公園において市産材の木材利用を促進し、木材と市民の関係を深める。
2. 事業実績概要	【事業内容】 都市公園内の東屋及びベンチを市産材で木質化する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 松阪市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 9箇所（平成町1号公園、平成町3号公園、桜町4号公園、虹が丘町1号公園、塚本町堂ノ前公園、船江町内方公園、日丘町1号公園、日丘町2号公園、日丘町6号公園） 【事業量】 東屋2棟（延床面積9.0㎡/棟、市産材使用量0.88㎡/棟）、ベンチ19基（市産材使用量1.79㎡） 【事業実施期間】 平成29年11月～平成30年2月 【受益者、参加者、利用者数等】 平成町受益戸数 795世帯、桜町受益戸数 471世帯、虹が丘町受益戸数 598世帯、塚本町受益戸数 284世帯、船江町受益戸数 525世帯、日丘町受益戸数 539世帯
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 利用者の多い箇所から効率的に実施した。 【実施した効果】 多くの市民に利用される公園において、市産材で東屋やベンチを建築することにより、市民が木材とふれあう機会が増え、木材の活用や森林づくりへの理解が深まった。 【実施箇所の今後の管理体制】 市において、点検の実施など維持管理を行っていく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 チラシ等の配布により、森林の大切さや緑の循環などの説明をし、意識を高める。 【実施内容に対する住民等の反応】 地域住民にとって、東屋やベンチが整備されたことで、憩いの場所ができ喜んでいる。また、材料が木材ということで温かみがあり、木に対する親しみを感じていることから、継続して取組んでいく。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	松阪市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基本・特別	都市公園整備事業
事 業 費	10,247,040 円(うち交付金 9,160,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事請負 【実施方法の選定理由】 請負することで実施における安全面と専門的な技術の確保が可能となるため。また、競争入札により経費の節減にも繋がる。 【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札落札率:84.91% 【契約相手方の選定理由】 入札条件に適合した参加者により、一般競争入札を行い、落札した業者である。 【事業費の積算根拠】 東屋2棟 約7.6百万円、ベンチ19基 約2.5百万円
5. 公益性（波及度）	【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 公園があるそれぞれの町内において、自治会単位による世帯数を受益者としている。(平成町795世帯、桜町471世帯、虹が丘町598世帯、塚本町284世帯、船江町525世帯、日丘町539世帯) 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設の整備であるため、転用等が想定されず、該当しない。
6. 周知実績と今後の周知	【実施前の実績】 地域の住民や自治会長に、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。 【実施中の実績】 のぼり旗により、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。 【実施後の実績】 事業地に看板の設置やシールを貼付け、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。 【今後の見込】 今年度同様、住民や自治会長への説明や、のぼり旗、看板を設置して、より一層の周知を行っていく。
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	平成26年度より市内の公園で継続的に実施しており、広く市民に木材とふれあう機会を提供している。 平成26～29年度の4ヶ年で15箇所(市産材使用量9.58m3)実施している。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	松阪市
事業名	都市公園整備事業		

7. 写真



写真1
都市公園整備 東屋
平成町1号公園



写真2
都市公園整備 東屋
平成町3号公園



写真3
都市公園整備 背無ベンチ
虹が丘町1号公園



写真4
都市公園整備 背付ベンチ
日丘町6号公園



写真5
PR標柱設置状況



写真6
ロゴマーク入りシール貼付状況

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

松阪市

事業名

都市公園整備事業

平成町自治会様

株式会社 宮本組

公園整備工事に伴うご連絡とお願い

日頃より松阪市公共事業に御理解、御協力いただき、ありがとうございます。

この度は、平成町1号公園、平成町3号公園にて公園整備をさせて頂く

ことになりました。

なお、工事場所につきましては、右の図を参照願います。

御迷惑おかけしますが、御理解御協力をよろしくお願い申し上げます。

工事期間： 1月22日～2月14日(予定)

※工事区域への立入はご遠慮願います。

※路面・現地の諸条件により日程の変更が生じることがありますが

ご協力をお願い致します。

作業時間： 8:30 ～ 17:00 (昼間)

施工業者：株式会社 宮本組

本社 TEL 0598-51-4545

発 生 者：松阪市 建設部 土木課 公園係

事務所 TEL 0598-53-4167

本工事で施工する四阿(東屋)はみえ森と緑の県民税を活用しています。詳しくは別紙をご覧ください。



みえ森と緑の県民税について

森林は土砂災害を防止したり、水を貯えるなど、私たちの暮らしに欠かすことのできない大切な働きを持っています。しかし、近年は山村地域の過疎化や高齢化などによって荒れた森林が増加しており、集中豪雨の発生が増加していることも考えあわせると、山崩れなどの災害が発生する危険性が高まっていると考えられます。

このようなことから、三重県では「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、平成26年4月1日から「みえ森と緑の県民税」を導入されました。

○みえ森と緑の県民税のしくみ(個人)

納める方	1月1日現在で三重県内に住所がある個人、家庭数等を有する個人(個人の県民税均等割の納税義務者)
納める金額	年額1,000円
納税の方法	個人の県民税として、個人の市町村税とあわせて、市町に納税していただきます。
評価制度	みえ森と緑の県民税評価委員会を設置し、事業結果などについて評価検証などを行うとともに、結果は県民のみなさんに公表します。

Q なぜ、全ての県民が納めるのですか？

A 森林は、木材生産だけではなく、水を貯える、地球温暖化を防ぐ、山崩れや洪水を防止するなど、私たちの生活に欠かさない大切な役割を果たしています。この森林からもたらされる恵みは全ての県民が受けていることから、県民のみなさんに幅広く負担していただくことにしました。

Q 子どもからお年寄りまで全ての県民が納めるのですか？

A 県民税均等割の超過課税ですので、個人県民税を納める方が対象になります。従って、個人県民税が非課税となる方(所得が無い未成年者や所得金額が一定の金額以下となる方など)には課税されません。

Q どのようなことに使われるのですか？



木の薫る空間づくり

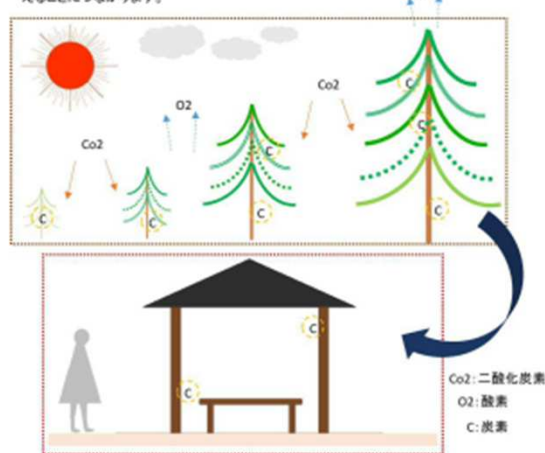
—— 木材の利用について ——

○地球温暖化防止への貢献

地球温暖化は、大気中に存在する二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度が上昇することが原因だと考えられています。地球温暖化を防ぐためには、大気中への二酸化炭素放出を減らし、さらに、大気中から二酸化炭素を取り除く必要があります。

植物には、半永久的に利用可能な太陽からの光エネルギーを利用して、大気中の二酸化炭素を有機物として固定するという重要な働きがあり、特に樹木は幹や枝などの形で大量の炭素を蓄えています。

今回の工事では松阪産の木材を使用した四阿(あずまや)を設置します。木材を利用することは、木材中の炭素を長期間にわたって貯蔵することにつながり、二酸化炭素の放出を抑えることにつながります。



みえ森と緑の県民税を活用していることと木材利用が地球温暖化防止に貢献することを周知するチラシ

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	松阪市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基本・特別	保育園管理運営事業
事 業 費	15,498,540 円(うち交付金	15,498,540 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	市内の保育園の机・椅子を木質化し、木材と市民の関係を深める。
2. 事業実績概要	【事業内容】 市内の保育園の机・椅子を市産材で木質化した。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 松阪市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 5箇所（駅部田保育園、花岡保育園、若草保育園、三郷保育園、第一保育園） 【事業量】 保育園 5園：机 123脚、椅子 471脚（駅部田保育園：机 31脚、椅子 113脚 花岡保育園：机 28脚、椅子 100脚 若草保育園：机 28脚、椅子 107脚 三郷保育園：机 28脚、椅子 101脚 第一保育園：机 8脚、椅子 50脚） 【事業実施期間】 平成29年12月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 5園：園児数 480名（駅部田保育園：85名、花岡保育園：87名、若草保育園：99名、三郷保育園：94名、第一保育園：115名） その保護者及び保育園関係者
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 保育園職員と打ち合わせ・確認等を行い選定した。 【実施した効果】 園児達が、市産材で木質化された机・椅子にふれることで、木材とのふれあいが進み、木の持つ独特の温かみや香りなど、木の良さが実感できた。 【実施箇所の今後の管理体制】 保育園において物品の維持管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 「保育園だより」等で、森林の大切さや緑の循環など、木材利用の意義を説明していく。 【実施内容に対する住民等の反応】 園児が木材とふれあう機会が増えたことで、木に対する親しみや温もりが感じられ、室内全体が柔らかな空間となり、園児達も喜んでいる。また、絵を描いたりする時にはビニールシートを敷くなど、物を大切に作る心を育てられ高評価を得ている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	松阪市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基本・特別	保育園管理運営事業
事 業 費	15,498,540 円(うち交付金	15,498,540 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 物品売買契約 【実施方法の選定理由】 森林環境づくりに配慮した家具を保育園に配備するため。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 市内の小学校で市産材を使用した机・椅子の納入実績があり、また、市内で唯一市産材で家具製造ができる業者であるため。 【事業費の積算根拠】 3歳児用机・セット 約8万円など
5. 公益性（波及度）	【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 駅部田保育園の全園児(85名)、花岡保育園の全園児(87名)、若草保育園の全園児(99名)、三郷保育園の全園児(94名)、第一保育園の全園児(115名)とその保護者及び保育園関係者としている。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設の物品購入であるため、転用等が想定されず、該当しない。
6. 周知実績と今後の周知	【実施前の実績】 「保育園だより」等により、園児保護者や園関係者に、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。 【実施中の実績】 物品購入であり、「実施中」に該当する期間がないため、実施前後に周知した。 【実施後の実績】 机・椅子に「みえ森と緑の県民税ロゴマーク入りシール」を貼付けることで周知を行った。 【今後の見込】 保育園の掲示板等や保護者参観日等の機会を通じて、一層の周知を行っていく。
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	平成26年度より市内の22園で継続的に実施しており、未就学児に木材とふれあう機会を提供している。 平成26～29年度の4ヶ年で15園に机・椅子を導入している。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	松阪市
事業名	保育園管理運営事業		

7. 写真



写真1

購入した机・椅子の設置状況



写真2

購入した椅子に「みえ森と緑の県民税ロゴマーク入りシール」の貼付け状況



写真3

購入した机に「みえ森と緑の県民税ロゴマーク入りシール」の貼付け状況



写真4

掲示板で「みえ森と緑の県民税」の周知と森林の大切さや必要性を説明

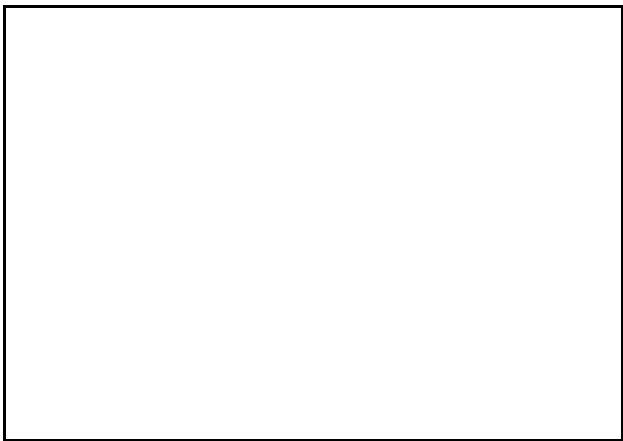


写真5

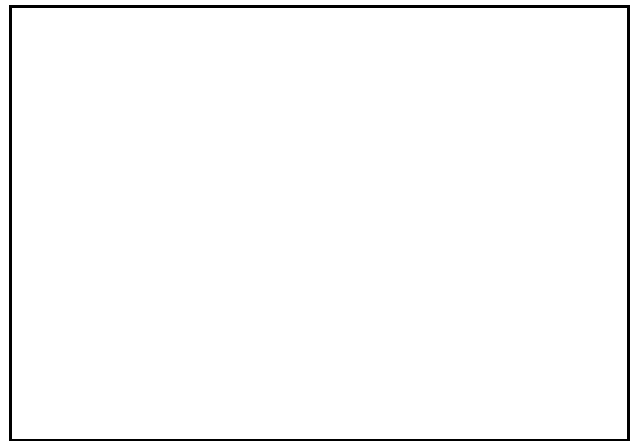


写真6

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	多気町
-----	-----

当年度交付金額	21,710,000	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	------------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 県産材を活用した学校机・イス整備事業	3.森を育む人づくり	8,210,000	8,210,000	0
2 竹林整備事業	2.暮らしに身近な森林づくり	13,500,000	13,500,000	0
合計		21,710,000	21,710,000	0

白 紙

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	多気町
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	県産材を活用した学校机・イス整備事業
事 業 費	8,210,000 円(うち交付金 8,210,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	木材は柔らかで温かみのある感触を有するとともに、室内の温度変化を緩和させ、快適性を高める等優れた性質を備えている。町内の小学生に県産材の木材について学びふれあう機会を提供するとともに温かみと潤いのある教育環境づくりを進める。
2. 事業実績概要	【事業内容】 5年間で町内小学校へ県産材を活用した机・イスの整備を行う。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 多気町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 5箇所（相可小学校、佐奈小学校、津田小学校、外城田小学校、勢和小学校） 【事業量】 町内全小学校の平成29年4月入学生分56セット、平成30年4月入学生分161セット 【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 町内全小学校の平成29年4月入学の小学1年生 56人、平成30年4月入学の小学1年生 161人 計217人とその保護者
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 町内の全小学校を対象 【実施した効果】 机とイスはすべて部材を県産材の木材を使用しており、木材の温かみを感じてもらい、6年間の学校生活を通して愛着を深め緑や木に関心を持ってもらうきっかけになる。また、木材によるやわらかい空間づくりで快適な室内環境を整える。 【実施箇所の今後の管理体制】 各小学校が管理する。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 県産材の木材について学びふれあう機会を作り、感受豊かな子供たちを育てる。 【実施内容に対する住民等の反応】 県産材でできた机・イスは手触りが良く、子供たちには良い学習環境になっている。机・イスは木でできているため重い、その重さが木への愛着へとつながるのではとの意見をいただいた。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	多気町
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	県産材を活用した学校机・イス整備事業
事 業 費	8,210,000 円(うち交付金	8,210,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町が購入し各小学校に配布した。 【実施方法の選定理由】 町立小学校の備品購入であるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 見積り入札 【契約相手方の選定理由】 平成26年度からの継続事業であり、以前購入した机・イスと規格を揃えるため、同等のものを製作している業者で見積もりを取った。 【事業費の積算根拠】 製品カタログを参考にした。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 平成29年度新入学生は不足分を購入し、平成30年度新入生は事業費内で購入できる数とした。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林整備ではないため該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 机・イスの備品購入のため該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 町内各小学校へのポスター掲示 【実施中の実績】 町内各小学校へのポスター掲示 【実施後の実績】 町の広報へ机・イスの整備について記事掲載。 【今後の見込】 多気町文化会館にてポスターを掲示し町民に周知する。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	多気町
事業名	県産材を活用した学校机・イス整備事業		

7. 写真



写真1

取り入れた机・イスに座っての授業風景



写真2

取り入れた机・イスに座っての授業風景



写真3

検査写真



写真4

検査写真

TOPICS OF TAKI TOWN



学校名	入学者数
相可小学校	38
佐奈小学校	8
津田小学校	12
外城田小学校	10
勢和小学校	33
勢和中学校	43
多気中学校	120

4月6日に町内各小中学校で入学式が行われ、来賓・保護者・在校生が温かく見守る中、新1年生が誕生しました。小学校新入学児童には三重県産材を活用した机・椅子が、みえ森と緑の県民税市町交付金事業を活用して購入され、新1年生は木のぬくもりのある真新しい机で授業に取り組んでいます。



NEWS I

入学おめでとう
ございます

町内のイベントや出来事を紹介します。

まちの

の た 袖 源 主 袖
NEWS
NEWS

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	多気町
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基本・特別	竹林整備事業
事 業 費	13,514,040 円(うち交付金	13,500,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	竹林を整備することにより他の樹木の生長を促し、森林が持つ機能を発揮させるとともに、景観の保全を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 多気町内において竹林を整備する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 多気町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1カ所(相可地内) 【事業量】 1.0ha 【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 相可地区住民(1,452人)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 要望があった竹の手入れがされておらず、放置されている竹林を選定した。 【実施した効果】 竹を伐採したことで景観が良くなった。また、公園や墓地に浸食していた竹がなくなったため、利用者が増えた。 【実施箇所の今後の管理体制】 多気町で維持管理。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 竹林伐採後は多気町で管理している。ポスターにて町民に対して周知する。 【実施内容に対する住民等の反応】 住民では手入れが難しかった。整備後は見栄えが良くなり竹で覆われていた墓地、公園が明るくなり利用しやすくなった。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	多気町
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基本・特別	竹林整備事業
事 業 費	13,514,040 円(うち交付金 13,500,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による委託業務契約 【実施方法の選定理由】 墓地や公園、道路に繁茂している竹林で町事業によって一体的に整備できるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札 【契約相手方の選定理由】 森林整備などの実績を伴う業者で指名競争入札を行う 【事業費の積算根拠】 竹林整備の設計単価がないので、業者の見積による。8,000本/haの伐採・集積 約2.3百万円、運搬 約2.0百万円、重機経費(回送含む) 約3.2百万円、その他(作業道開設、警備員配置、諸経費等)	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 相可地区住民(1, 452人) 【管理責任者（森林所有者）への対応】 管理責任者(森林所有者) 多気町のため多気町が管理していく。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 多気町管理のため、転用の恐れがなく、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 間伐を実施した地区の区長さんと隣接した地区の区長さんに電話と回覧板にて当事業の概略などを説明した。 【実施中の実績】 工事看板に当事業を活用していることを明示した。また、工事看板に当事業の旗をくくりつけ周知した。 【実施後の実績】 整備後は標柱を建てた。 【今後の見込】 多気町文化会館にてポスターの掲載と町広報への掲載。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	多気町
事業名	竹林整備事業		

7. 写真



写真1

工事看板



写真2

標柱



写真3

警備員配置



写真4

整備前



写真5

町内集積場



写真6

整備後

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	明和町
-----	-----

当年度交付金額	6,476,000	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	-----------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 学校木製備品購入事業	3.森を育む人づくり	6,476,000	6,476,000	0
合計		6,476,000	6,476,000	0

白 紙

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	明和町
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基本・特別	学校木製備品購入事業
事 業 費	6,982,740 円(うち交付金	6,476,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	小学校の学校備品(授業用机や椅子等)を三重県産木製品に取り換えることで、森林・林業への理解を深め、森林や緑を大切に思う温かい心を育む。 木のぬくもりを通して身近に森林や緑とふれあう機会を提供する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 小学校における森林教育の一環として、学校備品(授業用机や椅子等)を順次県産木製品に取り換える。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 明和町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 町内6小学校(大淀小学校、下御糸小学校、上御糸小学校、斎宮小学校、明星小学校、修正小学校) (町内全小学校) 【事業量】 町内6小学校の次年度新入生用の県産木製備品(授業用机・椅子):193組 【事業実施期間】 平成29年11月から平成30年3月 (平成26年度からの継続事業) 【受益者、参加者、利用者数等】 町内6小学校の新入生:193人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 町内6小学校の新入生が持ち上がりで使用することで、小学校生活を通して木のぬくもりを感じ愛着がわく。 【実施した効果】 導入した木製備品(授業用机・椅子)は6年生まで持ち上がりで使用するにより、日常的な使用を通して、木材とのふれあいが進む。 森林や緑を大切に作る心が育まれ、地球温暖化問題等への理解を深めるきっかけとなる。 【実施箇所の今後の管理体制】 木製備品(授業用机・椅子)を配備された各小学校(町立)で管理。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 三重県産木材を使用していることを伝えている。 木製備品(授業用机・椅子)は持ち上がりで使用するの、地球温暖化対策としての木材利用の意義等、学年(児童の成長)に合わせた対応を検討していく。 【実施内容に対する住民等の反応】 保護者や教員への聞き取りの結果、「木のぬくもりを感じる」「木の手ざわりがよい」「使いやすく親しみやすい」「持ち上がりで使用する事で物を大切に作る心を育んでいきたい」との声をいただいている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	明和町
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基本・特別	学校木製備品購入事業
事 業 費	6,982,740 円(うち交付金 6,476,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町で一括契約（購入）している。 【実施方法の選定理由】 町立小学校の備品購入であるため、一括契約によりコスト削減につながる。 【契約方法と落札率または補助率等】 町会計規則に基づき、見積徴収の上、随意契約（1社）を実施。 【契約相手方の選定理由】 木材を授業用机・椅子に加工できる事業所が県内に1社しかないため。 【事業費の積算根拠】 過年度の実績を踏まえた見積徴収による積算。 台数は新入学生の見込数。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 町内6小学校の新入学生見込数。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町立小学校（公共施設）において木製備品（授業用机・椅子）を管理するため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 ポスターの掲示により、税を活用することを周知した。 【実施中の実績】 備品の購入であり、実施中の期間がなく該当しない。 【実施後の実績】 ポスターの掲示により、税を活用することを周知した。 町ホームページへの掲載により、税を活用して実施した事業であることを広く紹介している。 【今後の見込】 日常的な使用により木材とふれあうことで、森林や緑に興味関心をもってもらい、親子や地域単位での森林環境教育につながるような取り組みを検討していく。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
平成26年度から町内の全ての町立小学校に継続して整備しており、入学から卒業まで日常的に木材とふれあう機会を整備している。	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	明和町
事業名	学校木製備品購入事業		

7. 写真



写真1

木製備品(授業用机) ※ロゴ(県民税活用周知)



写真2

木製備品(授業用椅子) ※ロゴ(県民税活用周知)



写真3

事業啓発(ポスター、取組事例の掲示)



写真4

事業啓発(ポスター、取組事例の掲示)



写真5



写真6

白 紙

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	大台町
-----	-----

当年度交付金額	29,277,000	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	------------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 ほっとする道ばた森林整備事業	2.暮らしに身近な森林づくり	8,728,000	8,728,000	0
2 木製遊具整備事業	4.木の薫る空間づくり	3,200,000	3,200,000	0
3 渓流倒木等処理事業	1.土砂や流木を出さない森林づくり	730,000	730,000	0
4 日進保育園整備事業	4.木の薫る空間づくり	16,619,000	16,619,000	0
合計		29,277,000	29,277,000	0

白 紙

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大台町
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	ほっとする道ばた森林整備事業
事 業 費	8,728,560 円(うち交付金	8,728,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	宮川と道路間にある人工林は、集約化や路網整備による効率化を目指した林業経営は困難な立地環境であり、間伐による経済性を望むことは難しく、今後もこのような取扱の困難な林地は放置される可能性が高い。道路沿いに整備されている電線は、台風による風倒木で分断され停電を招くことも多く、道路沿いの人工林伐採は災害対策として有効である。 さらに、宮川への土砂流出防止といった効果も期待でき、これにより、水質日本一を取り戻すことを目指していく。
2. 事業実績概要	【事業内容】 一級河川「宮川」と道路間にある人工林の整備を行う。H29年度においては、小滝地内の沿道林の伐採及び広葉樹植栽を実施。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 大台町 【補助率等】 補助事業でなく該当しない 【箇所数】 大台町小滝地内私有林(地権者数2名) 【事業量】 箇所数:2ヶ所 伐採:0.4ha、627本、318m³ 植栽:地域性広葉樹苗木240本、クヌギ63本植栽 【事業実施期間】 平成29年11月30日～平成30年2月28日 【受益者、参加者、利用者数等】 幹線道沿いであり通行者は不特定多数
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 本事業の実施箇所の選定にあたっては、地域説明会等を開催し事業の趣旨と候補地の説明を行い、対象が私有林となるため、地域と森林所有者の協力が不可欠であり、区長の協力を得ながら候補地の選定を行っている。 【実施した効果】 風倒被害等の懸念が無くなり、広葉樹植栽により公益的機能の向上から安全安心の確保に繋がった。 【実施箇所の今後の管理体制】 伐採後は公益的機能を高める森林管理が必要なことから、森林所有者に事業の趣旨を十分説明を行い森林所有者が管理を行っていく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 広葉樹林として、公益的機能の高い森林として管理していく。 【実施内容に対する住民等の反応】 風倒被害等の懸念が無くなり地域住民からは評価を得ている。広葉樹植栽については、森林所有者と地元から、公益性の高い森林づくりを要望されていたため高い評価を得ている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大台町
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	ほっとする道ばた森林整備事業
事 業 費	8,728,560 円(うち交付金 8,728,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 請負により実施 【実施方法の選定理由】 道路沿いの森林伐採は特殊伐採であり、実績のある認定林業事業体より選定を行った。 【契約方法と落札率または補助率等】 2社見積入札 【契約相手方の選定理由】 伐採は林業機械等の大型重機が必要な現場であり、専門的な技術を有する認定林業事業体より選定している。 【事業費の積算根拠】 三重県設計単価表及び単価見積もりにより積算	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 事業箇所は幹線道路沿いであり通行者は不特定多数であるが、公益的機能の高い森として長期的に機能を発揮できる。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 事業趣旨を十分に説明し理解していただいており、広葉樹植栽箇所は公益的機能の高い森林として管理していく。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 転用や目的外使用には適さない場所のため該当しない	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 対象森林所有者及び地元区長へ税活用について説明を行った 【実施中の実績】 事業箇所への「森林税のぼり」の設置と、工事看板への森林税活用表記 役場ロビーにて「みえ森と緑の県民税事業紹介」の展示を行い、過年度事業の紹介を行った (展示期間:平成30年1月10日～2月9日迄) 【実施後の実績】 標柱の設置と町ホームページで森林税活用事業の紹介 【今後の見込】	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大台町
事業名	ほっとする道ばた森林整備事業(伐採)		

7. 写真



写真1

施工前状況①



写真2

施工後状況①



写真3

施工前状況②



写真4

施工後状況②



写真5

事業周知看板の設置



写真6

施工中写真

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大台町
事業名	ほっとする道ばた森林整備事業(植栽)		

7. 写真



写真1
防鹿柵設置状況



写真2
地拵え状況



写真3
植栽状況



写真4
事業周知のため展示の実施
(大台町役場宮川総合支所玄関横)

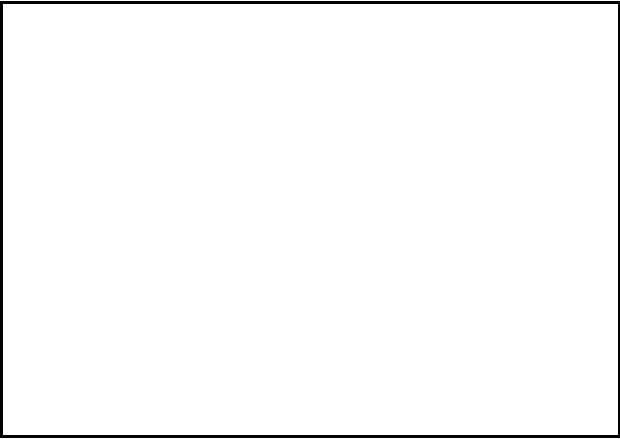


写真5

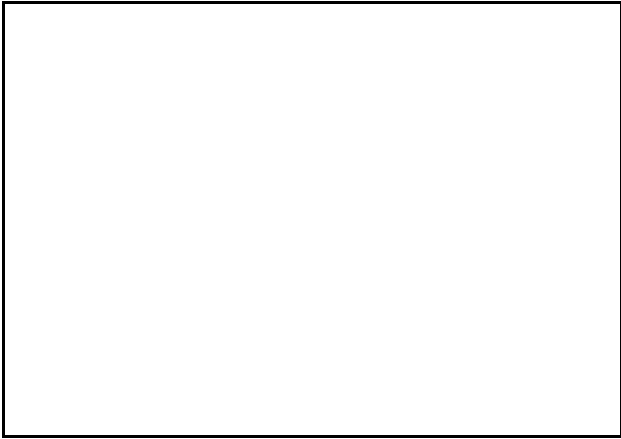


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	大台町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	木製遊具整備事業
事 業 費	3,994,920 円(うち交付金 3,200,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	町内外を問わず多数の住民が利用する奥伊勢フォレストピアわんぱく広場に、県産材を利用した木製遊具を整備することで、多くの住民が県産材と触れ合う機会を創出し、木材の利用促進を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 奥伊勢フォレストピアわんぱく広場に、県産材を利用した木製遊具を整備する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 大台町 【補助率等】 補助事業でなく該当しない 【箇所数】 1箇所 【事業量】 木製遊具5基(ボルダリングウォール、三角屋根(ボルダリング丸太)、三角屋根(ネット、丸太)、三角屋根(両面丸太)、うんてい丸太登り) 【事業実施期間】 平成30年1月26日から平成30年3月29日 【受益者、参加者、利用者数等】 年間利用見込み:約2400人（平日247日×5人）+（土日休日118日×10人）
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 奥伊勢フォレストピアは町民の憩いの場であり、かつ最も集客する施設であり木材利用の普及啓発に適しているため。 【実施した効果】 子供から大人まで集客のある、わんぱく広場に木製遊具を設置したことで、幅広い層に木と触れ合う場の提供ができ、木材利用の普及啓発に繋がった。 【実施箇所の今後の管理体制】 わんぱく広場が属する奥伊勢フォレストピアの指定管理者が日常から巡回点検し、丸太の腐食や金具の不具合等の点検は地元森林組合に委託する。発見された不良箇所は直ちに補修塗装及び部材交換等の措置を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 わんぱく広場の木製遊具として継続して活用し、幅広い層への木材の利活用の場として啓発を続けていく。 【実施内容に対する住民等の反応】 整備直後であり、今後、利用促進を図る中で利用者の感想と今後のニーズを把握していく。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	大台町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	木製遊具整備事業
事 業 費	3,994,920 円(うち交付金 3,200,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町からの請負工事として契約締結 【実施方法の選定理由】 公共施設のため設置者として町が発注 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 当工事は指名登録の「造園」に該当し、町では3社が該当。 その内から木材材料の調達、加工に有利な地元森林組合を選定 【事業費の積算根拠】 木製遊具の設計実績がある設計事務所に委託	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 無料施設のため、施設の指定管理者による目視での推定 【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林でないため該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 施設の設置条例による。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 実施箇所周辺にのぼり旗を設置して周知 【実施中の実績】 実施箇所周辺にのぼり旗を設置して周知 【実施後の実績】 実施箇所に隣接する駐車場にPR標柱を設置して周知、町ホームページで森林税活用事業の紹介 【今後の見込】 町広報誌で周知	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	大台町
事業名	木製遊具整備事業		

7. 写真



写真1

ボルダリングウォール



写真2

三角屋根丸太



写真3

三角屋根両丸太



写真4

三角屋根ネット



写真5

うんてい



写真6

標柱設置

対策区分	1. 土砂や流木を出さない森林づくり	市町名	大台町
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	溪流倒木等処理事業
事 業 費	730,080 円(うち交付金 730,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	過去の台風や集中豪雨により発生した山間部溪流沿いの倒木や流木は、今後豪雨が発生した際には下流域へ流出する可能性があり、自然災害が増幅することも予想される。そのため、倒木、流木の伐採・撤去を行うことにより、自然災害の拡大化を抑制する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 山間部溪流沿いの危険倒木・流木を伐採・除去する。(県事業以外の小規模箇所対象) 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 大台町 【補助率等】 補助事業でないため、該当しない。 【箇所数】 2箇所(大台町 小切畑地内 1箇所 天ヶ瀬地内 1箇所) 【事業量】 流木、倒木処理 68m³ 【事業実施期間】 平成29年12月1日～平成30年2月28日 【受益者、参加者、利用者数等】 伐採・撤去によって安全性が向上する事業実施箇所下流部の戸数及び人数 17戸32人(小切畑地区14戸26人 天ヶ瀬地区 3戸6人 H29.4時点)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 過年度の台風や集中豪雨により発生した倒木があり、流域を阻害していて自然災害の拡大化につながることを防ぐため。 【実施した効果】 過年度の台風や集中豪雨により発生した倒木を除去することで、下流への流出を抑制し流域広範囲にわたる住民の安全安心が向上した。 【実施箇所の今後の管理体制】 周辺の森林については、森林所有者が整備、管理を行う。 緊急的に倒木等の対処が必要な時は、町で対応していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所に工事用看板の中に、税のPRを含めて設置したとともに、災害に強い森林づくりの重要性和森林の大切さを周知した。 【実施内容に対する住民等の反応】 当該区長からは、「台風等による流木、倒木の心配が少なくなった」との声をいただいた。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木を出さない森林づくり	市町名	大台町
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	溪流倒木等処理事業
事 業 費	730,080 円(うち交付金 730,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による工事請負契約 【実施方法の選定理由】 森林所有者による整備が困難な箇所を町が実施することにより、自然災害の危険性の高い箇所の流木、倒木の処理を行えるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(84.26%) 【契約相手方の選定理由】 指名競争入札による落札者と契約している。 【事業費の積算根拠】 現地調査のもと、概算数量を算出し、積算を行った。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 17戸32人(小切畑地区14戸26人 天ヶ瀬地区 3戸6人)の流木、倒木による被害の軽減を図る。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 台風や集中豪雨により流出した流木、倒木であり、森林所有者個人による撤去が困難であるため、町で実施した。周辺の森林については、引き続き森林所有者により管理してもらうように依頼している。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林所有者に対し、事業実施にかかる説明時に、転用や目的外使用ができないことを周知している。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 着手前に、各区長、住民、森林管理者に事業説明を行っている。その際、税を活用していることを周知した。 【実施中の実績】 工事期間中、工事看板に税を活用していること記載した。 【実施後の実績】 町のホームページに税活用の紹介と、実施前後の写真を掲載する。 【今後の見込】 町広報誌で周知	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	1. 土砂や流木を出さない森林づくり	市町名	大台町
事業名	溪流倒木等処理事業		

7. 写真



写真1
実施前
流木が流域を阻害している



写真2
実施前
流木、倒木が河川横たわっている



写真3
実施後
写真1の同じ箇所(流木撤去完了)



写真4
実施後
写真2の同じ箇所(流木、倒木撤去完了)



写真5
実施中
工事用看板に税のPRを掲載している



写真6
実施中
工事用看板に税のPRを掲載している

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	大台町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基本・特別	日進保育園整備事業
事 業 費	41,142,600 円(うち交付金 16,619,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	新たに建設する日進保育園を、日本の風土に適した調湿性、断熱性に優れ、リラクゼーション効果を発揮するなど心身を癒し、人に優しい素材である木材を利用し、木の温かみの感じられる保育園としたい。
2. 事業実績概要	【事業内容】 老朽化による建替えの日進保育園を県産材を用いて建設する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 大台町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1ヶ所(大台町栃原地内日進保育園) 【事業量】 木造平屋建て延べ床面積保育園994.67㎡、歩廊3.92㎡、倉庫棟54.75㎡ 全体木材使用量に占める県産材使用量100% 【事業実施期間】 平成29年8月23日～平成30年3月28日 【受益者、参加者、利用者数等】 園児数45人平成30年3月時点
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 子どもたちが日頃から木にふれられる環境をつくり、子どもたちから木に親しむ環境を整備するため選定した。 【実施した効果】 子どもたちから木に親しむ環境を整備し、森や緑を大切に思う気持ちを育む。 【実施箇所の今後の管理体制】 町営の保育園として管理、運営していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 平成31年開園予定。 【実施内容に対する住民等の反応】 地域の子育ての拠点施設として期待している。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	大台町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基本・特別	日進保育園整備事業
事 業 費	41,142,600 円(うち交付金 16,619,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による随意契約 【実施方法の選定理由】 町産材を使用する大規模な建築工事であるため、迅速な材料調達と加工が必要であるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約。落札率89.3% 【契約相手方の選定理由】 町内木材業者及び関連事業者により請負が行われることで地場産業の育成が図られ、それらを適切に取りまとめる調整が可能であるため。 【事業費の積算根拠】 保育園建築工事設計事業者による積算。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 町立の保育園であるため地域の子どもたちが対象。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 町の施設であるため、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町立の保育園であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 説明会で税活用の周知をした。 【実施中の実績】 税を活用している看板を設置した。 【実施後の実績】 建設中であり、該当しない。 【今後の見込】 竣工式の資料などで税活用の周知を検討している。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

大台町

事業名

日進保育園整備事業

7. 写真



写真1

(構造用集成材)完成検査



写真2

寸法検査状況



写真3

含水率検査状況



写真4

(構造用集成材)C11イ



写真5

(構造用製材)円柱150φ L3.0



写真6

(構造用製材)梁、桁150*270 L3.0

白 紙

伊勢農林水産事務所管内

白 紙

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	伊勢市
-----	-----

当年度交付金額	27,138,000	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	------------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 森林整備事業	2.暮らしに身近な森林づくり	1,738,160	1,738,160	0
2 消防団御園第3班車庫整備事業	4.木の薫る空間づくり	7,767,000	7,767,000	0
3 公園整備事業	4.木の薫る空間づくり	4,452,840	4,452,840	0
4 【後年度に活用するための基金積立】		13,180,000	13,180,000	0
合計		27,138,000	27,138,000	0

白 紙

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊勢市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	森林整備事業
事 業 費	2,549,880 円(うち交付金 1,738,160 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	伊勢市の沿岸部には、防風林として松林が広がっているが、近年の病虫害被害により枯れ松が激増し、保安林としての機能が低下している。このことから、当該交付金を活用し病虫害被害を未然に防ぐことで地域住民の安全を図りたい。
2. 事業実績概要	【事業内容】 沿岸部に植生した松の病虫害被害防止を図るため、樹幹注入を行う。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 伊勢市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1箇所(二見町) 【事業量】 樹幹注入本数:203本(アンプル数850本) 【事業実施期間】 平成30年1月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 付近住民: 768世帯、1,879人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 観光名所である二見海岸林の景観保全及び倒木による観光客への被害防止を図る。また、平成22年度に策定した「おもてなしの空間としての訪れた人々が心休まる松原づくり」をテーマとした伊勢市二見地区松林再生計画に基づき、地元を主体とした松の植樹等を行っており、松林再生に向けてサポートを行うことで保安林としての機能回復を図る。 【実施した効果】 病虫害による枯渇を未然に防止し、倒木による住民への被害防止が図られている。 【実施箇所の今後の管理体制】 地元と市が協力して現在の景観の維持を行うとともに、松林再生に向けてのサポートを行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 病虫害による枯渇を未然に防止し、海岸の景観を維持するとともに、地元を主体とした松林再生の活動をサポートする。 【実施内容に対する住民等の反応】 地元住民等に理解を得、松林再生のための植樹等に積極的に協力していただいている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊勢市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	森林整備事業
事 業 費	2,549,880 円(うち交付金	1,738,160 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による委託請負契約 【実施方法の選定理由】 市有地及び地元自治会が管理されている松林であるため、市が発注を行った。 【契約方法と落札率または補助率等】 要件付一般競争入札(落札率93%) 【契約相手方の選定理由】 要件付一般競争入札による落札者と契約しています。 【事業費の積算根拠】 三重県が発行している森林病虫害事業単価表(松くい虫事業関係)により積算している。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 付近住民:768世帯、1,879人 【管理責任者（森林所有者）への対応】 市有地及び地元自治会が管理する松林である為、地元自治会へ説明を行い施行を行っている。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有地及び地元自治会が管理する松林であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 地元住民及び関係機関に事業の目的と内容について周知する。 【実施中の実績】 看板等で当該交付金のPRを行った。 【実施後の実績】 地元意見等の聞き取りをし、当該事業の内容や交付金のPRを行った。 【今後の見込】 当事業の内容を市HPでPRすることを検討している。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊勢市
事業名	森林整備事業		

7. 写真



写真1

二見町 樹幹注入 実施箇所



写真2

二見町 樹幹注入 穿孔状況



写真3

二見町 樹幹注入 アンプル注入状況



写真4

二見町 樹幹注入 穴うめ状況



写真5

作業中看板設置状況



写真6

看板設置状況

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊勢市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	消防団御蘭分団御蘭第3班車庫整備事業
事 業 費	12,744,000 円(うち交付金 7,767,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	伊勢市御園町高向において消防団車庫を新築するに当り、伊勢市公共建築物等木材利用方針に基づき、県産材を活用し木の香る憩いの場を提供する。このことにより、市民の木への関心を深め、県民・市民全体で森林を支える社会づくりを推進する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 県産材を用いて消防倉庫を建築する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 伊勢市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1箇所(御園町高向) 【事業量】 車庫1棟(木造2階建延床面積54.89m2、県産材7.138m3) 【事業実施期間】 平成29年11月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 付近住民:1,457世帯、3,259人 施設引渡式参加者:伊勢市消防団御園分団11名、伊勢消防本部12名、高向区民3名
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 当該施設は、御園町高向町民の活動拠点である町民会館の敷地内にある。同地区には他の団体の施設もあり、多くの町民が利用する拠点であることから、建物に県産材を使用することにより、市民の木への関心を深め、森林を支える社会づくりを推進する。 【実施した効果】 多くの町民が利用する拠点であることから、建物に県産材を使用することにより森林保全につながる事を住民に周知された。 【実施箇所の今後の管理体制】 地元消防団による管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 みえ森と緑の県民税を活用したことをプレート等でPRし、同敷地内施設の利用者に一人でも多くの方に理解を得る。 【実施内容に対する住民等の反応】 地元住民及び関係機関に事業の内容について理解を得ている。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊勢市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	消防団御藺分団御藺第3班車庫整備事業
事 業 費	12,744,000 円(うち交付金 7,767,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による工事請負契約 【実施方法の選定理由】 地元から伊勢市が無償で借りていることから、市が発注を行った。 【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札(落札率約83%) 【契約相手方の選定理由】 一般競争入札による落札者と契約しています。 【事業費の積算根拠】 三重県標準歩掛及び見積りにより積算している。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 付近住民:1,457世帯、3,259人 施設引渡式参加者:伊勢市消防団御園分団11名、伊勢消防本部12名、高向区民3名 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する敷地でなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 地元の利用施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 地元住民及び関係機関に事業の目的と内容について周知する。 【実施中の実績】 看板等で当該交付金のPRを行う。 【実施後の実績】 消防団への引渡式において、地元住民や関係機関に当該事業の内容や交付金のPRを行った。 【今後の見込】 当事業の内容を市HPでPRすることを検討している。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

伊勢市

事業名

消防団御薮分団御薮第3班車庫整備事業

7. 写真



写真1

施行前



写真2

施行後



写真3

県産材 材料検収



写真4

入口横にロゴマークを掲示して交付金のPR



写真5

倉庫兼車庫



写真6

引渡式
税の趣旨などをPR

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊勢市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	公園整備事業
事 業 費	4,996,080 円(うち交付金 4,452,840 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	伊勢市中島1丁目の公園内において伊勢市公共建築物等木材利用方針に基づき、県産材を活用した東屋を設置し、木の香る憩いの場を提供する。このことにより、市民の木への関心を深め、県民・市民全体で森林を支える社会づくりを推進する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 県産材を用いて木製東屋1棟を設置する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 伊勢市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1箇所(中島1丁目) 【事業量】 木製東屋1棟 【事業実施期間】 平成29年12月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 付近住民:178世帯、377人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 当公園は地元住民の憩い場として活用されているが、公園内に日陰が少ないことから、猛暑による熱中症を未然に防ぐこと等を目的とし、夏場での利用者の増加及び休息の場として利用してもらえる。 【実施した効果】 夏場での利用者の増加及び木への関心を深める。 【実施箇所の今後の管理体制】 地元町会にて管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 東屋の設置により、木の香る憩いの場を提供することで、利用者に木の関心を深め、県産材の活用を推進する。 【実施内容に対する住民等の反応】 地元自治会に事業の内容について理解を得ている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊勢市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	公園整備事業
事 業 費	4,996,080 円(うち交付金 4,452,840 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による工事請負契約 【実施方法の選定理由】 地元町会の土地であることから、同意書を得たうえで市が発注を行った。 【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札(落札率約88.0%) 【契約相手方の選定理由】 一般競争入札による落札者と契約しています。 【事業費の積算根拠】 三重県標準歩掛及び見積りにより積算している。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 付近住民:178世帯、377人 【管理責任者（森林所有者）への対応】 地元町会の土地であり、同意を得ているため、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 地元町会の施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 地元住民及び関係機関に事業の目的と内容について周知する。 【実施中の実績】 プレート等で当該交付金のPRを行う。 【実施後の実績】 当該交付金のPRプレート等を作成し掲示する。 【今後の見込】 当事業の内容を市HPでPRすることを検討している。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

伊勢市

事業名

公園整備事業

7. 写真



写真1

施行前



写真2

施行後



写真3

材料検収



写真4

材料検収



写真5

PR



写真6

PR

白 紙

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	鳥羽市
-----	-----

当年度交付金額	12,395,703	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	------------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 暮らしに身近な森林整備事業	2.暮らしに身近な森林づくり	8,067,600	8,067,600	0
2 森林環境予防保全事業	2.暮らしに身近な森林づくり	494,964	494,964	0
3 植樹祭関連事業	3.森を育む人づくり	171,939	171,939	0
4 危険木伐採事業	2.暮らしに身近な森林づくり	367,200	367,200	0
5 木に親しむ備品購入事業	3.森を育む人づくり	1,350,000	1,350,000	0
6 地域農水産物直売所看板設置事業	4.木の薫る空間づくり	1,944,000	1,944,000	0
合計		12,395,703	12,395,703	0

白 紙

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	暮らしに身近な森林整備事業
事 業 費	8,067,600 円(うち交付金	8,067,600 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	荒廃し放置された里山や集落周辺において、倒木などによる危険がある森林を整備することで、生活環境の保全と安全が確保されるほか、イノシシなどの獣害被害の防止を目的とする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 市内の森林は、生活スタイルの変化や所有者の高齢化などにより適正な管理が行われず荒廃が著しく進んでいる。こうした中、放置された里山や集落周辺において森林整備を実施する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鳥羽市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 森林の整備:1地区(砥谷地区) 【事業量】 森林整備面積:11.17ha 【事業実施期間】 平成30年1月29日から平成30年3月30日 【受益者、参加者、利用者数等】 砥谷地区:19戸57人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 農用地内において獣害被害が多発している地域(砥谷地区)に向けた森林整備を選定した。 【実施した効果】 森林を整備することにより、野生獣の出没回数が減り、農地を守り森林機能を回復することができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 所有者において適切な管理をお願いする。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 適切な管理を実施していくことで森林整備に努めていく。 【実施内容に対する住民等の反応】 住民から野生獣の出没回数が減ったという声があった。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	暮らしに身近な森林整備事業
事 業 費	8,067,600 円(うち交付金 8,067,600 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による業務委託契約 【実施方法の選定理由】 市が実施することにより、広範囲での伐採、搬出が可能なため。 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(3社)落札率96%森林の整備(砥谷地区) 【契約相手方の選定理由】 森林・林業に関する知識や認識も必要であるため伐採用具の操作に精通している業者であり、森林組合法による森林組合「林業労働力の確保に推進に関する法律」に基づき三重県知事が認定した「認定林業事業体」の内、入札参加資格者名簿に登録されている者を指名した。 【事業費の積算根拠】 環境林整備事業に係る標準単価により積算	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 登記所有者及び農地台帳にて把握 【管理責任者（森林所有者）への対応】 私有林のため森林整備を最大限發揮するため適切な管理を依頼していく。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 当該地域については特段規制はないが、農地については農業振興地域のため転用不可。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 実施予定箇所の所有者に説明資料を作成し配布した。 【実施中の実績】 工事箇所に幟を設置した。 【実施後の実績】 町内の回覧にて実施の内容を周知 【今後の見込】 特になし	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
事業名	暮らしに身近な森林整備事業		

7. 写真



写真1

森林整備実施前



写真2

森林整備実施後



写真3

森林整備実施前



写真4

森林整備実施後



写真5

幟設置状況



写真6

(参考)市役所での過年度事業等の周知状況

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
事業名	暮らしに身近な森林整備事業		

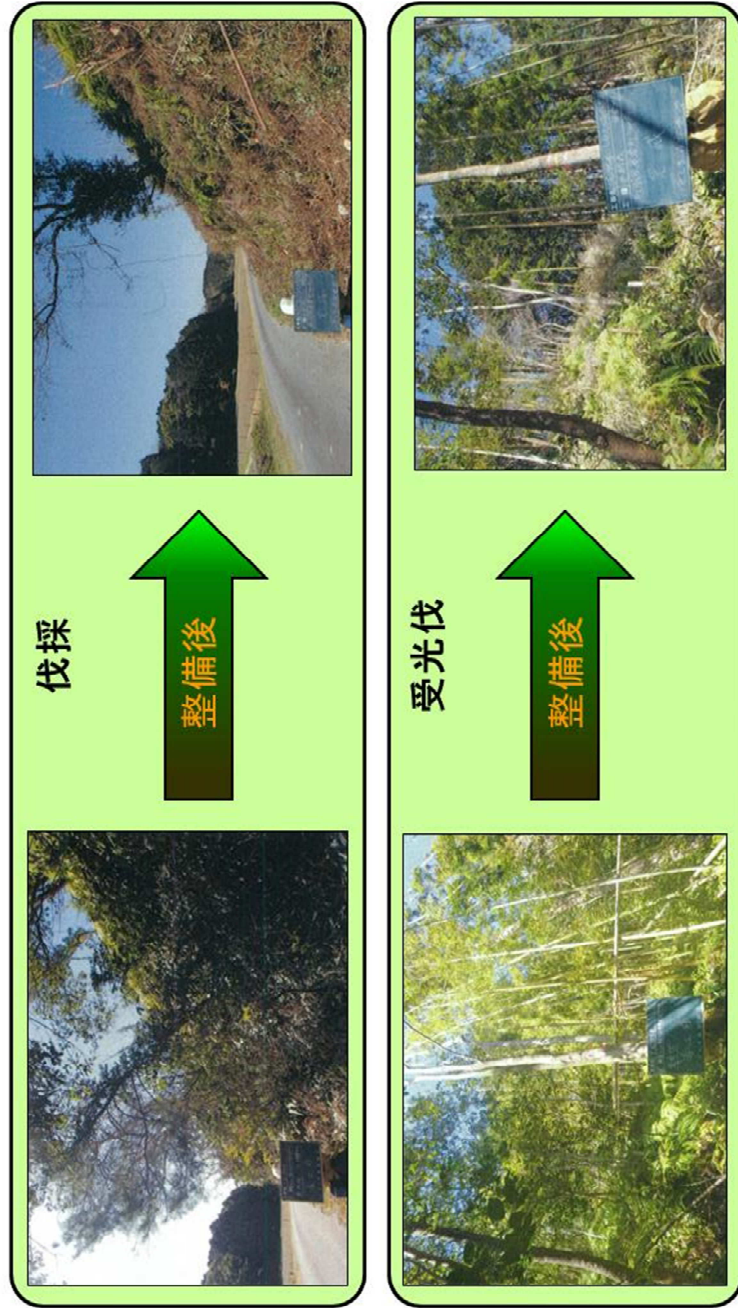
砥谷地区暮らしに身近な森林整備事業

◎砥谷地区の農道沿いにて、伐採及び受光伐を予定しています。

- ✓伐採・・・道路から3～5 mの範囲にある木を伐採し、道路の見通しを良くします。
- ✓受光伐・・・山林を間伐することで、光が差し込み山の状態が良くなります。



これらを実施することでイノシシなどの隠れ場所が減少することから、獣害対策への効果も期待されます。



本事業は、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し実施します。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	森林環境予防保全事業
事 業 費	494,964 円(うち交付金	494,964 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	病原であるマツノザイセンチュウを駆除し、マツが発病するのを防ぐことを目的に薬剤の樹幹注入を行った。
2. 事業実績概要	【事業内容】 病虫害防除のための樹幹注入を行った。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鳥羽市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 神島地区 1箇所 相差地区 1箇所 【事業量】 神島地区 樹木 N=31本 相差地区 樹木 N= 1本 【事業実施期間】 平成30年1月24日から平成30年2月23日 【受益者、参加者、利用者数等】 神島地区 神島への観光客数(平成29年)17, 072人／年(観光統計資料より) 相差地区 相差海女文化資料館 施設利用者(平成29年)42,229人／年(観光統計資料)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 相差地区は、日本で古くから親しまれている松を保全することで、観光客など施設利用者に木の良さに関する意識醸成を図るため。神島地区は、高度公益機能林(松くい虫等の被害から特に保護する必要がある森林)に指定されているため。 【実施した効果】 病虫害による枯渴を未然に防止し、倒木による観光客等への被害防止が図られている。 【実施箇所の今後の管理体制】 防止効果を継続させるため、計画的に実施し松の保全を維持する。(4年後実施予定) 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 4年に一度樹幹注入を行い、保全に努める。 【実施内容に対する住民等の反応】 地元住民から「これからも松を守ってほしい」という声があった。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	森林環境予防保全事業
事 業 費	494,964 円(うち交付金	494,964 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による業務委託契約 【実施方法の選定理由】 市が実施することにより、広範囲での委託が可能のため。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約(3社) 【契約相手方の選定理由】 市の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、50万円以下)に基づき、随意契約とした。 【事業費の積算根拠】 見積りを徴収した。
5. 公益性（波及度）	【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 神島地区 神島への観光客数(平成29年)17,072人／年(観光統計資料より) 相差地区 相差海女文化資料館 施設利用者(平成29年)42,229人／年(観光統計資料) 【管理責任者（森林所有者）への対応】 市有地及び地元自治会が管理する松林であるため、地元自治会へ説明を行い施工を行っている。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有地及び地元自治会が管理する松林であるため、転用等が想定されず、該当しない。
6. 周知実績と今後の周知	【実施前の実績】 町内の回覧でみえ森と緑の県民税を活用した事業を実施する旨を周知した。 【実施中の実績】 工事箇所に幟を設置した。 【実施後の実績】 町内の回覧でみえ森と緑の県民税を活用した事業を実施した旨を周知した。 【今後の見込】 特になし
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
事業名	森林環境予防保全事業		

5. 写真



写真1

神島町 ドリル開孔状況



写真2

神島町 注入状況



写真3

神島町 注入状況



写真4

相差町 ドリル開孔状況



写真5

相差町 注入状況



写真6

相差町 注入状況

みえ森と緑の県民税

平成29年度実施事業について

三重県では「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、平成26年度から「みえ森と緑の県民税」が導入されています。

平成29年度では下記の事業について実施しました。



危険木伐採事業

船津コミュニティセンター裏の近くの石段にて倒木の恐れのある危険木を伐採しました。



伐採前



伐採後

森林環境予防保全事業

マツノザイセンチュウを駆除し、マツが発病するのを防ぐことを目的に薬剤の樹幹注入を行いました。



相差町（昇竜の松）



神島町（八代神社周辺）

暮らしに身近な森林整備事業

浦村町（砥谷地区）において森林整備を行いました。森林整備山林を間伐することで、光が差し込む山の状態が良くなります。



森林整備前



森林整備後

鳥羽市農水商工課 0599-25-1231 「11」

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鳥羽市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	植樹祭関連事業
事 業 費	171,939 円(うち交付金	171,939 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	鳥羽の日(10月8日)と合わせ記念植樹事業を行い、木の大切さや木を育てる楽しさを感じてもらう。
2. 事業実績概要	【事業内容】 鳥羽の日(10月8日)と合わせ記念植樹事業を行う。また特別配分枠申請の地域農水産物直売所に県産材を使った看板を設置することと連携し、木の大切さや木を育てる楽しさを感じてもらう。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鳥羽市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 鳥羽市鳥羽1丁目2383番41 2,644㎡内 【事業量】 植樹関連: 山桃(瑞光)4本、ウバメガシ60本、ハマナデシコ(種子) イベント会場: マガジンラック作り体験、自然素材を使ったクラフト作り、クップ体験等 【事業実施期間】 平成29年9月1日から平成29年11月30日 開催日: 平成29年10月8日 【受益者、参加者、利用者数等】 植樹祭イベント関連、ミニツアー参加者 日和山散策25名。離島探検21名、森と海の関わり16名 植樹参加者85名、植樹祭イベント来場者数約800名
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 植樹祭を実施した場所は、鳥羽マルシェや市営定期船離発着の鳥羽マリンターミナルの近くで、観光客や地元市民が多く利用し行き来する場所であることから、イベントに参加しやすい場所を選定。なお、県と協議のうえ決定した。 【実施した効果】 植樹祭では、マガジンラック作りや三重の木を活用した遊具の体験を通じての良さを直接肌で感じてもらった。また、植樹を体験してもらうことで森の大切さや木を育てる楽しさを感じてもらうことができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 市が管理していく。県との共同事業であるため県と協議しながら維持管理する。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 植樹した木においては、将来的な観光スポットとなるよう管理し活用していく予定。 【実施内容に対する住民等の反応】 「普段経験することのない植樹を体験することで、木の大切さを学べた」「こういったイベントがあるなら次回も参加したい」といった声があった。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鳥羽市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	植樹祭関連事業
事 業 費	171,939 円(うち交付金	171,939 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市で実施 【実施方法の選定理由】 市主催イベントのため（県共催） 【契約方法と落札率または補助率等】 該当しない。 【契約相手方の選定理由】 該当しない。 【事業費の積算根拠】 植樹に係る軍手等消耗品の購入及びチラシの印刷など	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 植樹祭イベント関連、ミニツアー参加者 日 和山散策25名。離島探検21名、森と海の関わり16名 植樹参加者85名、植樹祭イベント来場者数約800名 【管理責任者（森林所有者）への対応】 管理責任者が市であるため、市で管理する。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 管理責任者が市であるため、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 HPや市の広報で事業内容及び参加募集の周知を行なった。また、記者にプレスリリースを行った。 【実施中の実績】 イベント実施中に幟やみえ森と緑の県民税活用状況をパネルで設置し周知した。また、式典で植樹祭と鳥羽マルシェの看板の内容をアナウンスした。 【実施後の実績】 市の広報で周知した。また、イベントの状況が読売新聞(10/9)、中日新聞(10/11)に掲載された。 【今後の見込】 —	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鳥羽市
事業名	植樹祭関連事業		

7. 写真



写真1

パネル及び幟設置状況



写真2

記念植樹状況



写真3

植樹体験状況



写真4

マガジンラック体験状況



写真5

クラフト体験状況



写真6

カップ体験状況

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	危険木伐採事業
事 業 費	367,200 円(うち交付金	367,200 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	公共施設周辺の危険木を除去し、安心安全な街づくりを目指し生活環境の向上を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 公共施設の周辺等の危険木を除去を行う。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鳥羽市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1箇所(船津町) 【事業量】 危険木除去 1箇所 1本 【事業実施期間】 平成30年2月23日から平成30年3月16日 【受益者、参加者、利用者数等】 船津町住民 584人(平成30年3月末日現在)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 実施箇所については多くの住民が利用するほか避難路としても利用するため危険木を整備することで、地元住民が安心安全に利用できる。 【実施した効果】 危険木を整備したことで、地元住民が安心して利用している。 【実施箇所の今後の管理体制】 私有林のため森林整備を最大限発揮するため適切な管理を依頼していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 維持管理に努める。 【実施内容に対する住民等の反応】 「普段から利用しており不安があったが現在は安心して通れるようになった」といった住民の声があった。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	危険木伐採事業
事 業 費	367,200 円(うち交付金	367,200 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による業務委託契約 【実施方法の選定理由】 市が実施することにより、広範囲での伐採、搬出が可能なため。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約(3社) 【契約相手方の選定理由】 市の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、50万円以下)に基づき、随意契約とした。 【事業費の積算根拠】 見積りを徴収した。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 登記所有者にて把握 船津町住民 584人(平成30年3月末日現在) 【管理責任者（森林所有者）への対応】 私有林のため森林整備を最大限発揮するため適切な管理を依頼していく。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 当該地域については特段規制はない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 町内の回覧で実施する旨を周知した。 【実施中の実績】 工事施工箇所に幟を立ててPRした。 【実施後の実績】 町内の回覧で実施した旨を周知した。 【今後の見込】 —	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
事業名	危険木伐採事業		

7. 写真



写真1

実施前及び幟設置状況



写真2

足場設置状況



写真3

足場設置状況



写真4

伐採作業状況



写真5

伐採作業状況

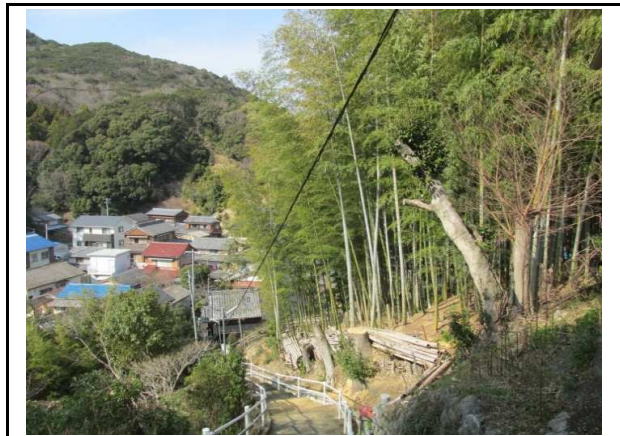


写真6

実施後

対策区分

2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名

鳥羽市

事業名

危険木伐採事業

船津コミュニティセンター裏の近くの石段の 危険木の伐採を行います



三重県では「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、平成26年度から「みえ森と緑の県民税」が導入されています。

この県民税を活用し、船津コミュニティセンター近くの階段にて倒木の恐れのある危険木を伐採する予定です。



工事期間：3月12日～16日を予定しています。

(工事の作業状況により期間は前後する可能性があります)

鳥羽市農水商工課 0599-25-1231

税を活用して危険木を伐採することのお知らせ

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鳥羽市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
5	特 別	木に親しむ備品購入事業
事 業 費	1,350,000 円(うち交付金	1,350,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	小さい頃から木に触れることにより県産材に対する愛着と森林を大切にする心を育むことを目的とする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 鳥羽市内の保育所に県産材を用いた机等の木質備品を設置する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鳥羽市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 9箇所(あおぞら保育所、安楽島保育所、船津保育所、かがみうら保育所、相差保育所、菅島保育所、桃取保育所、答志保育所、神島保育所) 【事業量】 机・椅子10セット、積木30セット 【事業実施期間】 平成29年11月17日から平成30年1月31日 【受益者、参加者、利用者数等】 全保育所児童数 408人(平成30年4月1日現在)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 市内すべての保育所に設置。 【実施した効果】 県産材を活用し、幼児に木材の持つやわらかな温もりや香りなどの木材の良さを直接肌で感じてもらい、木に愛着を持ち親しみながら大切に使用し続けてもらえる機会を得ることができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 市の施設であり、各保育所で維持管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 保育所の子どもたちが木の良さを肌に触れながら学習していく。 【実施内容に対する住民等の反応】 「木の肌触りや香りが子どもたちにとっていい刺激になっていると思う」といった意見をいただいている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鳥羽市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
5	特 別	木に親しむ備品購入事業
事 業 費	1,350,000 円(うち交付金	1,350,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による物品購入（業務委託） 【実施方法の選定理由】 子どもたちが木材と日常的に親しむ機会を作ることで、海ともつながりの深い森林や緑を大切に思う温かい心を育んでもらうため。 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(3社) 落札率98% 【契約相手方の選定理由】 指名競争入札による。 【事業費の積算根拠】 参考見積りによる設計	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 全保育所児童数 408人(平成30年4月1日現在) 【管理責任者（森林所有者）への対応】 各保育所にて管理する。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 鳥羽市立の施設であり、転用の予定はなく、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 各保育所に文書にて実施する旨を周知した。 【実施中の実績】 備品の購入であり、実施中に該当する期間がない。 【実施後の実績】 備品に焼印をいれ、みえ森と緑の県民税の県産材を活用しているPRをした。 各保育所のたよりに県民税の事業で実施した旨を周知した。 【今後の見込】 —	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鳥羽市
事業名	木に親しむ備品購入事業		

7. 写真



写真1

安楽島保育所 備品活用状況



写真2

船津保育所 備品活用状況



写真3

船津保育所 備品活用状況



写真4

菅島保育所 備品活用状況



写真5

神島保育所 備品活用状況

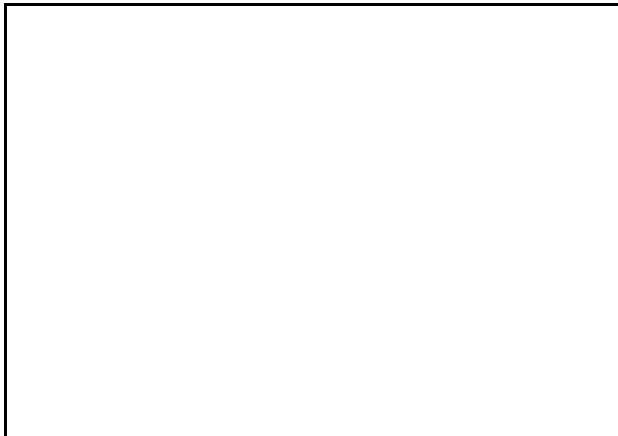


写真6

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鳥羽市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
6	特 別	地域農水産物直売所看板設置事業
事 業 費	1,944,000 円(うち交付金	1,944,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	地域農水産物直売所である鳥羽マルシェに県産材を使った看板を設置し、県産材のPRとともに、農林水産業の振興を目的とする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 地域農水産物直売所に県産材を使った看板を設置する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鳥羽市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 鳥羽マルシェ(鳥羽市鳥羽1丁目2383-42) 1箇所 【事業量】 看板設置 1基(5,000mm*900mm*30mm) 【事業実施期間】 平成29年8月8日から平成29年10月6日 【受益者、参加者、利用者数等】 鳥羽マルシェ利用者(平成29年)256,453人／年(平成29年観光統計資料より)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 多くの観光客が訪れる鳥羽市の玄関口ともいえる鳥羽マルシェでみえ森と緑の県民税のPRを図るため。 【実施した効果】 市の玄関口とも言える鳥羽マルシェに県産材の看板を設置したことで、市民だけでなく多くの観光客へみえ森と緑の県民税のPRすることができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 所有者(鳥羽マルシェ管理者)において適切な管理をお願いする。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 過去に県民税を導入し同施設にテーブルと椅子を設置したことから合わせてPRに努める。 【実施内容に対する住民等の反応】 「海と木がマッチしていて景観としてもいい」といった声もあった。また、施設の管理者も県産材で製作した看板について建物と調和し好評と聴取。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鳥羽市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
6	特 別	地域農水産物直売所看板設置事業
事業費	1,944,000 円(うち交付金	1,944,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市で実施 【実施方法の選定理由】 地域農水産物直売所への看板設置のため。 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(3社)落札率 98% 【契約相手方の選定理由】 指名競争入札による。 【事業費の積算根拠】 参考見積りによる設計	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 施設利用者(平成29年)256,453人／年(平成29年観光統計資料より) 【管理責任者（森林所有者）への対応】 管理責任者が市であるため、市で管理する。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 管理責任者が市であるため、転用の恐れはない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 HPや市の広報で事業内容及び参加募集の周知を行なった。また、記者にプレスリリースを行った。 【実施中の実績】 イベント実施中に幟やみえ森と緑の県民税活用状況をパネルで設置し周知した。 【実施後の実績】 市の広報で周知した。また、イベントの状況が読売新聞(10/9)、中日新聞(10/11)に掲載された。 【今後の見込】 —	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

鳥羽市

事業名

地域農水産物直売所看板設置事業

7. 写真



写真1

実施前



写真2

足場設置状況

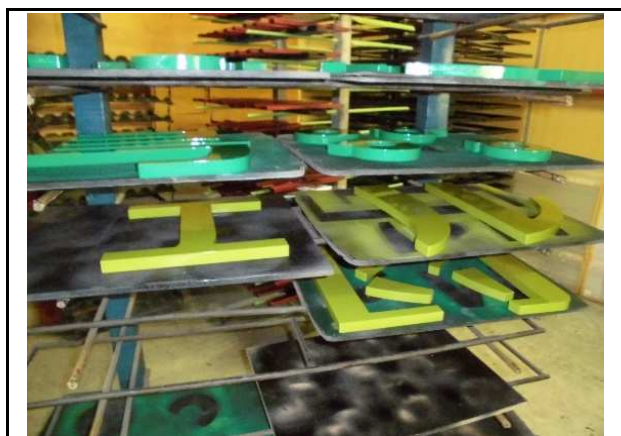


写真3

作業状況



写真4

作業状況



写真5

作業状況



写真6

実施後

白 紙

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	志摩市
-----	-----

当年度交付金額	22,880,000	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	------------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 里海・里山保全事業	2.暮らしに身近な森林づくり	4,415,040	4,415,040	0
2 里山体験事業	3.森を育む人づくり	494,930	494,930	0
3 里地・里山公園木質化整備事業	4.木の薫る空間づくり	383,030	383,030	0
4 阿児アリーナ大規模改修事業	4.木の薫る空間づくり	17,587,000	17,587,000	0
合計		22,880,000	22,880,000	0

白 紙

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	志摩市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	里海・里山保全事業
事 業 費	4,415,040 円(うち交付金	4,415,040 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	志摩市は、全域が伊勢志摩国立公園内に位置し、松やウバメガシなどの広葉樹が多く植生し、志摩市の景観を形成している。また、海岸沿いには、松林の公園や景勝地があり、防風、飛砂防止など地域の暮らしを守っているほか、多くの人が訪れている。松林の公園や景勝地にある松を森林病虫害の被害から守るための対策を施し、景観形成の維持を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 森林病虫害による松枯れを予防するために、薬剤の樹幹注入を行う。また、松の木の保全や森林の持つレクリエーション等の保健、休養の場としての機能を高めるために、下刈りを行う。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 志摩市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1か所 志摩市阿児町甲賀地内 阿児の松原 【事業量】 面積:2.5ha 樹幹注入松本数:417本 下刈面積1.1ha 【事業実施期間】 平成29年11月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 地元自治会:2,820人 1,205世帯 志摩市阿児地域観光客数 1,068,134人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 実施箇所は、高度公益機能林(松くい虫等の被害から特に保護する必要がある森林)に指定されている。 【実施した効果】 森林病虫害による被害防止が図られた。 【実施箇所の今後の管理体制】 防止効果を継続させるため、計画的に実施していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 森林の持つレクリエーション等の保健、休養の場としての機能を高め、森林公園として利用していく。 【実施内容に対する住民等の反応】 市民から太い松が少なくなっているの、保全してほしいとの声をいただいている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	志摩市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	里海・里山保全事業
事 業 費	4,415,040 円(うち交付金	4,415,040 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による委託契約 【実施方法の選定理由】 市の管理する公園であるため、市が発注しました。 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(落札率90%) 【契約相手方の選定理由】 指名競争入札による。 【事業費の積算根拠】 平成29年度 森林病虫害防除事業単価表(松くい虫事業関係) 三重県 平成29年度 森林環境創造事業 実施単価表 三重県	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 甲賀地区地域住民 2,820人 1205世帯(市民課資料) 志摩市観光客(阿児地区) 1,068,134人(観光商工課資料) 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市の施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 市ホームページに掲載している。 【実施中の実績】 作業中の看板にこの事業にみえ森と緑の県民税を活用している旨の表示をおこなった。 【実施後の実績】 市ホームページに掲載している。 【今後の見込】 市広報に掲載を予定している。(6月号)	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	志摩市
事業名	里海・里山保全事業		

7. 写真



写真1

薬剤注入状況



写真2

薬剤注入状況



写真3

下刈り(実施前)



写真4

下刈り状況(実施後)



写真5

林内の様子



写真6

事業実施の周知看板

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	志摩市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	里山体験事業
事 業 費	494,930 円(うち交付金	494,930 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	里山を守り、生かしていくために、子供たちや市民に里山の大切さを伝えることを目的とし、自然観察会や椎茸の菌打ち体験や炭焼き体験など体験学習を実施する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 市内の環境林をフィールドとして、山の散策をしながらの森林に関する講習会の実施や天然林の管理・天然林の利用についての講習会や椎茸の菌打ち体験、炭焼き体験等の体験学習を開催する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 志摩市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1箇所 阿児町鵜方地区創造の森横山及び周辺施設内 【事業量】 講習会を2回(延べ3回)開催した。 【事業実施期間】 森林保全講習会 12月2日(土)、 山の恵み講習会 1月20日(土)、2月3日(土) 【受益者、参加者、利用者数等】 1. 森林保全講習会 28名 2. 山の恵み講習会 1回目 25名 2回目 27名 延べ80名
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 伊勢志摩国立公園第2種特別区域内であり、自然豊かな場所であること。天然林の伐採体験の実施箇所は、伐採した木を炭焼きの原料とするため、炭焼き窯の近い市有林を選定した。炭窯は、市民に貸し出し用の市の施設であるから。 【実施した効果】 子供たちや市民の方に森林が持つ多面的機能の理解と関心を広げて学ぶ(体験)する場を作ることができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 施設等整備でなく、該当しない。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 今後とも年間を通じて、体験型講習会を実施する。 【実施内容に対する住民等の反応】 講習会の最後にアンケートを実施し、参加者から講習会の感想、森林に対する思いやみえ森と緑の県民税についての意見を聞いている。アンケート結果は、「森林に関する講習会を通じて、森林の事を周知してほしい。」「税金の使用も身近にわかる講習会のため納得できる。」「里山保全会に参加し、活動を行いたい。」等の意見・感想があった。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	志摩市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	里山体験事業
事 業 費	494,930 円(うち交付金	494,930 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 1. 森林施業講習会 委託 2. 山の恵み講習会 講師依頼 【実施方法の選定理由】 森林施業講習会においては、森林施業の資格を有す団体(森林組合)に依頼した。ボランティア活動の経験のある方に講師をお願いした。 【契約方法と落れ率または補助率等】 随意契約（1社） 森林施業講習会の開催に当たっては、随意契約を行っています。 【契約相手方の選定理由】 市の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号及び志摩市契約規則第21条第1項ただし書き)に基づき、一者と随意契約とした。一者の随意契約理由:みえ森と緑の県民税を活用し設立されたみえ森づくりサポートセンターに森のせんせいとして登録があり、かつ、高度な技術を有しているから。 【事業費の積算根拠】 志摩市講師に対する謝礼支払基準(平成25年10月15日制定) 三重県林業関係の標準歩掛(人件費)	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 森林保全講習会 28名 山の恵み講習会 1回目 25名 2回目 27名 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 講習会の開催であるため、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 参加者募集のチラシにロゴマークを入れた。市ホームページにおいて参加者募集の案内文にみえ森と緑の県民税を活用し開催している旨の文書を記載した。市長記者会見で講習会開催の案内(募集のお知らせ)行なった際この講習会がみえ森と緑の県民税市町交付金を活用していることを記者会見で発表した。 【実施中の実績】 受付、会場案内や受付簿等にロゴマークを入れた。 のぼりを立てた。 【実施後の実績】 市ホームページに掲載している。 【今後の見込】 市広報に掲載を予定している。(6月号)	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	志摩市
事業名	里山体験事業		

7. 写真



写真1

伐採体験



写真2

伐採体験



写真3

シイタケ菌打ち体験



写真4

シイタケ菌打ち体験



写真5

炭焼き体験



写真6

炭焼き体験

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

志摩市

事業名

里山体験事業

7. 写真

里山づくり講習会

参加者募集のお知らせ

山の恵み講習会体験内容

志摩市有の阿児炭窯を使つての炭焼体験
窯入れ・火入れ・窯出しを2回に分けて実施

○ 日時：平成30年1月20日(土) 窯入れ・火入れ
平成30年2月 3日(土) 窯出し

※上記の日程の内、いずれか一日だけの参加も可能です。

※出来上がった炭は持ち帰って、生活の中で活用ください。

○ 場所：阿児町横山 創造の森横山

○ 対象：一般・親子
(小学生以下は、保護者同伴です。)

○ 募集：40名(先着順)

○ 集合：創造の森 横山 山小屋
(8:50までに集合)

○ 参加費：無料

○ 持ち物：帽子・手袋(軍手)・汚れてもよい服装、水筒

○ 申込み方法：電話又は、参加申込書の提出(メール・FAX 可)

※参加者全員の氏名・年齢・性別・住所 連絡先(携帯)

○ 申込み締切り：1月10日(水)まで

申込み・問合せ先：志摩市役所 産業振興部 農林課

TEL: 0599-44-0288 FAX: 0599-44-5262

E-mail: norin@city.shima.mie.jp

住所 〒517-0592 三重県志摩市阿児町横山 3098 番地 22

URL: <https://www.city.shima.mie.jp>



主催 志摩市

平成29年度 里山づくり講習会参加申込書

第2回 山の恵み講習会 開催日：平成30年1月20日(土)
(炭焼体験) 平成30年2月 3日(土)

代表者氏名					
住所	郵便番号				
連絡先	携帯番号				
参加者名	フリガナ	年齢 (学年)	参加日		
			20	3	
			日	日	日

※お申込みいただいた方の個人情報については、当該日付以外に使用することはありません。

申込み期限：平成30年1月10日(金)



※この事業は、みえ森と緑の県民税を活用しています。

参加者募集チラシにロゴマークとみえ森と緑の県民税を活用していることを記載した。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	志摩市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	里地・里山公園木質化整備事業
事 業 費	498,960 円(うち交付金	383,030 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	公共建築物等木材利用方針に基づき、公共空間である公園において、県産材を用いて木製での整備を行い、県産材の利用促進を図るとともに、木材と市民との関係を深める。
2. 事業実績概要	【事業内容】 志摩市の公園であるなごみの丘(オバベタ山)に木製テーブル・ベンチを設置する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 志摩市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1箇所 志摩市浜島町 南張地内 なごみの丘(オバベタ山) 【事業量】 公園面積:13.12ha 木製テーブル2基 木製ベンチ 4基 県産材使用量 0.9385m3 【事業実施期間】 平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 地元自治会 274人 139世帯 志摩市浜島地域観光客入込数453,705人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 なごみの丘は、伊勢志摩国立公園第2種特別区域内にあり、林内に遊歩道が整備され自然とふれあうための公園施設であるから。 【実施した効果】 市民に利用される公園において、県産材でベンチを設置することにより、市民が木材とふれあう機会が増える。 【実施箇所の今後の管理体制】 市が公園として管理していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 公園の森林整備等を行い、市民の憩いの場、観光客等に利用してもらう。 【実施内容に対する住民等の反応】 テーブル・ベンチをみえ森と緑の県民税を活用し、設置したことにより、市民になごみの丘を知らしめることとなり、なごみの丘を利用したいとの声をいただいた。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	志摩市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	里地・里山公園木質化整備事業
事 業 費	498,960 円(うち交付金	383,030 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による請負契約 【実施方法の選定理由】 市の管理する公園であるため、市が発注しました。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約（地方自治法施行167条の2第1項第1号に該当する。） 【契約相手方の選定理由】 市の規定（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号及び志摩市契約規則第21条第1項ただし書き）に基づき、一社と随意契約とした。一者の随意契約理由：県産材を活用した工事实績がありまた、高度な防虫、防腐処理としての高耐久処理木材を用いて行なう工事に関して、技術・知識・実績をそなえているから。 【事業費の積算根拠】 参考見積もりを徴し、積算を行った。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 地元自治会：274人 139世帯 志摩市阿児地域観光客数 453,705人 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市の施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 市ホームページに掲載している。 【実施中の実績】 物品を購入する事業であり「実施中」に該当する期間がない。 【実施後の実績】 テーブル等にロゴマークをいれた。 市ホームページに掲載している。 【今後の見込】 市広報に掲載を予定している。（6月号）	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	志摩市
事業名	里地・里山公園木質化整備事業		



写真1

設置前



写真2

設置後 木製テーブル・ベンチ



写真3

みえ森と緑の県民税県民税のロゴマーク



写真4

(参考) 公園内には遊歩道があり、散策ができる



写真5

(参考) 公園内には遊歩道があり、散策ができる

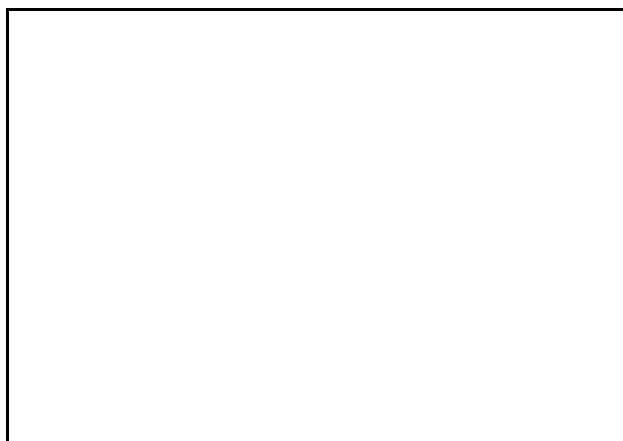


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	志摩市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基本・特別	阿児アリーナ大規模改修事業
事 業 費	24,904,235 円(うち交付金 17,587,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	当市の生涯学習、生涯スポーツ推進の活動拠点である阿児アリーナの大規模改修を行い、施設の長寿命化と市民に安心して快適な場を提供する。これらの改修の一部に県産材を活用した内装化等を図ることにより、利用者が木とふれあう場を創出する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 志摩市の文化・スポーツの振興拠点である阿児アリーナの大規模改修工事にあたり、机、椅子、ベンチなど幅広い用途で県産材を活用する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 志摩市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1箇所 阿児アリーナ 【事業量】 県産材使用量 10.3m3 (テーブル16台、イス54脚、ソファ4台、ベンチ4台、三角収納棚4台、収納棚1台) 【事業実施期間】 平成29年6月23日～平成30年2月26日 【受益者、参加者、利用者数等】 阿児アリーナ年間利用者数 延約80,000人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 大規模改修工事を実施する阿児アリーナの机、椅子等の幅広い用途で県産材を活用することで、利用者が木とふれあう場を創出し木材と利用者の関係を深めることができる。 【実施した効果】 志摩市の文化・スポーツの振興拠点である阿児アリーナを利用する多くの人々に、県産材を活用した机、椅子、ベンチ等を利用してもらうことで、木材利用のPRにつながった。 【実施箇所の今後の管理体制】 市で維持管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 文化、スポーツ活動をはじめ各種会議、料理教室等さまざまな分野で利用する、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の団体、個人に貸し館を中心に活用する。 【実施内容に対する住民等の反応】 多くの施設利用者に設置した県産材活用の机、椅子、ソファ、ベンチを利用いただいている。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	志摩市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基本・特別	阿児アリーナ大規模改修事業
事 業 費	24,904,235 円(うち交付金 17,587,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事請負 【実施方法の選定理由】 市有施設のため。 【契約方法と落札率または補助率等】 条件付き一般競争入札 落札率 94% 【契約相手方の選定理由】 条件付き一般競争入札による。 【事業費の積算根拠】 設計による。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 阿児アリーナ年間利用者数 延約80,000人 【管理責任者（森林所有者）への対応】 市有施設であり該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有施設であり該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 広報誌により、税を活用して実施する事業として紹介する。 【実施中の実績】 工事看板やのぼり旗により、税を活用していることを周知する。 【実施後の実績】 みえ森と緑の県民税市町交付金により実施した旨の看板を設置する。 広報誌等において、その旨周知する。 【今後の見込】 施設利用者に木製家具を利用してもらうことで、県産材、木材利用のPRを実施する。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

志摩市

事業名

阿児アリーナ大規模改修事業

7. 写真



写真1

ロビー テーブル・椅子



写真2

ロビー テーブル・椅子



写真3

ロビー テーブル・ソファ



写真4

ロビー ベンチ

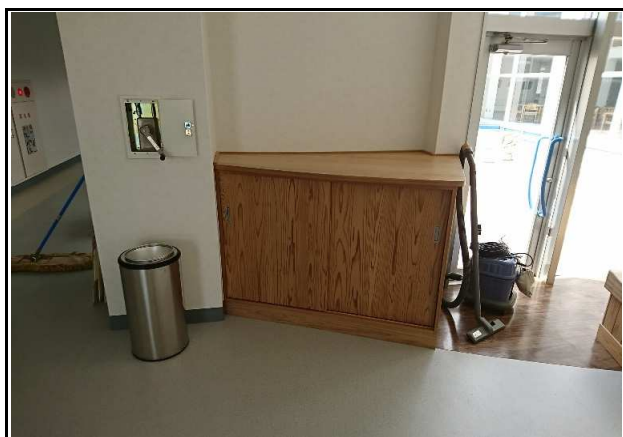


写真5

ロビー 三角収納棚



写真6

玄関ホール 収納棚

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

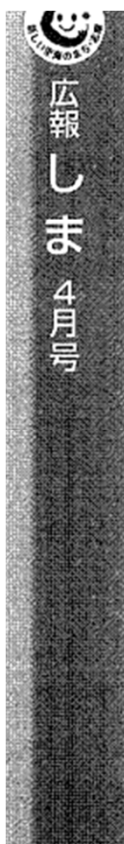
市町名

志摩市

事業名

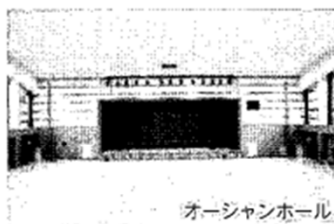
阿児アリーナ大規模改修事業

7. 写真

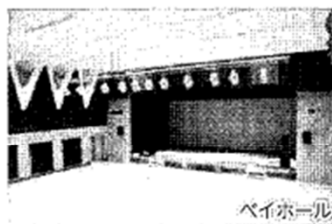


阿児アリーナ が 4月1日 リニューアルオープン します

ご迷惑をおかけしていましたが阿児アリーナの大規模改修工事が完了し、4月1日にリニューアルオープンします。施設の利用方法、開館時間などは今までどおりです。新しくなった阿児アリーナを皆さんぜひご利用ください。



オーシャンホール



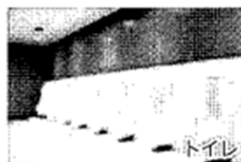
ベイホール



1階ロビー



化粧室



トイレ



会議室



控室



1階ロビーの木製家具は
「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」により
県産材を活用し設置しました。

問い合わせ 阿児アリーナ

☎ 43・7000 ☎ 43・7003

✉ a-arena@city.shima.lg.jp

広報しま

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	玉城町
-----	-----

当年度交付金額	4,990,000 円（ほか、市町基金活用	378,680 円）
---------	-----------------------	------------

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 公共施設木質化事業	4.木の薫る空間づくり	5,368,680	4,990,000	378,680
合計		5,368,680	4,990,000	378,680

白 紙

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	玉城町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	公共施設木質化事業
事 業 費	5,368,680 円(うち交付金	5,368,680 円 うち基金活用 378,680 円)

1. 事業の目的

町内小学校の特別教室等の床を県産材で木質化し、また町内保育所へ県産材を活用した下駄箱を導入することで、木材利用の促進と森林の必要性を町民に理解してもらうことを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

町内小学校の特別教室等の床を布カーペットから県産材で木質化する。
町内保育所へ県産材を活用した下駄箱を導入する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】

玉城町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

小学校1箇所
保育所2箇所

【事業量】

外城田小学校(音楽室 99.1㎡)
有田保育所 6基 県産材使用量 4.46㎡
下外城田保育所 5基 県産材使用量 4.83㎡

【事業実施期間】

平成29年4月～平成30年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

保育所園児 185人、小学校児童 243人

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】

木とふれあえる保育環境・教育環境を園児・生徒や保護者に提供することで、木材の活用の促進と森林づくりへの理解を得るため。

【実施した効果】

木とふれあえる保育環境・教育環境を園児・生徒や保護者に提供したことで、木材の活用の促進と森林づくりへの理解が進んだ。

【実施箇所の今後の管理体制】

- ・小中学校を所管する教育委員会事務局で管理。
- ・保育所を所管する生活福祉課で管理。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】

- ・外城田小学校音楽室: 音楽の授業の場
- ・有田保育所・下外城田保育所 : 毎日の集団生活の中で木とふれあう

【実施内容に対する住民等の反応】

県産材により床を木質化したことにより児童、生徒、教職員から環境が良くなったとの声をいただいている。
県産材により下駄箱を整備したことにより園児、保護者から環境が良くなったとの声をいただいている。
引き続き、公共建築物に積極的に県産材を利用していく。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	玉城町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	公共施設木質化事業
事 業 費	5,368,680 円(うち交付金 5,368,680 円 うち基金活用 378,680 円)	

4. 効率性	【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 床の木質化:町による工事請負契約 下駄箱整備:備品購入契約 【実施方法の選定理由】 町有施設のため。 【契約方法と落札率または補助率等】 設計委託 : 随意契約 床木質化 : 指名競争入札による 落札率 90.12% 下駄箱整備 : 指名競争入札による 落札率 71.92% 【契約相手方の選定理由】 設計委託 : 随意契約(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号) 床木質化 : 指名競争入札による 下駄箱整備 : 指名競争入札による 【事業費の積算根拠】 他事業の単価と歩掛を参考にして積算を行った。		
5. 公益性（波及度）	【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 小学校と保育所の園児と児童の数から、430人と見込んでいます。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 町有施設のため、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設のため、転用等が想定されず、該当しない。		
6. 周知実績と今後の周知	【実施前の実績】 教育委員会を通じ該当校へみえ森と緑の県民税を活用し床の木質化をすることを周知。 生活福祉課を通じ該当保育所へみえ森と緑の県民税を活用し下駄箱整備することを周知。 【実施中の実績】 夏休み期間中に施工したため周知機会なし。 保育所についても備品納品のため、周知機会なし。 【実施後の実績】 みえ森と緑の県民税ロゴマークを施設壁面に掲示している。 【今後の見込】 今後も引き続き公共施設を中心にみえ森と緑の県民税を活用し県産材を利用すると共に税の周知を広報誌やホームページで行っていく。		
7. 写真	別紙のとおり		
8. その他特記事項	平成27年度から継続して保育所及び小中学校の木質化に取り組んでいる。 H27:田丸保育所、H28:田丸小学校、玉城中学校		

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

玉城町

事業名

公共施設木質化事業

7. 写真



写真1

外城田小学校音楽室 施工前

写真2

外城田小学校音楽室 施工後



写真3

有田保育所下駄箱 施工前

写真4

有田保育所下駄箱 施工後



写真5

下外城田保育所下駄箱 施工前

写真6

下外城田保育所下駄箱 施工後

白 紙

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	度会町
-----	-----

当年度交付金額	31,204,000	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	------------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 庁舎整備事業	4.木の薫る空間づくり	1,934,000	1,934,000	0
2 県産材備品購入事業	4.木の薫る空間づくり	3,036,000	3,036,000	0
3 公共施設緑化事業	5.地域の身近な水や緑の環境づくり	120,000	120,000	0
4 長原保育所改修事業	4.木の薫る空間づくり	20,374,000	20,374,000	0
5 【後年度に活用するための基金積立】		5,740,000	5,740,000	0
合計		31,204,000	31,204,000	0

白 紙

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	度会町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	庁舎整備事業
事 業 費	2,322,000 円(うち交付金	1,934,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	県産材を活用した交流スペースを設置し、木の薫る憩いの場を提供する。 庁舎正面玄関の人目に触れやすい箇所に木造の交流スペースを設置することで、来庁者の木への関心を高め、木材利用促進につなげる。
2. 事業計画概要	【事業内容】 屋外交流スペースの設置 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 度会町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1箇所 【事業量】 1棟 床面積25.76m2(木造部7.85m2、木質化部17.91m2)、木材利用量1.36m3 【事業実施期間】 平成29年4月21日～平成29年6月30日 【受益者、参加者、利用者数等】 役場来庁者年間約20,000人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 人目に付きやすい場所を木質化し、来庁者の休憩や送迎の待合せ場所として活用することで、より多くの木とふれあう機会を創出するため。 【実施した効果】 庁舎内の木質化が進み、木の製品をPRすることができている。 【実施箇所の今後の管理体制】 町が管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 庁舎内に啓発パンフレット等を配架し、相乗効果を狙う。 【実施内容に対する住民等の反応】 来庁者から、(コンクリートより)木の方が柔らかい雰囲気が出ていて良い等の評価をいただいている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	度会町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	庁舎整備事業
事 業 費	2,322,000 円(うち交付金	1,934,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 請負 【実施方法の選定理由】 専門業者が請け負うことで、円滑に高品質の施工が可能となるため 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(5社) 入札率95.5% 【契約相手方の選定理由】 最低価格入札業者 【事業費の積算根拠】 設計委託	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 役場来庁者年間約20,000人 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設整備であるため、転用等が想定されず該当しない	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 町ホームページに掲載 【実施中の実績】 工事看板に税を活用した事業であることを記載 【実施後の実績】 広報および伊勢新聞(H29.7.7)に掲載 【今後の見込】 -	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	度会町
事業名	庁舎整備事業		

7. 写真



写真1

着工前



写真2

全景

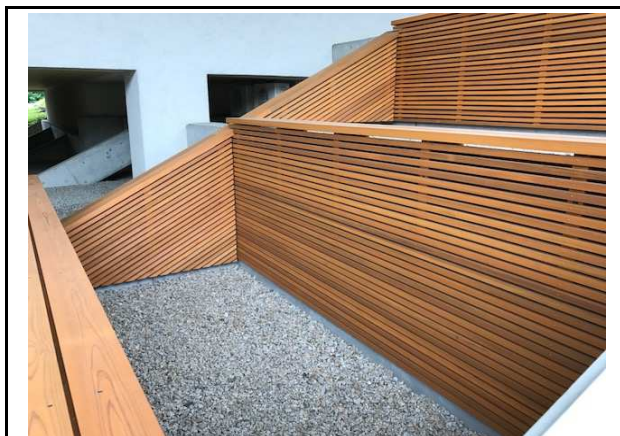


写真3

上段部



写真4

内装



写真5

広報わたり



写真6

(参考) 町庁舎での過年度事業等の周知状況

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	度会町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	県産材備品購入事業
事 業 費	3,036,960 円(うち交付金 3,036,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	町立中学校に県産材を活用した木製備品を導入することで、木材利用を促進するとともに、木材とふれあう機会を創出する。
2. 事業計画概要	【事業内容】 県産材木製品による中学校備品の整備 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 度会町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1か所(度会中学校) 【事業量】 木製教卓11基、音楽室木製椅子40脚、図書室木製本棚1基 【事業実施期間】 平成29年8月8日～平成29年11月29日 【受益者、参加者、利用者数等】 生徒数242人、職員数28人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 身近な備品を木質化し、多くの生徒が木に触れる機会を増やすことで木材や森林に興味をもつ機会を創出するため。 【実施した効果】 木製品が身近にあることで、木材や森林に興味をもつ機会を創出できた。 【実施箇所の今後の管理体制】 町が管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 過年度に購入した啓発物品(読本)の活用等、多角的に木材利用や森林づくりへの理解を進める。 【実施内容に対する住民等の反応】 教職員からきれいになり好評であることを聴取。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	度会町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	県産材備品購入事業
事 業 費	3,036,960 円(うち交付金 3,036,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 物品の購入 【実施方法の選定理由】 町施設のため 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 最低金額見積業者(3社見積) 【事業費の積算根拠】 参考見積	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 生徒数242人、職員数28人 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設整備であるため、転用等が想定されず該当しない	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 施設関係者へ説明を実施 【実施中の実績】 備品購入のため該当しない 【実施後の実績】 各備品に県民税のロゴマークを刻印済み 【今後の見込】 -	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

度会町

事業名

県産材備品導入事業

7. 写真



写真1

教卓(購入前)



写真2

木製教卓



写真3

本棚(購入前)



写真4

木製本棚



写真5

椅子(購入前)



写真6

木製椅子

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	度会町
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	公共施設緑化事業
事 業 費	129,600 円(うち交付金	120,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	町立小学校の校庭に植栽することにより、緑を身近に感じ、親しむ心を育む環境を提供する。
2. 事業計画概要	【事業内容】 町内小学校校庭への植栽(抜根含む) 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 度会町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1か所(度会小学校) 【事業量】 ドウダンツツジ 30本 【事業実施期間】 平成30年1月25日～平成30年2月26日 【受益者、参加者、利用者数等】 生徒数414人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 幼少期から緑とふれあえる環境を提供することで木材や森林に関心を持ってもらうため。 【実施した効果】 緑にふれあう機会を創出し、木材や森林に関心を持ってもらうためのきっかけづくりとなっている。 【実施箇所の今後の管理体制】 教職員が管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 森林環境教育の実施等と関連付けながら、木材や森林に関心を持ってもらうよう取り上げる。 H30に市町交付金事業で森林環境教育の実施を予定している。 【実施内容に対する住民等の反応】 植栽直後であり、現時点で関係者の反応は未聴取。 (ある程度成長後、教職員に反応を聴取予定)

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	度会町
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	公共施設緑化事業
事業費	129,600 円(うち交付金	120,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業務委託	
【実施方法の選定理由】 町内施設への植栽のため、町が購入	
【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約	
【契約相手方の選定理由】 少額随契により1社見積	
【事業費の積算根拠】 見積書	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 生徒数414人	
【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない	
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 備品購入であるため、転用等が想定されず該当しない	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 施設関係者に周知	
【実施中の実績】 物品購入のため該当しない	
【実施後の実績】 広報に掲載	
【今後の見込】 -	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
H30に市町交付金事業で森林環境教育の実施を予定している。	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	度会町
事業名	公共施設緑化事業		

7. 写真



写真1

着工前

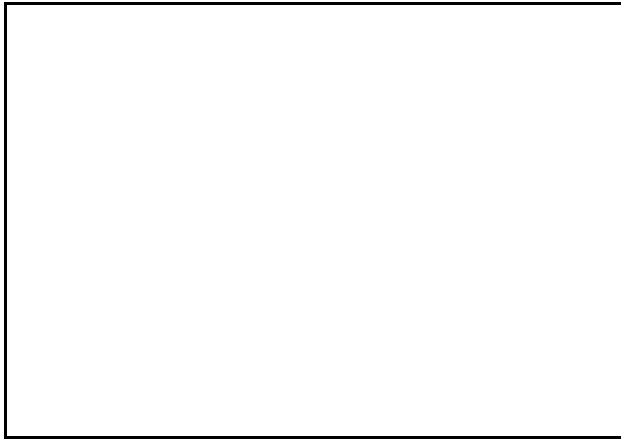


写真2



写真3

植栽後



写真4

植栽後



写真5

植栽後



写真6

植栽後

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	度会町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基本・特別	長原保育所改修事業
事 業 費	44,456,040 円(うち交付金 20,374,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	0歳児保育を充実させるために保育室の改修を行うにあたり、木質化を行うことにより木材の利用促進につなげる。また、幼い頃から直接木に触れ、五感を通して木材の良さを感じてもらう。
2. 事業計画概要	【事業内容】 保育室等床張替、壁・天井改修 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 度会町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1箇所 長原保育所 【事業量】 保育室4室、多目的室1室、乳児室1室、ホフク室1室、廊下 床面積445.65m2、県産材使用量6.40m3 【事業実施期間】 平成29年5月11日～平成29年11月29日 【受益者、参加者、利用者数等】 園児数40名 （園児定員75名）
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 0歳児保育を充実させるための保育室の改修を行うにあたり、木質化を行うことで木材の利用促進に加え、幼い頃から直接木に触れることで五感を通して木材の良さを感じてもらう機会を創出するため。 【実施した効果】 保育所を木質化することで、木の良さをPRすることができている。 【実施箇所の今後の管理体制】 町が管理を行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 過年度事業で実施した啓発物品（絵本）や木製玩具（積み木）を活用し、木質化された施設内で木育を推進する。 【実施内容に対する住民等の反応】 保育士から木の温かみを感じられる内装で良いとの評価を得ている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	度会町
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基本・特別	長原保育所改修事業
事 業 費	44,456,040 円(うち交付金 20,374,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事請負 【実施方法の選定理由】 専門業者が請負うことで円滑で高品質な施工が可能となるため 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(10社) 落札率70.1% 【契約相手方の選定理由】 最低金額入札業者 【事業費の積算根拠】 設計委託	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 園児数40名 (園児定員75名) 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設整備であるため、転用等が想定されず該当しない	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 関係者への周知を実施し、町ホームページに掲載。 【実施中の実績】 工事看板に税を活用した事業であることを記載。 【実施後の実績】 広報に掲載。 【今後の見込】 -	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

度会町

事業名

長原保育所改修事業

7. 写真



写真1

遊戯室(着工前)

写真2

保育室(着工前)



写真3

遊戯室

写真4

保育室

**活用してまいります
みなさんと一緒の未来を**

長原保育所改修事業は、「みなさんと一緒の未来を」をテーマに、地域の子どもたちと一緒に行っています。

きれいな空気を保ち、自然環境を保全し、地域の子どもたちと一緒に行っています。

平成29年度は、3年度改修事業を実施し、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

**長原保育所
改修工事完成**

地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

**3
内装の木質化**

内装の木質化は、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

**2
トイレの改善**

トイレの改善は、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

**1
乳児室のフラット化**

乳児室のフラット化は、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

**3
新しくなりました**

新しくなりました。地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

※保育園・幼稚園・小学校の子どもたち、地域の子どもたち、地域の子どもたちと一緒に行っています。

広報わたり

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	大紀町
-----	-----

当年度交付金額	17,655,000	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	------------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 生活環境林整備事業	2.暮らしに身近な森林づくり	999,000	999,000	0
2 溪流倒木等処理事業	1.土砂や流木を出さない森林づくり	999,000	999,000	0
3 木材利用促進・普及補助金	3.森を育む人づくり	50,000	50,000	0
4 【後年度に活用するための基金積立】		15,607,000	15,607,000	0
合計		17,655,000	17,655,000	0

白 紙

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	生活環境林整備事業
事 業 費	999,000 円(うち交付金	999,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	人家裏や通学路沿いの倒木等の恐れのある危険木を除去し、通常の暮らしを安全を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 倒木等の恐れがある人家裏や通学路等の危険木除去 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 大紀町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 4箇所(大内山地内1箇所、錦地内3箇所) 【事業量】 危険木等の除去 120本 【事業実施期間】 平成29年8月25日～平成30年3月30日 【受益者、参加者、利用者数等】 整備地区の住民 60戸 250人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 特に危険度が高く、緊急を必要とする箇所から公共性の高い町道(通学路・生活道路)や集会所裏の危険木の除去を実施 【実施した効果】 住民の生活環境が向上し、安全が確保された。 【実施箇所の今後の管理体制】 危険木等の発生による緊急的に必要な場合、町にて対応していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 看板の設置による税事業の実施の周知と、写真等の庁舎への掲示により周知する。 【実施内容に対する住民等の反応】 聴き取りによると、生活環境が向上し、安全が確保された。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	生活環境林整備事業
事 業 費	999,000 円(うち交付金	999,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託契約 【実施方法の選定理由】 森林所有者による整備が困難な箇所において、町が実施することにより、町道沿（通学路・生活道路）や集会所裏等、特に緊急性の高い箇所において、整備を進めた。 【契約方法と落札率または補助率等】 見積りによる随意契約。落札率95% 【契約相手方の選定理由】 現地及び当該事業に精通している森林組合を選定。 【事業費の積算根拠】 森林組合による各箇所の見積りを参考とし、積算し事業費を決定した。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 整備地区の住民基本台帳からの把握 60戸 250人 【管理責任者（森林所有者）への対応】 所有者に伐採の許可後に実施。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林所有者に対し、転用や目的外使用が出来ないことを説明している。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 看板で事前周知 【実施中の実績】 看板で周知 【実施後の実績】 事務所に、実施状況写真、説明文を掲示し、税事業のPRを行う。 【今後の見込】 町イベント時等、多数の来場が見込める時に、写真等の展示を行い周知していく。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町
事業名	生活環境林整備事業		

7. 写真



写真1

錦地区通学路危険木(雑木)



写真2

錦地区通学路危険木(雑木)撤去後



写真3

大内山地区(大紀小学校)落下の危険性がある枝



写真4

大内山地区(大紀小学校)落下の危険性がある枝除去後



写真5

事業実施後の周知(事務所への写真等の掲示)



写真6

事業実施後の周知(事務所への写真等の掲示)

対策区分	1. 土砂や流木を出さない森林づくり	市町名	大紀町
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	溪流倒木等処理事業
事 業 費	999,000 円(うち交付金	999,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	過去の台風や豪雨により発生した山間部溪流沿いの倒木や流木は、今後豪雨が発生した際には下流域へ流出する可能性があり、自然災害が増幅することも予想される。そのため、昨年から継続して倒木、流木の伐採・撤去を行なうことにより、自然災害の拡大化を抑制する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 山間部溪流沿いの危険倒木・流木を伐採・除去する。（県事業以外の小規模箇所対象） 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 大紀町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 3ヵ所（阿曾、崎、大内山） 【事業量】 倒木等除去本数 100本 【事業実施期間】 平成29年8月25日～平成30年3月30日 【受益者、参加者、利用者数等】 整備箇所下流の住民 80戸 250人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 山間部溪流沿いの危険倒木・流木が特に流出の危険がある箇所から実施。 【実施した効果】 流木が減少し、下流域での流木の衝突や橋梁への堆積等による危険が減少し、流域広範囲にわたる住民の安全性拡大が向上した。 【実施箇所の今後の管理体制】 危険倒木・流木等の発生による緊急的に必要な場合、町にて対応していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 看板の設置による税事業を周知。また庁舎内に写真等を掲示し税事業をPRする。 【実施内容に対する住民等の反応】 聴き取りによると、生活環境が向上し、安全が確保された。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木を出さない森林づくり	市町名	大紀町
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	溪流倒木等処理事業
事 業 費	999,000 円(うち交付金 999,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託契約 【実施方法の選定理由】 森林所有者による整備が困難な箇所において、町が実施することにより、特に緊急性の高い箇所において、整備が進んだ。 【契約方法と落札率または補助率等】 見積りによる随意契約。落札率96% 【契約相手方の選定理由】 現地及び当該事業に精通している森林組合を選定。 【事業費の積算根拠】 森林組合による各箇所の見積りを参考とし、積算し事業費を決定した。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 整備箇所下流地区の住民基本台帳からの把握。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 所有者に伐採の許可後に実施。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林所有者に対し、転用や目的外使用が出来ないことを説明している。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 看板で事前周知 【実施中の実績】 看板で周知 【実施後の実績】 事務所に、実施状況写真、説明文を掲示し、税事業のPRを行う。 【今後の見込】 町イベント時等、多数の来場が見込める時に、写真等の展示を行い周知していく。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	1. 土砂や流木を出さない森林づくり	市町名	大紀町
事業名	溪流倒木等処理事業		

7. 写真



写真1

崎地内 倒木



写真2

崎地内 倒木処理後



写真3

大内山地内 倒木



写真4

大内山地内 倒木処理後



写真5

事業実施後の周知(事務所への写真等の掲示)



写真6

事業実施後の周知(事務所への写真等の掲示)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	大紀町
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	木材利用推進・普及補助金
事 業 費	50,000 円(うち交付金 50,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	イベントを通じて、木に触れながら森林の必要性を感じてもらう。
2. 事業実績概要	【事業内容】 木に触れることを目的とした木工教室を実施。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 大紀町 【補助率等】 事業費50,000円 内交付金50,000円 補助率 100% 【箇所数】 町のイベント時(大紀町ふれあいまつり)に開催。 【事業量】 木工教室 1回 【事業実施期間】 平成29年10月15日開催 【受益者、参加者、利用者数等】 参加者人数 20人 内アンケート協力者10名
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 次世代の子供達が多く集まる町イベント時に開催。 【実施した効果】 木に触れたり、木材を組み立てたりする事が少ない現代において、木に触れる貴重な機会であり、天候不良もあり参加者全数ではないが、アンケート結果を見ると、森林に興味を持って頂けることが出来たと思われる。併せて県民税のリーフレット及びを配布することにより税事業について理解を深めて頂いた。 【実施箇所の今後の管理体制】 施設整備等ではなく、該当しない。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 施設整備等ではなく、該当しない。 【実施内容に対する住民等の反応】 子供のみならず、親子で参加頂いており、木に触れる良い機会と評価を頂いている。また、アンケート及びパンフレットにて、県民税のPRが出来ていると思われる。アンケート抜粋:「森林や林業について、体験してみたいこと」・木を切ってみたい 5人 ・大きな木を切ってみたい 2人 ・チェーンソー大会に出てみたい 1人 ・山がどうなっているか実際に見てみたい 1人。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	大紀町
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	木材利用推進・普及補助金
事 業 費	50,000 円(うち交付金	50,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 大紀森林組合に材料費等の補助。 【実施方法の選定理由】 多数の来場者が集まる町イベント時に開催。 【契約方法と落札率または補助率等】 該当なし 【契約相手方の選定理由】 該当なし 【事業費の積算根拠】 森林組合による見積りを参考とし、積算し事業費を決定した。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 イベント参加者人数 20人 内アンケート協力者10名 【管理責任者（森林所有者）への対応】 イベントの為該当なし。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 イベントの為該当なし。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 幟で、木工教室の開催を周知した。 【実施中の実績】 幟・パンフレット・アンケートの説明で、税を活用していることを周知した。 【実施後の実績】 幟・パンフレット等で税を活用していることを周知した。 【今後の見込】 —	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	大紀町
事業名	木材利用推進・普及補助金		

7. 写真



写真1

木工教室開催状況



写真2

木工教室開催状況



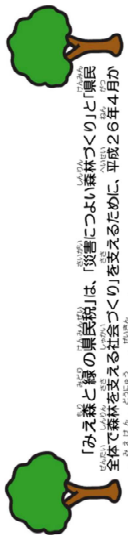
写真3

木工教室開催状況



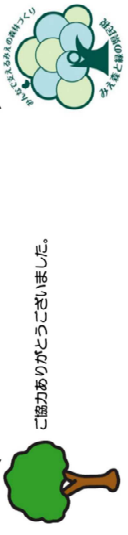
写真4

木工教室開催状況



「みえ森と緑の真民協」は、「故郷につよい森林づくり」と「県民全体で森林を育てる社会づくり」を支えるために、平成26年4月から三重県が導入した協賛です。
大紀町では、この協賛を活用して、木工教室を開催しました。今後の参考とするために、感想をお聞かせください。

- ① 年齢と性別
() 歳 □ 男 □ 女
- ② このイベントにこの紙を渡っていることを知っていましたか
□ 知っていた □ 知らなかった (今知った)
- ③ 木工教室をうけて、どう感じましたか
□ だのしかった。 □ むずかしかった。
□ 木のかおりがした。 □ 木のあたかみをかんじた。
□ その他 ()
- ④ 木工教室をうけて、森林や林業のことに知りたくなった
□ そう思う □ やや思う □ そう聞かない
- ⑤ 森林や林業について、体験してみたいとありますが、おしえてください
(樹) 立っている木を切ってみたい・山の勉強をしてみたいなど ()



ご協力ありがとうございます。

アンケート用紙

白 紙

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	南伊勢町
-----	------

当年度交付金額	31,263,000	円（ほか、市町基金活用	0	円）
---------	------------	-------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 町施設備品購入	4.木の薫る空間づくり	13,057,000	13,057,000	0
2 危険木除去事業	2.暮らしに身近な森林づくり	15,135,000	15,135,000	0
3 森林環境教育事業	3.森を育む人づくり	73,000	73,000	0
4 遊歩道整備事業	5.地域の身近な水や緑の環境づくり	2,998,000	2,998,000	0
合計		31,263,000	31,263,000	0

白 紙

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	南伊勢町
------	--------------	-----	------

番 号	区 分	事 業 名
1	特 別	町施設備品購入
事 業 費	13,070,160 円(うち交付金 13,057,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	南伊勢町の庁舎や保育園、病院、福祉施設等の備品を木製品とすることで、木材利用を推進するとともに、木造製品の良さをPRする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 南伊勢町の庁舎や保育園、病院、福祉施設等の備品に木製品を設置する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 南伊勢町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 4箇所【真砂寮(町福祉施設)、町民文化会館、東宮資料館(町資料館)、南伊勢町役場南島庁舎】 【事業量】 別紙参照 【事業実施期間】 平成29年6月23日～平成30年2月23日 【受益者、参加者、利用者数等】 真砂寮 約120名 町民文化会館 約32,000名 東宮資料館 約475名 南島庁舎 約12,000名
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 今回設置した施設は、日頃から利用者が多く、真砂寮については今年新設し、床や壁に木材を使用しているため、県産材家具との調和により木製品の良さをふんだんにPRできるため。 【実施した効果】 施設利用者に、木製品とふれあえる機会を提供することができ、PRすることができた。また、町民文化会館は子ども達の学童施設にもなっているので木育も進めることができ、保護者にもPRすることができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 管理については、施設管理者に行ってもらう。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 「税」のステッカーを貼りPRする。施設入口に「税」のチラシなどを貼ることにより周知と木の良さをPRしていく。 【実施内容に対する住民等の反応】 施設の関係者や利用者から好評との声が上がってきている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	南伊勢町
------	--------------	-----	------

番 号	区 分	事 業 名
1	特 別	町施設備品購入
事 業 費	13,070,160 円(うち交付金	13,057,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による物品購入（業務委託） 【実施方法の選定理由】 町施設の備品購入であるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 3者から見積りを徴収し、それを基に積算した。 【契約相手方の選定理由】 町の規定に基づき、競争入札で選定した。 【事業費の積算根拠】 見積りを基に積算した。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 真砂寮 約120名 町民文化会館 約32,000名 東宮資料館 約475名 南島庁舎 約12,000名 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 各施設での備品購入のため、転用が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 施設関係者に周知し、事業の内容などを理解してもらいPRした。 【実施中の実績】 物品の購入であり「実施中」に該当する期間がない。 【実施後の実績】 「税」のステッカーを貼りPRする。施設の掲示板などに「税」のチラシなどを貼ってPRする。 【今後の見込】 町の方は、町広報誌が一番の情報手段でもあるので、今後、町広報誌を活用してPRしていく。	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

	名称	規格	数量	
1	テーブル	W1500*D900*H700	20	真砂寮
2	椅子(肘付)	W530*D561*H730(sh410)	17	
4	ロケット型テーブル	W1500*D700*H700	1	
5	背もたれ椅子	W400*D510*H850(sh430)	4	
6	テーブル	W1250*D850*H700	4	
7	椅子	W460*D490*H750(sh430)	14	
8	ブックトラック	W820*D450*H1050	2	
9	中庭用ベンチ	W1800*D360*H380	4	
10	・博物館の棚 (棚3段・両面・無塗装) ・ガス抑制コート剤(NANOVコート)	W3090*D1300*H2000	1	東宮資料館
11	閲覧椅子	W519*D506*H799(sh430)	13	
12	長机(会議テーブル)	W1800*D450*H720	13	町民文化会館
13	4分割楕円テーブル	W2000*D1800*H700	2	
14	背もたれ椅子(14の付属)	W400*D510*H850(sh430)	8	
15	長椅子(ロビーベンチ)	W1800*D610*H800(sh420)	6	
16	パンフレットスタンド	W770*D400*H1600	1	南島庁舎
17	ブックトラック	W820*D450*H1050	1	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	南伊勢町
事業名	町施設備品購入		

7. 写真



写真1

テーブル・椅子



写真2

パンフレットスタンド



写真3

4分割楕円テーブル・背もたれ椅子・長机



写真4

各施設でのPR



写真5

博物館用棚(棚3段・両面・無塗装)



写真6

「税」ステッカー

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町
------	-----------------	-----	------

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	危険木除去事業
事 業 費	15,137,280 円(うち交付金 15,135,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	公共施設の周辺や通学路、避難道等の危険木を除去し、安心安全な街づくりを目指し生活環境の向上を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 公共施設の周辺や通学路、避難道等の危険木の除去を行う。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 南伊勢町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 13箇所(伊勢路1箇所、木谷2箇所、神前浦3箇所、方座浦1箇所、村山1箇所、古和浦3箇所、阿曾浦1箇所、道方1箇所) 【事業量】 危険木除去 13箇所 枝葉:43.06t 樹幹:38.79t 【事業実施期間】 平成29年10月3日～平成30年3月20日 【受益者、参加者、利用者数等】 通学路を利用する児童・生徒など 620人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 区の要望聞き取りを行い、実施箇所については、その中から職員が確認し優先順位をつける。 【実施した効果】 学校や保育園、公民館、町施設や通学路、避難道などの町民が多く利用する施設周辺の危険な状態の木が整備される。 【実施箇所の今後の管理体制】 普段の管理は、区・施設管理者が行う。規模の大きなものに関しては町で実施する。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 区の掲示板で周知。実施箇所に関して、町広報誌に掲載し周知する。 【実施内容に対する住民等の反応】 区長や施設管理者への聞き取りにより感謝の声が上がってきている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町
------	-----------------	-----	------

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	危険木除去事業
事業費	15,137,280 円(うち交付金	15,135,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託 【実施方法の選定理由】 町からの委託により実施。高齢化が進んでおり、住民活動での実施は難しい。 【契約方法と落札率または補助率等】 3者から見積りを徴収し、それを基に積算した。 【契約相手方の選定理由】 町の規定に基づき、競争入札で選定した。 【事業費の積算根拠】 見積りを基に積算し、箇所をとりまとめたうえで発注した。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 通学路を利用する児童・生徒の人数。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 公共施設などの敷地に入り込んでいる部分のみの伐採なので、管理責任者の責任で実施するものと判断している。実施する際は、所有者から同意書を得ている。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 皆伐を考えていないので、転用制限等を考えていない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 区長や施設管理者に事業内容などを理解してもらい、周辺の住民や所有者に周知してもらいPRした。 【実施中の実績】 工事看板に「税」の名前を入れてPRした。また、工事中に「税」の幟旗を掲げPRした。 【実施後の実績】 区の掲示板に「税」のチラシを貼ってPRした。町広報誌に掲載しPRした。 【今後の見込】 町の方は、町広報誌が一番の情報手段でもあるので、今後、町広報誌を活用してPRしていく。	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
平成28年度からの継続事業 ほとんどが雑木であり高齢化も進んでいる為、所有者による整備は困難であると考えられる。	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町
事業名	危険木除去事業		

7. 写真



写真1
危険木除去(阿曾浦)避難道 実施前
避難道に巨木が覆い被さり倒木の可能性がある。



写真2
危険木除去(阿曾浦)避難道 実施後 避難道の巨木を伐採したことにより倒木の危険木がなくなった。



写真3
危険木除去(木谷) 実施前
通学路であり、木が覆い被さってきて危険である。



写真4
危険木除去(木谷) 実施後 倒木の危険がなくなり、安全に安心して通学出来るようになった。



写真5
危険木除去(方座浦)実施前
公共施設に木が覆い被さり危険である。



写真6
危険木除去(方座浦) 実施後
木を伐採したことにより、倒木の危険がなくなった。



みえ森と緑の県民税

危険木除去事業

「みえ森と緑の県民税」は「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるために、平成26年4月から三重県が導入した税金です。南伊勢町では、このみえ森と緑の県民税を活用して、危険木除去事業を実施しています。



阿曾浦区では、避難道に巨木が覆い被さり倒木の危険がある木を伐採しました。



方座浦区では、公共施設裏の木が覆い被さり倒木の危険があったため木を伐採しました。

町施設設備品購入事業

南伊勢町では、このみえ森と緑の県民税を活用して、町施設設備品購入事業を実施しています。真砂寮・町民文化会館・東宮資料館に木製品を導入しました。

●町民文化会館



●真砂寮



●東宮資料館



木を使うことは、地球温暖化の防止にも貢献します。南伊勢町では、公共施設に三重県の木のできた机や椅子などを取り入れて、「木の薫る空間づくり」に取り組んでいます。ご来館の際は、一度木製品に触れてみて木の香りを感じてみてください。

問い合わせ先 水産農林課 ☎ 0596-77-0007

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町
------	-------------	-----	------

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	森林環境教育事業
事 業 費	73,255 円(うち交付金	73,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	森林や緑を大切に思い育む人づくりのため、小学生を対象に森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森や緑の大切さなどの理解を深めていくために木育を推進していく。
2. 事業実績概要	【事業内容】 町内の小学生を対象に森や緑について学び、南伊勢町の森林や木材についてふれあうことを目的とした木育教室を実施する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 南伊勢町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1箇所(南島西小学校) 【事業量】 小学校 1箇所 【事業実施期間】 平成29年11月14日 【受益者、参加者、利用者数等】 南島西小学校(1年生:12名 2年生:12名 5年生:14名 計38名)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 町のふるさと教育事業の関連で森林環境教育について説明し積極的な学校から行なった。 【実施した効果】 森林や木材にふれあう機会が少ない現代において、木のふれあう貴重な機会であり、森林に興味を持ってもらえた、とても良い機会になった。 【実施箇所の今後の管理体制】 施設等整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 木にふれあい貴重な体験が出来たので、今後も継続的に森林環境教育を実施していく。 【実施内容に対する住民等の反応】 対象児童から森林への興味や理解が深まったと手紙がきている。今後も継続して実施していく。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町
------	-------------	-----	------

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	森林環境教育事業
事 業 費	73,255 円(うち交付金 73,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託 【実施方法の選定理由】 委託することで、専門的な立場から森林環境教育の重要性を認識した上で、適切な教育を実施することができるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 町の規定に基づき、随意契約を行なった。県民税を活用して設立されたみえ森づくりサポートセンターに森のせんせいとして登録があった。 【事業費の積算根拠】 参考見積り	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 南島西小学校(1年生:12名 2年生:12名 5年生:14名 計38名)と学校関係者。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林環境教育事業であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 森林環境教育事業について、「税」で行なうことを説明し、各小学校に参加を呼びかけた。 【実施中の実績】 「税」の幟旗を設置しPRした。 【実施後の実績】 学校に「税」のチラシを貼ってPRした。また、小学校の保護者向けの便りに掲載した。 【今後の見込】 今後も継続的に森林環境教育を実施することで、児童や保護者、学校の先生への定着を図りたい。	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町
事業名	森林環境教育事業		

7. 写真



写真1

森のせんせいのお話



写真2

木のキーホルダー作り



写真3

木のキーホルダー



写真4

木のコースター作り



写真5

丸太切り体験

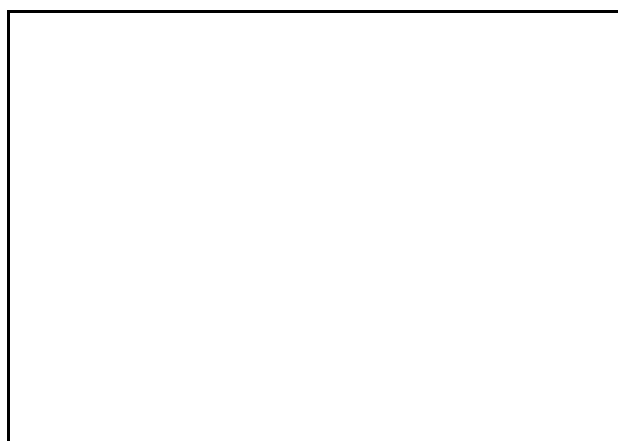


写真6

森と木の授業



14日（火）には、いせ森林組合と水産農林課のかたに来ていただき、「森と木の授業」をしていただきました。森は生き物が住める場所であること、木は、根っこから水をすって、葉っぱで光をうけて、二酸化炭素をすって大きくなることなどを教えていただきました。少し1年生にとっては難しい話でしたが、みんな真剣に聞いていました。その後、学校の木を剪定した枝で、キーホルダーを作りました。一生懸命がいて、絵を描いて世界でひとつだけのキーホルダーができました。教えていただいたことを話して、キーホルダーを見てもらうという宿題をだしましたが、お家の人に話したでしょうか。



1年生の学級通信「なかま」

森の先生に教えていただきました！

14日（火）、いせしま森林組合の方に来ていただき、木についていろいろと教えていただきました。「木は光合成をして、二酸化炭素を吸って、酸素を吐き出している」と聞いて「木が呼吸をしているなんて！」と子どもたちは驚いていました。

コースターづくりでは、丸太を自分たちで切りました。「腰が痛い」「疲れた」と言いながらも切り終えたときの笑顔は「やり遂げた！」という素敵な笑顔でした。子どもたちが作ったコースター2枚、いかがでしたか？



5年生の学級通信「チャレンジ」

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	南伊勢町
------	--------------------	-----	------

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	遊歩道整備事業
事 業 費	2,999,160 円(うち交付金	2,998,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	町の宿泊施設の遊歩道を県産材を活用して新たに整備し、県産材の利用促進を図るとともに、利用者及び住民が自然に親しみ、森林とふれあう環境を身近にし、誰もが安心・安全に気軽に利用できることを目的とする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 宿泊施設の遊歩道を県産材を活用して新たに整備することで、県産材の利用促進を図るとともに、利用者及び住民が安心・安全に気軽に利用でき、自然に親しみ森林とふれあう機会を増やす。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 南伊勢町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1箇所(道方地区) 【事業量】 町内宿泊施設1箇所(浮島パークなんとう 遊歩道) 【事業実施期間】 平成30年2月21日～平成30年3月26日 【受益者、参加者、利用者数等】 年間利用者 約3,100人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 浮島パークなんとうの遊歩道を整備することで、森林浴や登山など自然に親しみ森林とふれあう機会が増えるため。 【実施した効果】 遊歩道の整備が一部未完成の部分があるため、森林とふれあう機会はまだ少ないが、完成すればさらに理解が深まることが期待される。 【実施箇所の今後の管理体制】 町において、維持管理を行っていく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 遊歩道を活用し、自然観察会や森林ウォーキング、災害時の津波からの避難など再整備することでさらに森林を総合的に利用し森林を身近にしていける。 【実施内容に対する住民等の反応】 区長や施設管理者より感謝の声が上がってきている。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	南伊勢町
------	--------------------	-----	------

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	遊歩道整備事業
事 業 費	2,999,160 円(うち交付金 2,998,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事請負 【実施方法の選定理由】 町が管理する施設のため。 【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札 【契約相手方の選定理由】 町の規定に基づき、競争入札で選定した。 【事業費の積算根拠】 三重県林道工事および森林整備の歩掛を用いて積算。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 宿泊施設(浮島パークなんとう)の利用者。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設の整備であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 区長や施設管理者に事業内容などを理解してもらい、周辺の住民や所有者に周知してもらいPRした。 【実施中の実績】 工事看板に「税」の名前を入れてPRした。 【実施後の実績】 区の掲示板に「税」のチラシを貼ってPRした。また、施設管理者から利用者にも周知を行ってもらった。 【今後の見込】 町の方は、町広報誌が一番の情報手段でもあるので、今後、町広報誌を活用してPRしていく。	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	南伊勢町
事業名	遊歩道整備事業		

7. 写真

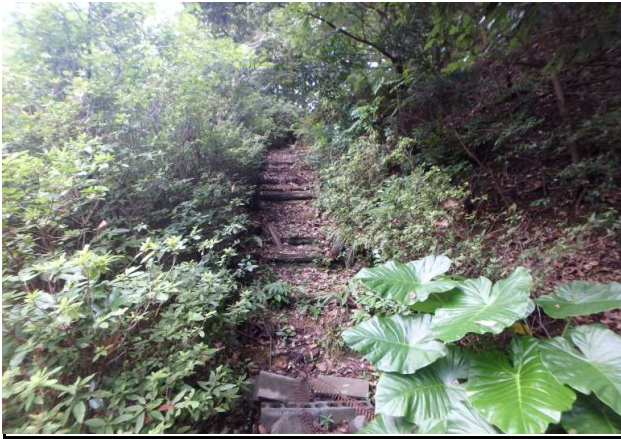


写真1

実施前



写真2

実施後



写真3

実施後



写真5



写真4

みえ森と緑の県民税の名前を入れてPRした



写真6

白 紙

伊賀農林事務所管内

白 紙

白 紙

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	水源林整備事業
事 業 費	1,782,000 円(うち交付金	1,782,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	水は市民生活の基盤であり、森林は市民へ水を供給する源泉である。しかしながら、近年の林業の不振などにより、手入れがなされず荒廃した森林が増えており、特に奥山においては荒廃が顕著で、水源涵養機能の維持が困難な状況にある。 そこで、奥山で長年放置されて荒廃している環境林を適度に間伐することで、水源涵養機能の増進を図り、併せて森林所有者と環境林維持の協定を結ぶことで環境林の長期的な維持・存続を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 水源地となる奥山の環境林で、三重県水源地地域の保全に関する条例における特定水源地域に指定されている場所において強度の間伐(間伐本数率40%を上限)を実施し、水源涵養機能の増進を図る。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 名張市 【補助率等】 補助事業ではないため、該当しない。 【箇所数】 1ヶ所(名張市長瀬地内) 【事業量】 水源林:事業実施面積 6.88ha 【事業実施期間】 平成29年10月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 長瀬地区 住民202名（平成30年5月1日統計）
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 「三重県水源地地域の保全に関する条例」に基づき水源地域に指定された森林を針広混交林として整備することにより、その多様な公益的機能を持続・効果的に発揮させるため。 【実施した効果】 強度間伐により下層植生の更新を促し、山林の持つ公益的機能が向上、特に水源涵養機能が向上した。 【実施箇所の今後の管理体制】 施設等整備ではないので、該当しない。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 市のHPに事業内容を掲載することで、事業の意義や森林を整備する意識の啓発を図る。 【実施内容に対する住民等の反応】 補助事業実施者からは、「長年放置していた山奥の整備することができ、大変ありがたい。」等の声をいただいた。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	水源林整備事業
事 業 費	1,782,000 円(うち交付金	1,782,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託契約 【実施方法の選定理由】 伊賀森林組合、長瀬地区において本事業に参加する22名の森林所有者と名張市の3者は環境づくり協定を締結している。そのため、森林整備は伊賀森林組合が実施する必要がある。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 伊賀森林組合、長瀬地区において本事業に参加する22名の森林所有者と名張市の3者は環境づくり協定を締結している。そのため、森林整備は伊賀森林組合が実施する必要がある。 【事業費の積算根拠】 「平成29年度森林環境創造事業にかかる標準単価の決定について」を参考にした。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 長瀬地区 住民202名（平成30年5月1日統計） 【管理責任者（森林所有者）への対応】 環境づくり協定を締結した森林管理者（伊賀森林組合）が協定期間内は管理を行う。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 環境づくり協定により、協定期間は転用等を規制している。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した 【実施後の実績】 平成30年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。 【今後の見込】 県民税のPRのぼりを作成し、設置予定。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
事業名	水源林整備事業		

7. 写真



写真1
着工前



写真2
着工後



写真3
着工前



写真4
着工後

森林を守るためにみえ森と緑の県民税の活用を

④ 森林資源課 63・7625
 額は、「みえ森と緑の県民税」を平成26年4月1日から導入しています。この県民税は、各市町に交付金として交付されます。市では、要綱に基づき、この交付金を有効に活用する事業に対して補助します。

名張市みえ森と緑の県民税市町交付金活用事業補助金

■ 災害に強い森を育成

森林に面する森林で森林所有者が行う間伐や整備などの経費の一部の補助
 (間伐 200 円 / 本、
 苗木植栽 100 円 / 本、苗木の保護施設
 設置 600 円 / 本)

■ 未利用間伐材バイオマス利用促進

森林所有者などが市内の森林から木材市へバイオマス燃料として、未利用間伐材の集出および運搬に要する
 経費を助成
 (2,500 円 / トン)

■ 人家危険木材伐採

災害時などに人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採費用の助成
 (上限 10,000 円 / 本)

■ 森林公園など環境活用

地域の皆さんに
 森林公園などを整備
 備していただき、
 苗木の植栽などに
 係る経費の助成
 本年度は、3 か所実施予定

■ 学校林整備

学校林の整備費
 用を助成し、小・学
 生が緑に対する理
 解を深める機会を
 つくる。

◎補助事業の内容、補助金額など詳しくは、
 問い合わせ先へ

28 年度は、こんなことに活用しました (内容・事業費)

▼約 700 トンのバイオマス燃料の集出および運搬 経費を助成	175 万円
▼市内 3 か所の森林公園の苗木除去など整備に助成	144 万円
▼奈良県に自然観察道を設置	
▼通学路などで他木の恐れがある危険木を市内 8 か所で 80 本程度を伐採	182 万円
▼森林や木の知識を深める図書を購入し、市立図書館に設置	10 万円
▼市内公立保蔵小 4 か所に樹皮の木材を使用した机などを設置	172 万円
▼保蔵小学校の学校林整備を助成	50 万円

広報なばり

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	森林公園等環境活用整備事業
事 業 費	600,000 円(うち交付金 600,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 事業内容は次の通り。 ①東山ふれあいの森:多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、倒木等を整理し、遊歩道を整備した。 ②桔梗が丘10号公園:森林環境教育や地域の植樹イベントなどに利用できるよう、ナラ枯れなどによる枯れ木や倒木の整理、苗木の購入・植栽などを行った。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 地域づくり組織（ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会） 【補助率等】 定額補助（上限300,000円）（東山ふれあいの森、桔梗が丘10号公園） 【箇所数】 2ヶ所 【事業量】 東山ふれあいの森:17.08ha 遊歩道・駐車場の整備、立木の除去・剪定、除草、案内看板設置 桔梗が丘10号公園:3.2ha 枯れ木の伐倒、植樹イベントでの植樹、遊歩道の整備 【事業実施期間】 平成29年5月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 整備によって森林に親しむ豊かな生活環境が向上する地域住民: 比奈知地域:人口 1,337 人、599 世帯 桔梗が丘:人口 8,513 人、3,752 世帯(人口統計資料)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 地域づくり組織からの補助申請箇所について、職員が書類、聞き取り、現地確認等により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。 【実施した効果】 公園整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、愛着や親しみが生まれ、それによって優しく公園を利用し、市民がこころ豊かな生活が送れるようになった。 【実施箇所の今後の管理体制】 今回の整備によって、身近な森林公園の整備の必要性を再認識しており、今後も引き続き、地域づくり組織によって実施後の状況が保たれるよう管理される。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 東山ふれあいの森は森林環境教育推進事業で桔梗が丘南小学校の森林環境教育に活用された。また、森林公園が整備されたことにより、地域住民が公園をさらに活用し易くなった。 【実施内容に対する住民等の反応】 地域づくり組織からは、「今回の補助によって、地域住民のボランティアによる森林公園の整備が実現できた。」「子どもたちの森林環境教育に活用することができ、やりがいを感じた。」との声をいただいている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	森林公園等環境活用整備事業
事 業 費	600,000 円(うち交付金 600,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業 【実施方法の選定理由】 地域住民が自ら整備することにより、地域で親しまれ、使いやすい森林公園になる。また、地域住民が公園に愛着を持つことで、より公園を大切にしていっきかけとなる。 【契約方法と落札率または補助率等】 定額補助(上限300,000円) 【契約相手方の選定理由】 補助事業であるため、該当しない。 【事業費の積算根拠】 森林公園等を地域づくり組織が自ら整備し、維持し、又は管理する事業に要する経費を補助対象としており、職員が書面により支出内容を確認している。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 整備によって森林に親しむ豊かな生活環境が向上する地域住民： 比奈知地域：人口 1,337 人、599 世帯 桔梗が丘：人口 8,513 人、3,752 世帯（人口統計資料） 【管理責任者（森林所有者）への対応】 土地の所有者が名張市であり、地域づくり組織との調整については問題はない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 実施箇所は市の所有地や都市公園のため、転用等の可能性は無い。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した 【実施後の実績】 平成30年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。 【今後の見込】 県民税のPRのぼりを作成し、設置予定。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
事業名	森林公園等環境活用整備事業		

7. 写真



写真1

階段の整備【東山ふれあいの森】



写真2

道案内看板設置【東山ふれあいの森】



写真3

植樹後状況【桔梗が丘10号公園】



写真4

除草作業中【桔梗が丘10号公園】



写真5



写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	名張市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
事 業 費	615,200 円(うち交付金	615,200 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	森林所有者による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の活用を図ると共に、森林の水土保全機能の回復を図る。 間伐材の搬出困難等で森林内にある未利用間伐材を名張市内の森林から搬出及び運搬する経費の支援を助成することで搬出を促進し、木質バイオマス燃料として活用するとともに、森林の持つ多面的機能の向上を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 木質バイオマスの促進を図るため、未利用間伐材を名張市内の山林から伊賀管内のFITに基づく木質バイオマス燃料買取実施場所まで搬出及び運搬に要する経費を助成する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 名張市内に住所を有する、もしくは森林を保有し、名張市内の森林において木質バイオマス用未利用間伐材の非営利搬出を行う者として名張市に登録した者。 【補助率等】 定額補助(2,500円/トン) 【箇所数】 該当事業者:6人 整備が行われた山林:6ヶ所 【事業量】 未利用間伐材の搬出 246.08トン 【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 受益者:補助事業実施者 6人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 補助事業実施者により選定 【実施した効果】 利用率の低い未利用間伐材のバイオマス資源利用が推進されるた。また、水土保全機能の回復、未利用残材の処理を推進することにより災害時の林地残材の流失防止に繋がった。 【実施箇所の今後の管理体制】 森林所有者によって管理 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 事業実施写真を活用し、市内の林業者に対し、説明会やチラシを配布等を行い、事業実施により災害時の林地残材の流出防止に繋がることの広報に努める。 【実施内容に対する住民等の反応】 補助事業実施者からは、本補助事業によって「林地残材の搬出に取り組みやすくなった。今後もこの補助を活用し山の整備を行いたい」、「最近では近隣の森林所有者から手入れして欲しいと頼まれたりしてやりがいがある。」などの反応があった。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	名張市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
事 業 費	615,200 円(うち交付金	615,200 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業 【実施方法の選定理由】 補助事業のため該当しない。 【契約方法と落札率または補助率等】 補助率:定額補助(2,500円/トン) 補助対象事業費:未利用間伐材の搬出及び運搬経費を支援することに要する経費 【契約相手方の選定理由】 補助事業のため該当しない。 【事業費の積算根拠】 名張市内の山林から搬入先事業所までの間伐材の搬出・運搬経費を上回らない額。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者:補助事業実施者 6人 【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者によって管理 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した 【実施後の実績】 平成30年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。 【今後の見込】 県民税のPRのぼりを作成し、設置予定。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	名張市
事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業		

7. 写真



写真1

積込状況



写真2

運搬状況



写真3

計測状況



写真4

PRのぼり旗

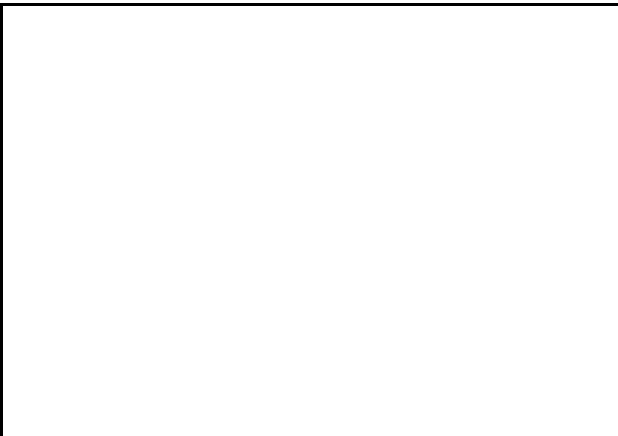


写真5

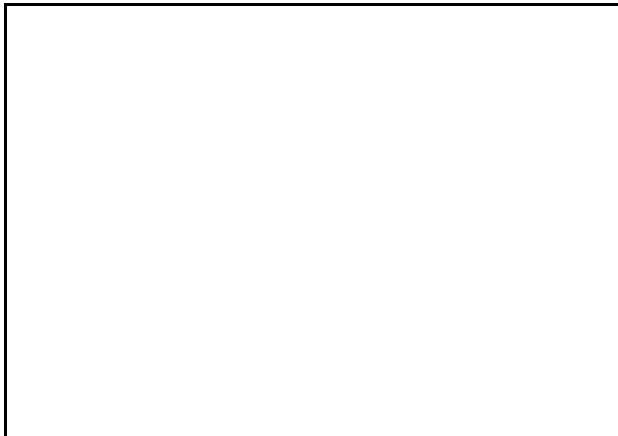


写真6

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	危険木伐採事業
事 業 費	3,432,000 円(うち交付金	3,432,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	通学路等及び市有施設の周辺や緑地にあつて、台風等により倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、市民の暮らしの安心・安全を確保する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 通学路、スクールバス通路及び市が所有する公共性・公益性の高い施設(小学校・中学校・保育所・幼稚園・公民館・市民センター・図書館)の周辺にあつて、台風等により倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 名張市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 13ヶ所(別紙のとおり) 【事業量】 危険木除去本数:60本程度(別添積算資料のとおり) 【事業実施期間】 平成29年5月24日～平成30年3月31日 【受益者、参加者、利用者数等】 整備によって通学路の安全性が向上する学校数:9校 桔梗が丘小学校、美旗小学校、名張小学校、つつじが丘小学校 桔梗が丘中学校、名張中学校、名張北中学校、名張南中学校 名張青峰高等学校
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 地域住民及び学校関係者の声や、市による現地確認等により、危険性や緊急性等を総合的に検討し、優先順位を決定した。 【実施した効果】 通学路沿いの危険木を除去したことにより、災害時等に倒木の危険が無くなり、子ども達の通学時の安心・安全が確保された。 【実施箇所の今後の管理体制】 当該箇所は雑木が多く、木材生産活動による維持が困難であることから、今後も緊急的に除去が必要な危険木が発生する可能性は高いため、市で対応していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所は、市道沿いであるため、市民の通行の妨げになる可能性もあり、税をPRする看板を設置することは難しいが、今後、市広報や学校教育の場において、住民に森林づくりの重要性を周知していく。 【実施内容に対する住民等の反応】 地域住民や学校関係者等に、「道路に覆いかぶさっていた木が無くなって安心できる。」等の声をいただいた。今後も、通学路の安全が維持されるよう、パトロールを行っていく。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	危険木伐採事業
事業費	3,432,000 円(うち交付金	3,432,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による委託契約 【実施方法の選定理由】 市有地にある災害時等に倒木等の恐れがある危険木の中でも、緊急性の高い通学路沿いの整備が進んだ。 【契約方法と落札率または補助率等】 市の契約関係規則に基づき、8件を随意契約により実施。 【契約相手方の選定理由】 設計の範囲内であったため、全て見積り徴取業者と契約している。 【事業費の積算根拠】 職員が造園修景積算マニュアル等によって詳細に設計。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 整備によって通学路の安全性が向上する小・中学校数:8校 【管理責任者（森林所有者）への対応】 市有地にあるか市道に危険を及ぼす恐れのある危険木について実施。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有地のため、転用等の恐れはない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した 【実施後の実績】 平成30年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。 【今後の見込】 県民税のPRのぼりを作成し、設置予定。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

実施場所	作業内容	備考
市道新田南古山線	樹木伐採作業	伐採7本

実施場所	作業内容	備考
市道旧県道上野名張線	樹木伐採作業	伐採6本

実施場所	作業内容	備考
市道平尾桜ヶ丘線	樹木伐採作業	伐採2本

実施場所	作業内容	備考
市道国津神屋線	樹木伐採作業	伐採7本

実施場所	作業内容	備考
つつじが丘13号公園隣接地	樹木伐採作業	伐採3本

実施場所	作業内容	備考
つつじが丘南5番町	樹木伐採作業	伐採14～19本

実施場所	作業内容	備考
百合が丘B調整池	樹木伐採作業	高所作業車使用 伐採数本

実施場所	作業内容	備考
百合が丘B調整池	樹木伐採作業	高所作業車使用 伐採数本

実施場所	作業内容	備考
市道桔梗が丘12号線	樹木伐採作業	高所作業車使用 伐採7本

実施場所	作業内容	備考
つつじが丘10番町 152番12地先緑地	樹木伐採作業	伐採2本

実施場所	作業内容	備考
百合が丘B調整池	樹木伐採作業	高所作業車使用 伐採数本

実施場所	作業内容	備考
百合が丘B調整池	樹木伐採作業	高所作業車使用 伐採数本

実施場所	作業内容	備考
国津園敷地内	樹木伐採作業	高所作業車使用 伐採1本

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
事業名	危険木伐採事業		

7. 写真



写真1

施工前【百合が丘B調整池】



写真2

高所作業車による作業【百合が丘B調整池】



写真3

施工後【百合が丘B調整池】



写真4

施工前【市道新田南古山線】



写真5

伐採作業【市道新田南古山線】



写真6

施工後【市道新田南古山線】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
5	基 本	人家裏危険木伐採事業
事 業 費	400,200 円(うち交付金	400,200 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	人家裏にある危険木の伐採をすることで、災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安心・安全を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね人家と木との距離が樹高以下の木の伐採について、伐採に要する費用のうち1本あたり10,000円以内で助成を行った。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 地域住民 【補助率等】 定額補助（10,000円／本） 【箇所数】 7ヶ所(別紙のとおり) 【事業量】 145本の危険木を伐採 【事業実施期間】 平成29年8月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 7世帯
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 補助事業申請された箇所から人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね人家と木との距離が樹高以下の木を選定 【実施した効果】 災害時等に人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採により、災害を未然に防止し、住民の通常の暮らしの安心・安全が確保された。 【実施箇所の今後の管理体制】 森林所有者によって管理 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施前後の写真を市HPへ掲載し、当該県民税の意義の周知を図る。 【実施内容に対する住民等の反応】 補助事業実施者からは、本補助事業によって「実施前は災害のたび倒木の心配をしていたが、今では安全な生活をおくっている。」などの反応があった。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
5	基 本	人家裏危険木伐採事業
事業費	400,200 円(うち交付金	400,200 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業 【実施方法の選定理由】 補助事業のため該当しない。 【契約方法と落札率または補助率等】 定額補助（10,000円／本） 【契約相手方の選定理由】 補助事業のため、該当しない。 【事業費の積算根拠】 参考見積りによる。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 7世帯 【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者によって管理 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した 【実施後の実績】 平成30年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。 【今後の見込】 県民税のPRのぼりを作成し、設置予定。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

実施場所	作業内容	単位	数量	備考
上長瀬	民家裏危険木伐採	本	52	

実施場所	作業内容	単位	数量	備考
西田原	人家裏危険木伐採事業 (高木・大)	本	4	
	人家裏危険木伐採事業 (高木・中)	本	2	
	人家裏危険木伐採事業 (低木・中)	本	5	

実施場所	作業内容	単位	数量	備考
滝之原	支障木伐採	式	1	

実施場所	作業内容	単位	数量	備考
長瀬	民家裏危険木伐採	本	20	
	民家裏危険木伐採急傾斜部	本	15	

実施場所	作業内容	単位	数量	備考
滝之原	人家裏危険木伐採事業	式	1	

実施場所	作業内容	単位	数量	備考
赤目町一ノ井	支障木伐採	式	1	

実施場所	作業内容	単位	数量	備考
黒田	民家裏危険木伐採	本	2	

対策区分

2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名

名張市

事業名

人家裏危険木伐採事業

7. 写真



写真1

事業実施後(長瀬)



写真2

事業実施後(西田原)



写真3

事業実施後(滝之原)



写真4

事業実施後(長瀬)



写真5

事業実施後(滝之原)

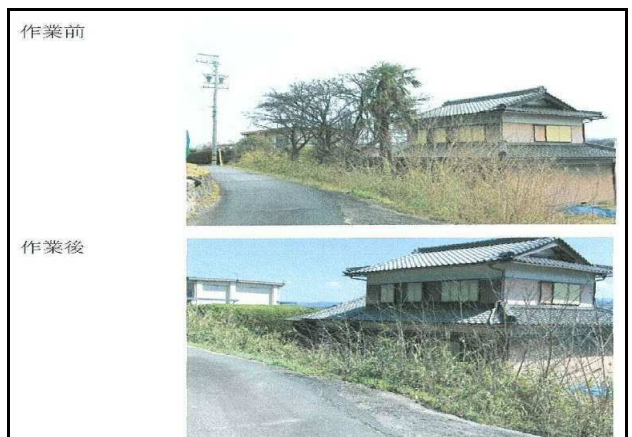


写真6

事業実施後(黒田)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
6	基 本	県産材に親しむことができる木育推進事業
事 業 費	3,936,384 円(うち交付金	3,936,384 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	現在、子ども、特に修学前児童にとっては、身の回りの机やイス、遊具などさまざまなものが身近にある木々からできることを実感する機会がほとんど無い状況である。 県産材を用いた備品・遊具類を保育所等に設置し、身近な森林にある木々が工夫次第でさまざまな形に変えて利用できることを実感できるような環境整備を行い、積極的に森林や木々に関わることができる発想豊かな子どもを育てる。
2. 事業実績概要	【事業内容】 公立保育所等に三重県産材を使用した机、イス、玩具等を設置を行った。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 名張市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 6ヶ所(大屋戸保育所、錦生保育所、薦原保育所、赤目保育所、名張幼稚園、桔梗南幼稚園) 【事業量】 公立保育所及び公立幼稚園の児童用机25脚、児童用椅子77脚、ミニキッチン(木製玩具) 11個 【事業実施期間】 平成29年9月28日～平成30年3月31日 【受益者、参加者、利用者数等】 受益者:約360名（保育所定員(平均) 約60名 × 6ヶ所)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 各保育所に要望調査を実施し、選定した。 【実施した効果】 保育所での授業・行事等に利用し、多くの児童が木製の机椅子に触れ合う機会を得た。 【実施箇所の今後の管理体制】 保育所備品として市(各保育所)が管理していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 保育所での授業・行事等に利用し、多くの児童が木製の机椅子に触れ合う機会を得た。 【実施内容に対する住民等の反応】 保育所の職員や保護者等からは日常から木製品の木の温かみに触れる機会が増えることと、危険性に配慮し、角が丸く加工されていることから好評を得た。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
6	基 本	県産材に親しむことができる木育推進事業
事業費	3,936,384 円(うち交付金	3,936,384 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市が購入。 【実施方法の選定理由】 公立保育所備品の購入であるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 名張市又は伊賀市内で三重県産材を用いた備品・遊具類を作成できる事業所への見積り徴取結果に基づく随意契約。 【契約相手方の選定理由】 5社への見積り徴取の結果 【事業費の積算根拠】 参考見積りによる。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者:約360名（保育所定員(平均)約60名 × 6ヶ所） 【管理責任者（森林所有者）への対応】 保育所の管理者である市が管理していく。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 保育所備品であるため、転用等が想定されず、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した 【実施後の実績】 平成30年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。 【今後の見込】 購入備品については焼印の押印をし、PR予定。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
事業名	県産材に親しむことができる木育推進事業		

7. 写真



写真1
県産材を使用したテーブル



写真2
県産材を使用した椅子



写真3
県産材を使用した木のミニキッチン台



写真4
県産材を使用した木のミニキッチン台

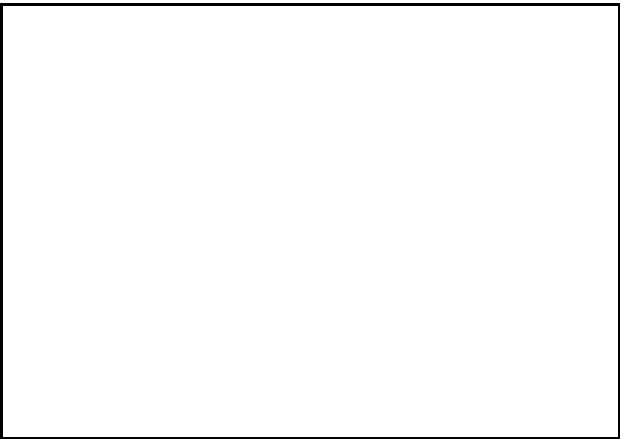


写真5

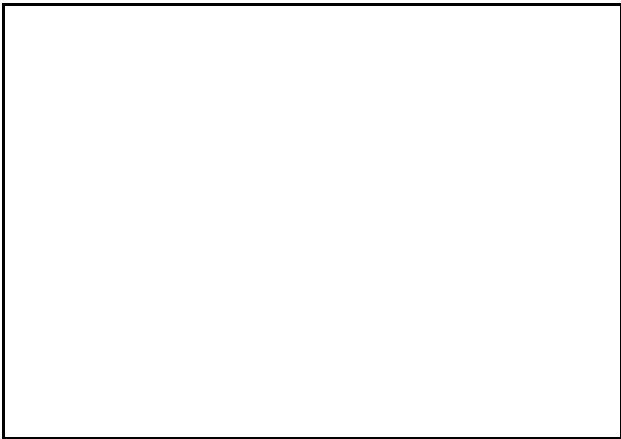


写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
7	基 本	学校林整備事業
事 業 費	500,000 円(うち交付金	500,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	前年度より継続してこれまで放置され、荒廃が進んでいる学校林を整備することにより、小学生が学校生活において森林に親しむ豊かな環境を再生し、森林や緑に対する理解を深める機会を創出する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 小学校の荒廃している学校林において、危険木や枯損木の除伐、歩道の整備、木製の机・椅子の設置などの整備を行った。さらに、整備した学校林において、森林環境教育活動を実施した。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 薦原地域づくり委員会 【補助率等】 全額補助 【箇所数】 1ヶ所(薦原小学校 学校林) 【事業量】 学校林までのアクセス道整備、山林広場整備 学校林面積 1,334㎡ 【事業実施期間】 平成29年4月21日～平成30年3月31日 【受益者、参加者、利用者数等】 受益者:学校林を活用する児童、PTA、地域団体 約200名
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 薦原小学校の学校林は1箇所しかいないため。 【実施した効果】 学校林を整備したことにより、昨年11月に学校林を利用して森林環境教育を行うことができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 学校林は今後も地域づくり組織等により、継続的に整備していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 学校林は今後も授業で利用していくとともに、学校と地域づくり組織は、今後も継続して整備し、様々な森林体験的活動を行っていく方針である。 【実施内容に対する住民等の反応】 参加児童は林業体験をする貴重な機会となった。学校関係者、地域ボランティア多く参加し、整備した学校林を教育活動を行うことができる有益な場とすることができた。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
7	基 本	学校林整備事業
事業費	500,000 円(うち交付金	500,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業	
【実施方法の選定理由】 補助事業のため該当しない。	
【契約方法と落札率または補助率等】 全額補助	
【契約相手方の選定理由】 補助事業のため該当しない。	
【事業費の積算根拠】 地域づくり組織が徴取した参考見積りによる。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者:学校林を活用する児童、PTA、地域団体 約200名	
【管理責任者（森林所有者）への対応】 所有者から学校林として継続使用することについて了承を得ており、今後も学校林として学校や地域が適切に管理していく。	
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 既に何十年に渡り学校林として提供を受けており、今後も学校林として学校授業などで継続利用していく予定であり、転用などは想定していない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。	
【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した	
【実施後の実績】 平成30年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。	
【今後の見込】 県民税のPRのぼりを作成し、設置予定。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
事業名	学校林整備事業		

7. 写真



写真1

丸太切り体験



写真2

森のせんせいの講話



写真3

間伐体験



写真4

間伐体験



写真5



写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	名張市
------	-------------	--	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名	
8	基 本	森林環境教育推進事業	
事 業 費	100,000 円(うち交付金		100,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的

全国的に森林環境教育の重要性が高まる中で、初等教育の過程において森林・自然への理解や関心を高めるため、小学校が森林教育を行う場合に補助する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内小学校が実施する、森林公園・学校林等でのフィールドワークなどの体験型学習及び森林の公益的機能に関する学習会等、森林環境教育として相応しい活動内容の事業に対し、活動費用の補助を行った。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】

学校単位で設立する実行委員会

【補助率等】

全額補助 ただし、1校につき100,000円を上限とする。

【箇所数】

1校

【事業量】

1校(桔梗が丘南小学校)

【事業実施期間】

平成29年8月1日～平成29年10月26日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者:桔梗が丘南小学校(4年生～6年生)約110名

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】

桔梗が丘地内の小学生に自然環境の大切さ、里山の役割について学習の機会を設けるとともに、その保全の取り組みについて理解を深めるため。

【実施した効果】

東山ふれあいの森を自然環境に関するクイズラリーをしながら散策し、自然環境と里山の役割について学習することができた。

【実施箇所の今後の管理体制】

施設等整備ではなく、該当しない。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】

名張市内の他の教育機関でも森林環境教育に取り組んでいく

【実施内容に対する住民等の反応】

参加児童はクイズの答え合わせで一喜一憂し、真剣に取り組んでいたことがうかがえ、校長先生からは、「このような森林に親しむ授業や機会がなかったので、今回の取り組みは大変有意義」だとのお声をいただいた。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
8	基 本	森林環境教育推進事業
事 業 費	100,000 円(うち交付金	100,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託事業 【実施方法の選定理由】 補助事業のため該当しない。 【契約方法と落札率または補助率等】 全額補助 ただし、1校につき100,000円を上限とする。 【契約相手方の選定理由】 補助事業のため該当しない。 【事業費の積算根拠】 桔梗が丘自治連合協議会が徴取した参考見積りによる。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者:桔梗が丘南小学校(4年生～6年生)約110名 【管理責任者（森林所有者）への対応】 施設等整備ではなく、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 施設等整備ではなく、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した 【実施後の実績】 平成30年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。 【今後の見込】 県民税のPRのぼりを作成し、設置予定。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
事業名	森林環境教育推進事業		

7. 写真



写真1

クイズラリー



写真2

クイズラリー



写真3

クイズラリー



写真4

クイズラリー



写真5

クイズラリー



写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
9	基 本	赤目ハイキングコース親林空間づくり事業
事 業 費	280,800 円(うち交付金	280,800 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	赤目四十八滝遊歩道に転落防止柵を設置することで、赤目四十八滝を訪れる市民や観光客が、安全・快適に木や水に親しめる空間づくりを行う。
2. 事業実績概要	【事業内容】 赤目四十八滝の遊歩道の転落の恐れのある場所に転落防止柵を設置した。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 名張市 【補助率等】 補助事業でなく該当しない。 【箇所数】 1ヶ所 【事業量】 遊歩道転落防止柵整備 約16m 【事業実施期間】 平成29年11月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 赤目ハイキングコース利用者 3,000人/年
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 赤目四十八滝を訪れる市民や観光客が、安全・快適に木や水に親しめる親林空間の再整備を行うため。 【実施した効果】 親林空間及び遊歩道の整備により、赤目ハイキングコースの利用者が増え、多くの市民や観光客が木や水に親しむとともに、エコツアー等の参加により自然学習を行うことができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 市が管理していく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 企業等が主催するハイキング等のイベントの実施や、エコツアーによる自然学習の教材として活用していく。 【実施内容に対する住民等の反応】 赤目溪谷保勝会(赤目四十八滝管理団体)から「市民や観光客が安全にハイキングコースを利用し、自然と触れ合う機会が増えるのではないか」とのお声をいただいた。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
9	基 本	赤目ハイキングコース親林空間づくり事業
事業費	280,800 円(うち交付金	280,800 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託事業 【実施方法の選定理由】 市民の安全確保をし、木や水と親しむ森林空間の整備になる。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 3社への見積り徴取の結果 【事業費の積算根拠】 参考見積りによる。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 赤目ハイキングコース利用者 3,000人/年 【管理責任者（森林所有者）への対応】 市有地のため、地域づくり組織との調整については問題はない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有地のため、転用等の恐れはない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した 【実施後の実績】 平成30年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。 【今後の見込】 県民税のPRのぼりを作成し、設置予定。 手すりにシールを張り、県民税事業のPRを予定。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名

名張市

事業名

赤目ハイキングコース親林空間づくり事業

7. 写真



写真1

施工前



写真2

施工前



写真3

施工前



写真4

施工後



写真5

施工後

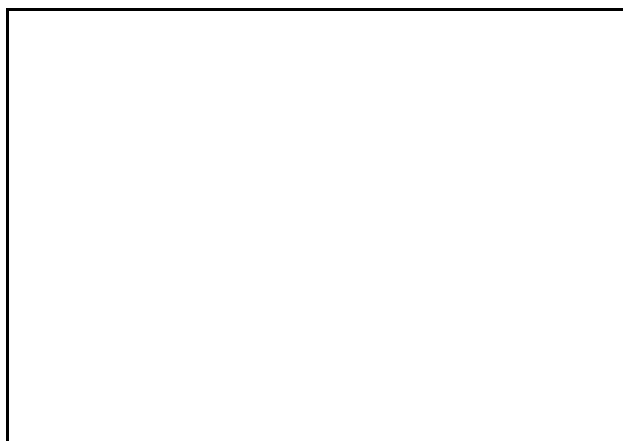


写真6

白 紙

白 紙

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	伊賀市ウッドスタート事業
事 業 費	2,952,536 円(うち交付金	2,952,536 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	「木育」の推進。 古くから「木」が身近にある伊賀市では、健やかな子どもの成長と地球環境の維持に役立つ適切な木材の利用推進をはかり、地域そのものの価値を高める。
2. 事業実績概要	【事業内容】 「木育」と「食育」を関連させた事業として、親子ともに木のぬくもりを共有できる物として、出生時にフォトスタンド、1歳半健診時に、健康推進課による「木育、食育」にくわえて、木製(伊賀産材)のスプーンをプレゼントした。そして、3歳児健診時にも、幼児に対する「木育」にくわえて、自分で使える木のお箸をプレゼントした。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 伊賀市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 平成29年度に伊賀市で出生し住民登録された者、市内で1歳半健診を受けた者、3歳児健診を受けた者、のべ2,028名が対象 【事業量】 【事業の規模(事業量)】 木のフォトフレーム:650個 木のスプーン:696本 木のお箸:682膳 【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 出生児:650人 1歳半児:696人 3歳半児:682人
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 乳幼児期から親子で木とふれあえる機会を提供するため。 【実施した効果】 乳幼児期から親子で木とのふれあいを通じ「木育」「食育」を組み合わせた健全育成ができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 木製品の配分であり、該当しない。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 「木育」のチラシと共に直接プレゼントしている。 【実施内容に対する住民等の反応】 「木育」のチラシと共に直接プレゼントしており、好評である。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
1	基 本	伊賀市ウッドスタート事業
事 業 費	2,952,536 円(うち交付金	2,952,536 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 入札、物品の購入、配布 【実施方法の選定理由】 伊賀産材、三重県産材を指定、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを伝え、可能な限り手渡しできる方法を選定 【契約方法と落札率または補助率等】 木のスプーン、木のお箸については一般競争入札、木製フォトフレームについては指名競争入札 【契約相手方の選定理由】 会計規則に基づき、木のスプーン、木のお箸については一般競争入札、木製フォトフレームについては指名競争入札(市内の木材取扱実績のある事業者) 【事業費の積算根拠】 昨年度実績及び参考見積により積算し入札	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 出生され、伊賀市に住民登録された児童を対象 保健師より「木育」のチラシと共に直接プレゼント 健診対象児全員 【管理責任者（森林所有者）への対応】 木製品の配分であり、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 木製品の配分であり、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。 【実施中の実績】 「木育」のチラシと共に直接プレゼントしており好評である。 アンケートを実施し、みえ森と緑の県民税の趣旨の周知を行った。 【実施後の実績】 親子で森のことを考えてもらうきっかけとなっている。 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。 【今後の見込】 木の薫りを直接感じてもらい、木育のきっかけづくりにするため今後も継続していく方向である。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

伊賀市

事業名

伊賀市ウッドスタート事業

7. 写真



写真1

木製スプーン・箸



写真2

配布チラシ

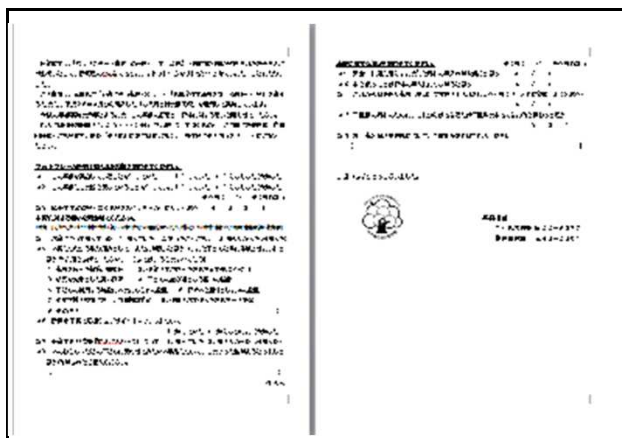


写真3

アンケート



写真4

木製フォトフレーム配布文



写真5

木製フォトフレーム



写真6

木製スプーン

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	みんなの里山整備活動推進事業
事 業 費	4,953,000 円(うち交付金 4,953,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	地域住民の主体的な参加のもと、自治会等が行う地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林を再生活動に対して支援する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 緑の環境づくりや生活に密着した里山・竹林の再生のため自治会等の地域住民によるボランティア活動に対して補助金を交付する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 地域住民が組織する自治会等の団体 【補助率等】 対象活動の用具費等経費10/10(ただし、上限25万円/団体) 【箇所数】 23箇所(別紙のとおり) 【事業量】 市内の自治会等 23団体 で実施(別所のとおり) 【事業実施期間】 平成29年4月10日 から 平成30年3月30日 【受益者、参加者、利用者数等】 延べ参加者数1,289人 整備面積約28ha
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 補助金交付申請による 【実施した効果】 既存の森林整備事業では、整備が難しい暮らしに身近な里山や竹林の整備ができた。 【実施箇所の今後の管理体制】 地域の里山として、実施主体の自治会等により適正に管理を行っていく。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 参加者に森林整備の有用性についてのチラシやアンケートを配布し、森林整備に対する意識が高められた。 【実施内容に対する住民等の反応】 住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声もあった。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
2	基 本	みんなの里山整備活動推進事業
事 業 費	4,953,000 円(うち交付金 4,953,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 自治会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。 【実施方法の選定理由】 里山や竹林を地域住民の手で再生していくため、補助金制度として運用している。 【契約方法と落札率または補助率等】 対象活動の用具費等経費10/10(ただし、上限25万円/団体) 【契約相手方の選定理由】 補助事業であり、該当しない。 【事業費の積算根拠】 対象活動の用具費等経費10/10（ただし、上限25万円/団体）	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 実績報告書により、参加者数を把握。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 実施団体(自治会等)により、暮らしに身近な森林として継続的に管理。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当なし	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 事業募集時に、市のHPなどで「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」であることを周知した。 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。 【実施中の実績】 みえ森と緑の県民税による整備活動を示すのぼりにより周知を行った 【実施後の実績】 参加者にチラシやアンケートを配布し、「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」であることを周知した。 【今後の見込】 各自治会等への周知徹底により、申請件数の増加を図る。 実施結果などについて、市のHPなどで周知を行う。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
平成26年度実績:19団体 参加者数887人 平成27年度実績:22団体 参加者数958人 整備面積 約17ha 平成28年度実績:25団体 参加者数1112人 整備面積 約26ha	

作業内容	名 称	活動人数	整備面積	活動日	備 考
里山整備、里山散策階段整備	山出区	77	3.0	5/21、7/29、11/19	
里山、登山道整備	法花区	80	0.7	6/18,7/8,9/24,12/16	
支障木伐採、緑地整備	地縁団体柘植青葉台区	240	2.0	6/4、6/5、11/5	
荒廃竹林伐採、里山整備	中矢区	68	1.5	11/4,12/17,1/14.	
支障木伐採	坂下区	59	0.5	7/2～12/18	
荒廃竹林整備	西山自治会	66	1.0	12/9、12/10	
里山整備、支障木除去	音羽区	25	0.1	10/9,11/5	
登山道、散策道周辺里山整備、下刈り、支障木除去	丸柱区	35	0.1	9/24,11/26,12/16	
里山の整備・支障木草j除去作業	地縁法人川上区	90	1.7	7/2～10/18	
河川流域倒木処理	妙楽地区	11	0.1	7/28、7/31、	
里山整備支障木除去、支障箇所復旧	勝地区	55	1.0	7/8～12/7	
荒廃竹林、里山伐採整備	諸木区	19	0.3	10/28、11/26	
里山整備支障木竹伐採	種生区	23	0.1	11/11、11/12	
里山整備	猪田大東区自治会	70	0.1	8/20、11/26	
里山竹林の整備	田中区	42	0.3	10/14～1/28	
里山支障木・荒廃竹林伐採	小杉区	100	0.8	10/1,11/19,12/3	
里山、公園支障木伐採整備	霧生区	40	0.8	9/3,9/7,9/23,10/5	
里山環境整備 支障木伐採	奥鹿野区	35	2.0	11/9,12/24,1/21	
支障木竹伐採処理	瀧区	36	1.0	11/12、11/16、	
支障樹木伐採、里山通行路周辺整備	東高倉区	25	10.0	12/9,1/20,	
倒木、ナラ枯れ伐採里山整備	下阿波区	30	0.6	11/24,12/3	
里山周辺の雑木支障木伐採整備	地縁団体小林区	52	0.7	2/4、2/18	
里山の危険木支障木の伐採	四十九町自治会	11	0.1	2/26、2/28	
	計	1,289	28		

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
事業名	みんなの里山整備活動推進事業		

7. 写真

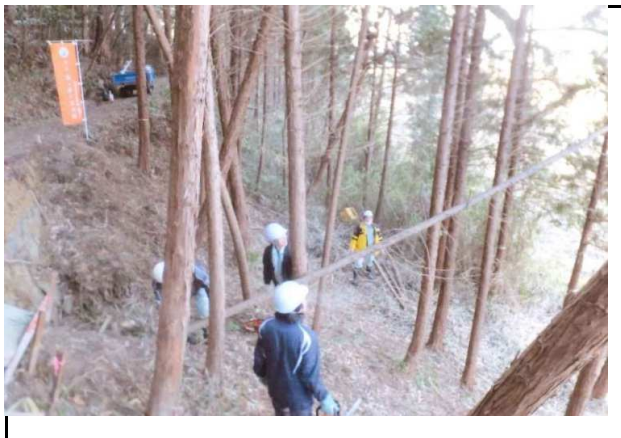


写真1

里山整備のようす



写真2

里地の支障木伐採



写真3

暮らしに身近な里山整備支障木伐採作業のようす



写真4

里山整備伐採作業のようす



写真5

暮らしに身近な里山の支障竹林伐採整備作業のようす



写真6

暮らしに身近な里山の支障木伐採整備作業のようす

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	伊賀の森っこ育成推進事業
事 業 費	2,275,640 円(うち交付金 2,275,640 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	森林環境への関心や要望が高まるなか、次代を担う子ども達の森林・林業への理解と関心を学校教育の場でも学べるようにする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等が実施する、森林のはたらきや森林・林業の歴史についての学習活動、木材利用、木工体験(竹材等も含む)、間伐体験、里山整備活動、植物・樹木観察、野生生物・昆虫観察など、森林・自然や木と関連した森林環境教育にふさわしい内容の活動に対して、活動費用を補助する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等 【補助率等】 10/10 ※小学校を対象とする場合、6年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、3年生の学級数×10万円を交付上限とする。 【箇所数】 16箇所(別紙のとおり) 【事業量】 事業量:市内小中学校 16校 49学級 で実施 【事業実施期間】 平成29年4月25日 から 平成30年3月31日 【受益者、参加者、利用者数等】 参加生徒児童数 854人(別紙のとおり)
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 補助金交付申請による 【実施した効果】 市内に在学している小中学生が、「森のせんせい」などの講師から、森のはたらきや林業について学ぶことができ、森林環境等に関して理解を深めた。 【実施箇所の今後の管理体制】 森林環境教育の実施であり、該当しない。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 取り組みの成果として、学級通信等への掲載や事後学習などが積極的に行われ、より効果的に事業を活用されている。 【実施内容に対する住民等の反応】 各学校からは、児童生徒の森林に対する意識が深まったとの声を多数いただいている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
3	基 本	伊賀の森っこ育成推進事業
事 業 費	2,275,640 円(うち交付金 2,275,640 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 実行委員会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。 【実施方法の選定理由】 森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。 【契約方法と落札率または補助率等】 補助率:10/10 ※小学校を対象とする場合、6年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、3年生の学級数×10万円を交付上限とする。 【契約相手方の選定理由】 該当なし 【事業費の積算根拠】 補助率:10/10 ※小学校を対象とする場合、6年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、3年生の学級数×10万円を交付上限とする。		
5. 公益性（波及度）	【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 実績報告書による 【管理責任者（森林所有者）への対応】 該当なし 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当なし		
6. 周知実績と今後の周知	【実施前の実績】 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。 【実施中の実績】 該当なし 【実施後の実績】 参加した児童を通じて、学校だよりやホームページで保護者や地域に対し、「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。 【今後の見込】 各学校等への周知取組徹底により、学校のホームページ等で周知を図る。		
7. 写真	別紙のとおり		
8. その他特記事項	平成27年度実績:市内小中学校 14校 52学級 参加生徒児童数1,153人 平成28年度実績:市内小中学校 15校 54学級 参加生徒児童数1,187人		

名	称	学級数	参加人数	備考
中瀬小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		1	26	
島ヶ原小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		6	71	
青山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		2	61	
西柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		2	31	
崇広中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		5	145	
上野東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		6	21	
府中小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		2	38	
上野西小学校森っこ実行委員会		4	132	
柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		1	14	
阿山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		2	45	
友生小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		4	112	
成和東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		1	15	
三訪小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会		2	23	
玉滝小学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会		7	60	
神戸小学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会推進事業実行委員会		3	33	
新居小学校森っこ実行委員会		1	27	
計		49	854	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	伊賀の森っこ育成推進事業		

7. 写真



写真1

森林環境学習の様子(上野東小学校)



写真2

森林環境学習の様子(柘植小学校)



写真3

木工体験の様子(阿山小学校)



写真4

木工体験学習の様子(西柘植小学校)



写真5

林業体験学習の様子(青山中学校)



写真6

森林環境学習の様子(府中小学校)

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

伊賀市

事業名

伊賀の森っこ育成推進事業

7. 写真

島小通信

伊賀市立島ヶ原小学校

平成30年(2018年)2月27日

3月の行事予定

日	曜	内 容
1	木	ありがとうの会
5	月	島っ子集会 代表委員会
7	水	通学団集会
8	木	集金日 島ヶ原中学校卒業式 中学校卒業生の見送り
9	金	P T A会計監査・新旧役員引継ぎ会
12	月	島っ子集会 委員会(最終)
14	水	卒業式予行
15	木	自由参観日
16	金	卒業証書授与式
20	火	給食終了
21	水	春分の日
22	木	大掃除
23	金	修了式 離任式

卒業証書授与式 3月16日(金)

9:30開式(11:00閉式予定)

卒業式終了後、半時間のちに見送り

在校生 11:45下校

6年生のみなさん、卒業の日まで島ヶ原小学校でたくさん思い出をつくりましょう。

在校生のみなさん、あと少しになってきた6年生とのつながりを大事にしましょう。

島ヶ原小学校学校だより



入学説明会・ふれあい交流会

来年度新1年生になる保護者の方に、入学にあたって、小学校生活の様子、入学までに身につけておいてほしいこと、学用品等の準備物、集金事務についての説明をさせていただきました。14名の入学児童を万全の態勢で受け入れていきたいと思っておりますので、不安なことや分からないことがありましたら、学校まで申し出てください。説明会をしている間、新1年生の子どもたちは、4、5年生の上級生と体育館で交流を行いました。4、5年生は、楽しんでもらおうと、射的コーナー、釣り堀コーナー、チャレンジコーナーの3つのコーナーを設け、優しくやり方を教えてあげていました。みんな楽しそうで、ほのぼのとしたふれあいの時間となりました。そのあと、新1年生を交えての通学団集会を行い、集合場所や出発時刻の打ち合わせを行いました。



◇卒業制作(2/22)◇

今年も6年生は、穂積製材所プロジェクトの高田さんに指導してもらいながら、卒業制作として各教室用の木製ボール入れを制作しています。グループごとに、板を電動ドリルでビスをとめながら、または金づちで釘を打ってとめながら組み立てていきました。

はじめは電動ドリルをおそろおそろ使っていましたが、慣れてくると上手に工具を使いこなしていました。あと、色を塗ったら完成です。

完成した卒業制作のボール入れは、「ありがとうの会」で在校生に紹介されます。

この事業は、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用して行いました。



対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	地域の森と緑のつながり支援事業
事 業 費	369,084 円(うち交付金	369,084 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	地域住民と森・緑・木材等森の恵みとの関係が薄くなってきているため、地域の子供達等が地域住民と共に森林・林業等への理解と関心深めることを目的とする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 補助事業：住民自治協議会等が実施主体として、森・緑・木材と地域とのつながりを目的に、森や緑の学習活動として行う一般募集のイベント活動や地域で取り組む山村地域の振興に向けた研修会等に対して、必要な費用を補助した。 直営事業：海の幸・山の幸物産イベントに、森林・林業PRブースを設営して、地域産材のクラフトをアンケートを通じて森林の活用やみえ森と緑の県民税事業についてのPRをした。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 補助事業：地域住民自治協議会等 直営事業：市と県、森林組合の共同開催 【補助率等】 補助事業：10／10 ※5万円を交付上限とする。 【箇所数】 補助事業：6箇所 直営事業：1箇所 【事業量】 補助事業量：市内の住民自治協議会 6団体 で実施 【事業実施期間】 平成29年5月2日 から 平成30年3月31日 【受益者、参加者、利用者数等】 補助事業：参加者数 178 人 直営事業：「海の幸・山の幸物産まつり」主催者発表1万4000人 みえ森と緑の県民税アンケート回収23件
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 補助金交付申請による 【実施した効果】 地域主催により自然学習会や椎茸菌打ち体験、森林整備に関する学習会などを開催することで地域住民の森林・林業等への理解と関心を高まった。 【実施箇所の今後の管理体制】 研修会やPR活動の実施であり、該当しない。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 研修会やPR活動の実施であり、該当しない。 【実施内容に対する住民等の反応】 事業者によりアンケートが実施された。森林・林業等への理解と関心が高まった。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	基 本	地域の森と緑のつながり支援事業
事 業 費	369,084 円(うち交付金	369,084 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業： 住民自治協議会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。 直営事業： 多くの市民が集まるイベントに出店し、みえ森と緑の県民税事業のPRを行った。 【実施方法の選定理由】 森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。 【契約方法と落札率または補助率等】 補助事業： 10／10 ※5万円を交付上限とする。 【契約相手方の選定理由】 補助事業であり、該当しない。 【事業費の積算根拠】 補助事業： 10／10 ※5万円を交付上限とする。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 実績報告書により参加者を把握 【管理責任者（森林所有者）への対応】 研修会やPR活動の実施であり、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 研修会やPR活動の実施であり、該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 事業募集時に「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることを周知している。 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。 【実施中の実績】 のぼりや募集チラシで「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることを周知した。 みえ森と緑県民税パネル展を開催、パンフレットの配布 【実施後の実績】 アンケートがを通じて「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることを周知した。 【今後の見込】 市のHPなどで事業実績とあわせて「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図る。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
平成27年度実績：市内住民自治協議会6団体 参加者数 262人 平成28年度実績：市内住民自治協議会4団体 参加者数 185人	

内 容	名 称	単 位	参加人数	備 考
森林などの地域資源について学び、地域の森林の大切さを学習や林業の研修会を実施など	丸柱地域まちづくり協議会	人	30	地域の森林学習と間伐材を利用した看板、案山子作り
	府中地区住民自治協議会	人	30	木工細工を通じて、国産間伐材の利用意義学ぶ
	山田地域住民自治協議会	人	81	国産のスギを活用した木工、森と木についての講和
	柘植地域まちづくり協議会	人	13	吉野に出向き、森林の整備方法や林業についての視察研修
	布引地域住民自治協議会	人	12	吉野に出向き、森林の整備方法や林業についての視察研修
	阿波地域住民自治協議会	人	12	吉野に出向き、森林の整備方法や林業についての視察研修
	計		178	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	地域の森と緑のつながり支援事業		

7. 写真



写真1

間伐材や竹の案山子づくり(設置)の様子(丸柱)



写真2

木工体験の様子(山田)



写真3

林業視察の様子①(柘植)



写真4

林業視察の様子②(阿波)



写真5

森林PRコーナーの様子①



写真6

森林PRコーナーの様子②

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
5	基 本	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
事 業 費	2,686,750 円(うち交付金	2,686,750 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	森林所有者等による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の有効活用を図ると共に、森林所有者の意識啓発、取組拡大や林地残材の減少を図り、森林整備につなげる。 推進事業:事業を担う地域の森林資源と作業体制の調査と研修会等の開催
2. 事業実績概要	【事業内容】 発電用チップに係る間伐材等由来の木質バイオマス証明材を、市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者に買い取ってもらうために必要な搬出及び運搬に要する経費の一部を助成した。 推進事業:事業を担う地域の森林資源と作業体制の調査と研修会等の開催 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 補助事業実施主体: 森林所有者等 推進事業: 市・地域 【補助率等】 補助率:間伐材等由来の木質バイオマス証明材 1t当り 2,500円 ※当該年度における造林補助事業等の搬出材積として計上している間伐材を除く。 推進事業:研修及び調査と計画作りに必要な費用 【箇所数】 搬出された森林 20箇所 【事業量】 補助事業: 未利用間伐材 874.7t 推進事業: 現地視察1回、セミナー1回、集落座談会3回等 【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 ・森林所有者等搬出者 13名 ・森林の整備が進むことによる森林の持つ公益的機能の向上の恩恵を受ける市民。 ・推進事業 セミナー参加者 15地域 44名
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 補助金交付申請による 【実施した効果】 土砂災害時に被害拡大につながる林地残材を減らすことにより、くらしの安心・安全を守る災害に強い森林づくりに寄与した。 推進事業により、森林所有者等に森林整備の必要性に対する意識が高まった。バイオマス証明材取扱者数が6名から18名に増え、地域により森林所有者のアンケートが実施された。 【実施箇所の今後の管理体制】 該当なし 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 推進事業により、研究業務委託による地域別のバイオマスの調査を行い、地域での話し合いと体制づくりにつなげる。 【実施内容に対する住民等の反応】 今年度助成を受けた複数の森林所有者などから継続的に取り組みたいとの声があった。 推進事業により、研究業務委託による地域別のバイオマスの調査を行い、地域での話し合いと体制づくりにつなげる。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
5	基 本	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
事 業 費	2,686,750 円(うち交付金 2,686,750 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 申請時に提出された補助金交付申請書を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。 【実施方法の選定理由】 森林整備の必要性に対する意識向上ため、補助金制度として運用している。 【契約方法と落札率または補助率等】 補助率：未利用間伐材 1t当り 2,500円 【契約相手方の選定理由】 該当なし 【事業費の積算根拠】 補助率：1t当り 2,500円 間伐・搬出コスト未満となるように補助率を設定。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 補助金の実績報告書により確認している。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 該当なし 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当なし	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前】 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることをホームページ等に明記して募集を行っている。 【実施中】 みえ森と緑の県民税市町交付金事業であることをのぼり等で周知をした。 【実施後】 みえ森と緑の県民税市町交付金事業であることを市のホームページやケーブルテレビで広報した。 自治会の広報紙に紹介された。 【今後の見込】 この事業の趣旨について、森林整備事業の地域説明会などを実施することにより、実施件数の増加を図る。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
平成28年度 未利用間伐材 237.17t 森林所有者等搬出者 5名	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業		

7. 写真



写真1

バイオマスの搬出のようす



写真2

バイオマスの搬出のようす



写真3

バイオマスの搬出のようす



写真4

柘植地域まちづくりだより



写真5

推進事業 セミナーのようす



写真6

推進事業 セミナー座談会での意見

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
6	基 本	森のやすらぎ空間整備事業
事 業 費	1,000,000 円(うち交付金	1,000,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	木の薫るやすらぎのある街づくりのため、伊賀市産材を利用して、町家などの軒先にバッテリー床几(しょうぎ)を設置することにより、街歩きをする人々にが木とふれあい、やすらげる空間を創出する。間伐材の利用を推進し森林の整備を進める。
2. 事業実績概要	【事業内容】 中心市街地などの町家の軒先にバッテリー床几を設置することに対する助成を行った。 バッテリー床几の材料となる間伐材の伐採、搬出、製材、加工費用について一定の範囲内で助成し、町家の管理者はこれを自由に使えるように軒先を提供し管理する。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 伊賀上野観光協会 【補助率等】 整備費用10/10（ただし、上限10万円/1箇所あたり） 【箇所数】 中心市街地や旧街道沿いの町家など10箇所 【事業量】 バッテリー床几1基(設置費・説明看板込み100,000円)×10箇所 材積 約0.1m³ 【事業実施期間】 平成29年8月1日 から 平成30年3月30日 【受益者、参加者、利用者数等】 中心市街地旧街道沿い観光客等約60万人 及び市民
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 補助金交付申請による。観光客の休憩等の利便に供するため、誰でも自由に使える主に旧街道など利用頻度が高いと思われるところを実施主体が選定。 【実施した効果】 三重県産の木の肌触りを楽しみながら、市街地にほっこりできる場所できた。 【実施箇所の今後の管理体制】 設置箇所の管理者により誰でも自由に使える形で適正に管理。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 完成記念式を実施し、事業の目的等についてPRを行った。 看板を設置して、継続的に目的の啓発に利用される。 【実施内容に対する住民等の反応】 「先人が守ってきた山の木がこういう形で利用され、先人も喜んでいと思う。」「まち中に少しほっこりできる場所ができてありがたい。」「まちのために協力するとの考えで設置場所の提供をした。」との声が寄せられた。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
6	基 本	森のやすらぎ空間整備事業
事 業 費	1,000,000 円(うち交付金 1,000,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 日頃から森林整備を行っている地域(住民自治協議会)がバッテリー床几を製作し、事業実施主体(伊賀上野観光協会)が利用頻度が高いと思われるところを選定し、設置した。 【実施方法の選定理由】 ①設置場所を無料で提供いただける場所。 ②基本的に誰でも自由に使える場所。 ③観光客や市民の利便に供しやすい場所。 ④ 交通事故の危険性が低く、適度なスペースを確保できる場所。 【契約方法と落札率または補助率等】 整備費用10/10（ただし、上限10万円/1箇所あたり） 【契約相手方の選定理由】 補助事業であり、該当しない。 【事業費の積算根拠】 整備費用、製作設置費用10/10（ただし、上限10万円/1箇所あたり）	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 利用者の多い所を優先して整備しており、誰でもいつでも利用できる物であるため、利用者数の把握は困難。 【管理責任者（森林所有者）への対応】 適正に管理されている。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 バッテリー床几は市民が自由に使える場所に取り付けられており転用の懸念は無い。また看板を設置することにより市民に利用目的を周知している。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 新聞でとりあげられた。 【実施中の実績】 該当なし 【実施後の実績】 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。 「みえ森と緑の県民税」のロゴが入った木製の看板を設置した。 【今後の見込】 継続的に実施することにより、みえ森と緑の県民税事業の意義の周知に努める。 観光協会のホームページや観光パンフレットへの記載により継続的に周知する。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
平成28年度 10箇所	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
事業名	森のやすらぎ空間整備事業		

7. 写真



写真1

町家に取り付けられたバッテリー床几



写真2

木材のふるさとの焼印



写真3

取り付けられたバッテリー床几



写真4

使用方法と税事業であることを示した看板



写真5

取り付けられたバッテリー床几



写真6

畳んだ状態

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
7	基 本	特定水源地域森林整備事業
事 業 費	7,700,400 円(うち交付金	7,700,400 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	水道水源にあたる特定水源地域内の森林の水源かん養機能の増進を図る。 水は市民共有の貴重な財産であり、森林の有する水源の涵養機能が水の供給に重要な役割を果たしていることから、特に市民生活に係わりの深い水道水源地域の特に水源かん養機能の維持増進を図る必要がある森林の整備を目的とする。
2. 事業計画概要	【事業内容】 三重県水源地域の保全に関する条例で特定水源地域に指定されている森林の中で、水源の涵養機能を始めとした多様な公益的機能の持続的かつ高度な発揮を目指す新たな取り組みとして、森林所有者と市及び事業体で協定を締結した森林において、伊賀市特定水源地域等森林整備計画に基づき、下層植生や広葉樹の導入を目的とした間伐を行った。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 伊賀市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 協定を締結した特定水源地域に指定されている森林 2団地 73箇所 【事業量】 間伐作業（本数間伐率30%以上）45.15ha 【事業実施期間】 平成29年9月8日から平成30年1月31日 【受益者、参加者、利用者数等】 水道水源のかん養受益者 全市 給水人口 94,443人 年間表流水取水量 8,523,242m³ 本年整備地域の直下の水源地域年間表流水取水量 292,952m³ 整備森林面積 45.15 ha
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 水源の涵養機能を始めとした多様な公益的機能の持続的かつ高度な発揮を目指す森林として三重県水源地域の保全に関する条例で特定水源地域に指定されているため。 【実施した効果】 間伐施業を行うことにより、水道水源地域において、特に水源かん養機能の増進が期待されるため。 【実施箇所の今後の管理体制】 森林所有者と市及び事業体が環境林づくり協定に基づき、引き続き管理する。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 標柱を設置して、施業地をPRすることにより、市民の水源かん養の大切さや森林整備の必要性について理解を得ていく。 【実施内容に対する住民等の反応】 適正な森林整備を行うことに対し、森林所有者などから好意的な評価をいただいている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	-----------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
7	基 本	特定水源地域森林整備事業
事 業 費	7,700,400 円(うち交付金 7,700,400 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 認定林業事業体に間伐作業を委託することにより、適正で効率的な間伐作業ができた。 【実施方法の選定理由】 伊賀市特定水源地域等森林整備計画に基づき、施業方法を選定した。 【契約方法と落札率または補助率等】 落札率:99.5% 【契約相手方の選定理由】 対象森林の森林所有者から管理を委託された、間伐施業実績のある認定林業事業体 【事業費の積算根拠】 一体的に施業すべき森林において、三重県造林補助事業標準単価に基づき積算	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 水道水源のかん養受益者 全市 給水人口 94, 443人 年間表流水取水量 8,523,242m³ 本年整備地域の直下の水源地年間表流水取水量 292,952m³ 【管理責任者（森林所有者）への対応】 環境林づくり協定を締結し、適正に公的管理をする。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 環境林づくり協定を締結し転用等を規制する。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前】 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。 【実施中】 該当なし 【実施後】 整備団地に、みえ森と緑の県民税事業であることを示す木製看板を設置した。 【今後の見込】 今回の施業地の具体的な情報などを水道のしくみを学ぶ小学生などにも教え、水源地域の森林施業の大切さを伝える。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

2.暮らしに身近な森林づくり

市町名

伊賀市

事業名

特定水源地域森林整備事業

5. 写真

事前届出制度のQ&A

「三重県水源地域の保全に関する条例」に基づき

平成28年1月1日以後に
水源地域において
土地取引を行う場合は
事前届出が必要です

三重県水源地域の保全に関する条例の趣旨

県土の64%を占める森林は県民生活の重要な基盤である。水源地域の森林を保全することは、水源の涵養・浄化、水質の向上、土砂災害の防止、生物多様性の保全、景観の形成等に効果的であり、水源地域の保全に重要な役割を果たしている。このため、水源地域の保全に関する条例を制定し、水源地域の保全を図ることに努めることとする。

水源地域とは？

水源地域とは、国庫林、県有林、市町村有林、民間所有林等の森林を有する水源涵養・浄化機能に優れた地域を指す。三重県では、水源涵養・浄化機能に優れた地域として、県土の64%を占める森林を水源地域として指定している。

特定水源地域とは？

特定水源地域とは、水源涵養・浄化機能に優れた地域のうち、水源涵養・浄化機能に特に優れた地域を指す。三重県では、特定水源地域として、県土の64%を占める森林のうち、水源涵養・浄化機能に特に優れた地域として指定している。

水源涵養・浄化機能に優れた地域とは？

水源涵養・浄化機能に優れた地域とは、水源涵養・浄化機能に優れた地域を指す。三重県では、水源涵養・浄化機能に優れた地域として指定している。

市町村	市	町	村	電話番号
伊賀市	伊賀市	伊賀市	伊賀市	059-232-0655
亀山市	亀山市	亀山市	亀山市	059-233-3091
津市	津市	津市	津市	059-237-5265
松阪市	松阪市	松阪市	松阪市	059-244-142
四日市市	四日市市	四日市市	四日市市	059-23-3504
宇治市	宇治市	宇治市	宇治市	059-23-3504
宇治市	宇治市	宇治市	宇治市	059-23-3504

（注）市町村の電話番号は、市町村のホームページに掲載されている。

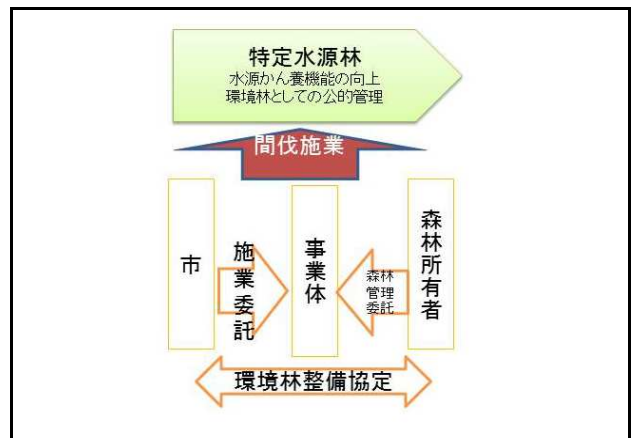


写真1

三重県水源地域の保全に関する条例で特定水源地域に指定



写真3

間伐施業地



写真5

間伐施業地

写真2

特定水源林整備のイメージ



写真4

間伐施業地



写真6

間伐施業地

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
8	基 本	青山北部公園SHEEP(自然と人の縁でEnjoy Project)
事 業 費	1,946,011 円(うち交付金	1,772,280 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	本事業は、青山北部公園へ木製柵を設置しヒツジを飼育することにより、木や動物、それらと地域の人々の交流とふれあいの場を創造するものです。 都市公園で自然豊かな伊賀市らしさを生かす木材の多様な有効利用の可能性も示します。
2. 事業実績概要	【事業内容】 青山北部公園(約7千㎡)に移動式の木柵(約900㎡)を設置し、ヒツジを飼育しました。 柵は、三重県産(伊賀)の木材で作製し、地域の山林環境の保全と、地域の木材で作られた柵ということで来園者により身近に感じてもらい、木材利用の多様な可能性と「みえ森と緑の県民税」の役割をPRしました。 ヒツジによる環境にやさしい除草作業で、木と動物を身近に感じてもらえる地域交流の場となりました。 ヒツジ小屋の壁となる木板に、近隣にある保育園の園児に絵を描いてもらい、木に触れてもらいました。 公園近隣で開催された夏祭り(来場:約3千名)にブースを設け、当該事業の取り組みをPRしました。 【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 伊賀市 【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。 【箇所数】 青山北部公園内 1箇所 【事業量】 柵:材積11.33㎡ 扉:材積0.16㎡ 小屋:材積1.38㎡ 木製ベンチ:材積0.10㎡ 【事業実施期間】 平成29年6月1日から平成29年11月30日 【受益者、参加者、利用者数等】 施設利用者 9,500 人(青山地域人口) 「おひろめえ会」参加園児40名
3. 有効性	【実施箇所の選定理由】 伊賀市青山地域の中心部に位置する都市公園で、おのずと人の注目を集めやすい公園であるため。 【実施した効果】 特にヒツジ飼育中の休日は人が途切れる事の無い程の来客があり、その後も木製ベンチで休憩されている方がよく見かけられ、木と身近にふれあう空間が創造できた。 【実施箇所の今後の管理体制】 公園への出入りは基本的に自由に行える状況になっているので、柵やベンチは自由に利用してもらえる様にしている。また、市役所内の他部署から要請があった場合は貸出しも行う。 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 夏季はヒツジ飼育により、人と木と動物のふれあいの場とします。また、要望があれば他の施設への移動し、より多くの方々にふれあってもらえる様にします。冬季は柵はドッグラン等に利用できる様に開放し、ベンチは自由に利用できる様に設置しておきます。 【実施内容に対する住民等の反応】 散歩等に併せて来園される事を日課にされている方が居られたり、木柵についての問合せや、ヒツジ返却後には惜しまれる内容のメールが寄せられたり、親しみを持たれた方が多く居られた。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
8	基 本	青山北部公園SHEEP(自然と人の縁でEnjoy Project)
事 業 費	1,946,011 円(うち交付金	1,772,280 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 柵の購入にあたっては、市の規則に基づき指名競争入札を行った。 【実施方法の選定理由】 移動式の柵を物品の購入により、設置や移動は市職員によって行う。 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札 落札率:85.8% 【契約相手方の選定理由】 入札結果による。 【事業費の積算根拠】 概算見積書の徴収による。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 伊賀市青山地域の中心部に位置することから、青山地域の人口9,500人 「おひろめえ会」参加園児40名 【管理責任者（森林所有者）への対応】 市の都市公園であるため、該当しない。 【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市の都市公園であるため、該当しない。 物品については、市や自治協議会が行う事業で公共性があると判断できるものに関しては貸出しを行う。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 伊賀市HPや、FaceBookに掲載し、近隣の住民には回覧等で案内しました。また、ヒツジ小屋の壁面となる木板に保育園児に絵を描いてもらい、園児や保護者にPRしました。(4～6月) 【実施中の実績】 木柵にロゴマークの焼印をしました。伊賀市HPや、FaceBookで発信し、夏祭りでは紹介ブースを設置しPRしました。また、当初に行った「おひろめえ会」についてはケーブルテレビの放送や新聞に掲載されました。(6～11月) 【実施後の実績】 伊賀市HPや、FaceBookで発信し、イベントでのパネル展や「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。 【今後の見込】 今後も「みえ森と緑の県民税」を財源とした施設として、夏季はヒツジ飼育により、人と木と動物のふれあいの場とします。また、要望があれば他の施設への移動し、より多くの方々にふれあってもらえる様にします。冬季は柵はドッグラン等に利用できる様に開放し、ベンチは自由に利用できる様に設置し、継続的にPRを行います。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

伊賀市

事業名

青山北部公園SHEEP(自然と人の縁でEnjoy Project)

7. 写真



写真1

「おひろめえ会」のようす



写真2

小屋の壁となる木板に、保育園の園児に描いてもらった



写真3

「おひろめえ会」のようす



写真4

「おひろめえ会」のようす



写真5

夏祭りでの紹介ブース



写真6

イベントでのパネル展に活用